IV.（徑五寸以下二寸以上ニシテ屈曲枝節多キモノ）	0,60	5,40	513.〃	459.〃
V.（風衆若ハ根材ノ類）	0,50	4,50	427.〃	363.〃

但雜木生木ノ重量ハ上表ノ實檢及他ノ實檢ニ基キ之ヲ平均シテ其比重ヲ1,069即チ一尺ノ重量ヲ九拾五貫目トス

松生木ノ重量ハ從來ノ實檢ニ基キ一尺ノ重量ハ拾五貫目ヲ標準トシテ算出セリ

番號一ノ實檢ハ最良材ヲ撰拔シタルモノナリト雖モ實檢ノ結果甚タ適當ナラサルヲ以テ之ヲ除ク又第四級以下ハ實檢數ナキモ書籍ニ依テ之ヲ求メタリ

右指令　明治廿五年五月林第一三九八號

廿五年三月發第三六號上申材積調査方法ノ件聞置ノ

第二　施業

○明治二十三年四月丙第一三一號達

森林ノ財産ヲ明確ナラシメ以テ之レカ經濟ノ基礎ヲ立サル可ラサルハ言ヲ俟サル義ニシテ且緊急ノ要務ニ有之候處一般ニ正確ナル施業按ヲ編製センニハ數多ノ年月ト多額ノ經費ヲ要シ容易ノ事業ニ非ラサレハ之カ編製ハ漸ヲ以テシ差向キ別紙雛形ニ據リ管內普ク假施業按ヲ編製シ來七月三十一日限差出ス可シ

（別紙雛形略ス）

○明治二十三年四月丙林第一三一號（山林局長）各大林區署ヘ通達

本月丙林第一三一號ヲ以テ假施業按編製方之義ニ付達セラレ候處既ニ施業按調製御差出ノ向モ候得共是ト云テ實測等精密ノ調査ヲ爲シタルニ非ラサルノミナラス僅々タル箇所ニシテ一般ヲ見ルニ由ナク然ルニ此際一層丁重ノ取調ヲ要スル義有之普ク本施業按編製迄ハ難差延ニ付這般云々達セラレタル義ニ候條右假施業按編製方ノ義ハ現今備付ノ官林臺帳若クハ既製ノ施業按ニ因テ可ナルモノハ之ニ因リ然ラサルモノハ實地ヲ踏査シ可成實際ニ齟齬セサル樣御取調相成度而テ該按ニ於ル每年ノ斫伐材積竝日御認可相成タル廿三年度斫伐按幷ニ先般御差出ノ廿四年度斫伐概算調ト比較ノ上若シ差違ヲ生シ之カ訂正ヲ要セサルヲ得サル場合モ有之候ハヽ事由ヲ詳悉シ御上申相成度

○明治二十四年四月農商務省訓令第十七號

今般森林施業ニ要スル諸案竝表附錄別冊ノ通リ相定メ來二十六年度ヨリ實施ス（諸表畧之）

但施業案編製心得及製圖式ハ山林局ヨリ送付ス

大林區署

施業諸案簿表說明附記載例

第一　面積簿

本簿ハ林地ノ反別ヲ詳ニスルモノニシテ一小林區毎ニ一括シ調製スヘシ

本簿ハ分テ左ノ十一欄トス

一　國　本欄ニハ林地所在ノ國名ヲ記入スヘシ

二　郡　本欄ニハ林地所在ノ郡名ヲ記入スヘシ

三　市町村　本欄ニハ林地所在ノ市町村名ヲ記入スヘシ

四　大字　本欄ニハ林班並ニ小班ノ所在位置ヲ明ニスルカ爲メニ其地ノ大字ヲ記入スヘシ

五　字　本欄ニハ前項ノ小字名ヲ記入スヘシ

六　保護區　各小林區ニ於テ林政上ノ關係ヨリ定メタル吏員ノ分擔區域ヲ云フモノニシテ本欄ニハ其番號ヲ羅馬數字ニテ記入スヘシ

七　林班小班（字）　凡ソ廣大ナル森林ハ伐採ノ順序ヲ正シ或ハ保護上及測量上ノ便利ヲ計ル等ノ爲メ之ヲ峯谷川道或ハ人工區劃線ニ由リテ適當ノ大サニ區劃スヘシ此區域ヲ名ケテ林班ト云ヒ其番號ハアラビヤ數字ニテ記入シ而シテ小班ハ一林班中林相ノ異ナル毎ニ一林班ヲ通シ片假名ヲ用ヒテ記號トナスヘシ

林班小班ノ名稱ヲ付セサルトキハ單ニ官林字名ヲ記入スヘシ

八　林地ノ項中立木地ノ欄ニハ現在樹木ノ生立メ林相ヲ爲ス所ノ面積ヲ小班毎ニ順記スヘシ

本立木地ノ欄ニハ點々少許ノ樹木ノ生存スル地並ニ現在立木ナキモ將來樹木ヲ生セシムヘキ地ノ面積ヲ記載スヘシ

九　除地本欄ニハ將來樹木ヲ植栽セサル官舍敷地沼湖河川道路不毛地等ノ面積ヲ記載スヘシ

又本欄及前欄ノ面積ハ保護區毎ニ小計ヲ附シ最尾ニ之カ總計ヲナシ以テ全小林區ノ面積ヲ詳カナラシムヘシ

十　摘要本欄ニハ除地ニアリテハ其種類未立木地ニ在リテハ未立木地トナリ或ハナシタル理由或ハ點生セル樹木アルトキハ其種類ヲ概記スヘシ

十一　備考　本欄ニハ林地ニ異動アリタルトキ其事由並ニ之ニ關スル參照ノ要件其他必用ノ事項ヲ記入スヘシ（本欄記載例參觀）

第二　林況簿

面積簿ノ調製成リタルトキハ一小林區ヲ通シ現在ノ林況ヲ調査シテ本簿ヲ作ルヘシ本簿ハ別チテ左ノ十三欄トナス

一　保護區

二　林班小班（字）

三　面積

以上三欄ノ記載方ハ面積簿ト異ナルコトナク只本簿ニハ除地ヲ除ク別アルノミ

四　林木種本欄ニハ樹種名ヲ記載シ數樹種混生スルトキハ其混淆歩合樹種及樹齡ヲ記入スヘシ即チ數樹種混淆スレハ多ク存在スル者ヨリ始メ片假名ニテ順次ニ其名ヲ列記シ各樹混淆ノ割合及樹齡ハ數字ヲ以テ之ヲ示スヘシ

（例ヘハ喬林ニシテスギ五分サワラ三分ヒノキ二分ヲ存シ年齡ハスギ二十年乃至三十年サワラ四十年乃至八十年ヒノキ五十年乃至百年ヲ示スカ如シ）

5 スギ 20–30
3 サワラ 40–80
2 ヒノキ 50–100

竹ニ在リテハ林齢已下三欄ヲ塡記セス周圍ノ等級ニ別チタル本數並ニ束數ヲ記シ材積ノ欄ニハ合計シタル毎町歩及總町歩ノ束數ヲ記スヘシ

（本欄記載例參觀）

五

林齢全林ノ樹木盡ク同時ノ栽植ニ係リタルトキハ其樹齢ハ即チ林齢ト全一ナリト雖トモ其一部分ノ樹木ハ七十年生他ノ一部分ノ樹木ハ十年生ナルトキハ其林齢ハ七十年ニモ非ラス十年ニモ非ラス又七十年ト十年トヲ平均シタル四十年ニモ非ス例ヘハ七十年生ノ樹木ノ在ル面積ヲ二十町歩十年生ノ樹木アル面積ヲ百町歩トナストキハ二十町歩ニ七十年ヲ乘シタルモノニ百町歩ニ十年ヲ乘シタルモノヲ加ヘ之ヲ百町歩ニ二十町歩ヲ加ヘタル百二十町歩ニテ除シ得ル所ノ二十年 $\frac{20\times70+100\times10}{100+20}$ ——即チ林齢ナリ

擇伐作業（各種ノ年度級又ハ樹種混淆セルモノニシテ伐期ニ達シタルモノヲ擇ヒ伐採スルコトニシテ）例ヘハ若干町歩中ニ生立スル總樹木ノ材積ヲ二千〇五十尺〆トナシ今其中ニ就テ十年生一千尺〆十四年生二百尺〆二十年生三百尺〆二十五年生五百尺〆廿八年生五十尺〆アルトキハ其林齢左ノ如シ

$$\frac{100+200+300+500+50}{\frac{100}{10}+\frac{200}{14}+\frac{300}{20}+\frac{500}{25}+\frac{50}{28}}=8,57$$

即チ四捨五入シテ十四年トナルカ如シ

林齢ハ右ノ二法ニ由リテ算出スルモノナリト雖モ二三ノ樹種相混淆シ其內ニ甲種ノ樹木ハ總立木ノ十分ノ六以上ノ割ヲ占ムルトキハ甲樹ノ年齢ヲ以テ直ニ林齢トナスヘシ又數樹種混淆セル場合ニアリテハ正確ノ林齢ヲ算出スル能ハサルカ故ニ其林齢ヲ記スルヲ要セス若シ之ヲ得ント欲セハ各樹種ニ就キ其平均齢ヲ算シテ之ヲ列記シ若シクハ尙略シテ妨ケナキ場合ニハ之ヲ平均シタルモノヲ用ユヘシ上木下木ト二段ヲ爲ストキハ個別ニ伐採セサルヘカラサルニ依リテ上木下木トノ年齢ヲ平均スルコト能ハサルナリ故ニ上木ハ樹毎種ニ年齢ヲ平均シテ上位ニ記シ下木ハ下木ノミニテ平均シ下位ニ記シ且之ニ括弧ヲ附スヘシ

六

年度級　喬林ノ年度ハ毎二十ケ年ヲ一級トシ之ヲ再別シテ二等トナスヘシ例之ハ齢一年ヨリ十年ニ至ルヲ第一級ノ一(I_1)齢十一年ヨリ廿年ニ至ルヲ第一級ノ二(I_2)ヲ總稱シテ第一級(I)齢廿一年ヨリ四十年ニ至ルヲ第二級(II)齢四十一年ヨリ齢六十年ニ至ルヲ第三級(III)齢六十一年ヨリ齢八十年ニ至ルヲ第四級(IV)齢八十一年ヨリ齢百年ニ至ルヲ第五級(V)トナス百年以上モ亦之ニ準ス

矮林ノ年度ハ毎五ケ年ヲ一級トナス即チ齢一年ヨリ齢五年ニ至ルヲ第一級(I)齢六年ヨリ齢十年ニ至ルヲ第二級(II)齢十一年ヨリ齢十五年ニ至ルヲ第三級(III)齢十六年ヨリ齢廿年ニ至ルヲ第四級(IV)トナス

本欄ニハ各小班ノ年度級ヲ羅馬數字I II III IV V等ヲ以テ顯ハスヘシ

擇伐作業ノ年度級ハ概畧ノ平均林齢ニ由リテ之ヲ揭クヘシ

地位　林位　ハ各之ヲ十等ニ別チ最上ヲ1.0最下ヲ0.1トナシ一小林區ヲ通觀シテ適宜等級ヲ定メ記入スヘシ

九

粗密ノ度ハ之ヲ十等ニ別チ最上ヲ1.0最下ヲ0.1トナシ倘一町歩當リノ平均本數ヲ記入スヘシ但本數ニハ（）ヲ附スヘシ

側之ハ樹梢相密合シ立木ノ數最適當ナルモノヲ疎密度ノ本位トシテ假ニ之ヲ1.0ト定メ立木ノ數最適當ノ度ニ達セサルモノハ總テ小數ヲ以テ之ヲ顯ハス例ヘハ立木ノ數適度數ノ十分ノ七或ハ十分ノ八等ナルトキハ0.7或ハ0.8ト記スルカ如シ

最適當ノ立木數ナルモノハ林齡ト林位トニ關スル者ナルカ故ニ一般ニ之カ定限ヲ下スヿ能ハサルナリ而シテ茲ニ本欄ヲ設クルノ要ハ重モニ透伐及補植ノ見込ヲ立ツルト材積ノ多寡ヲ比較スル等ニ必用ナルニ因ルモノニメ本欄ニ掲クル所ノ數ハ大畧ヲ記スルニ過キス又立木ノ數適度ノ十分二(0.2)以下ナルトキハ其立木地ハ之ヲ未立木地トナス

密度數ノ下段ニハ數字ニテ一町歩ニ付平均ノ立木數例ヘハ(3260)ヲ記スヘシ

十 材積ノ內每町ノ欄ニハ各小班ニ於テ一町歩ニ現在スル平均ノ材積ヲ尺〆ヲ單位トシテ記スヘシ

但尺〆未滿ハ之ヲ切捨ツヘシ

材積ハ目測或ハ標準木ニヨリテ算出スヘシ

混淆林ニ在リテハ各樹種每ニ或ハ針葉樹濶葉樹ノ二種ニ分チテ其材積ヲ掲クルヲ良トス

十一 平均生長ノ欄ニハ現時每一町歩ノ有スル材積ヲ其林齡ニテ除シタル者ヲ記スヘシ若シ輪伐期ノ平均生長量ヲ知ルトキハ茲ニ之ヲ記スルヲ良トス但シ其際ハ頭書ニ輪伐期ノ三字ヲ加フヘシ

十二 備考 本欄ニハ便宜必用ノ事項ヲ掲クヘシ

十三 將來施業ノ要略 林況調查ノ成績ハ以上ノ十四個ニ於テ悉ク之ヲ詳カニスルモノナリト雖モ茲ニ特ニ本欄ヲ設ケ後來ノ施業ノ要點ヲ略記スヘシ今其要ヲ例スレハ林種ヲ定メ間伐補植新植等ノ時期及其數量伐採時期ノ緩急ヲ要スルノ理由等ノ如シ（記載例本欄ニ就テ觀ルヘシ）

右ノ如ク諸欄ニ記入シタル上ハ終ニ横線ヲ引キ面積及ヒ材積ノ總計ヲ掲ケ（但シ木ト竹トヲ別ッヘシ）

林種作業種類樹種輪伐齡各異ナル每ニ一括シ其面積及材積ヲ掲クヘシ

第三 面積平分簿

本簿ハ施業按ヲ編製スルニ當リ各施業期ニ伐採スヘキ面積ヲシテ大差ナカラシメンカ爲メ林況簿ノ成績ニ基キ取捨計算ヲ爲スモノナリ而シテ其平分ハ各樹種每ニ順次之ヲ行フモノトス依テ初頭ニ林種作業種樹種及輪伐齡（擇伐作業ニ在テハ回歸年）ヲ掲クヘシ例之ハ

I. 喬林 1. 皆伐作業 輪伐齡六十年

2. 擇伐作業 回歸年四十年

イ. 松單純林

II. 矮林 皆伐作業 輪伐齡十五年

イ. 雜單純林

ト記スルカ如シ而シテ各欄內ノ記載法ハ左ニ示ス如シ

一 保護區 林班 小班（字）

二 面積

三

四　地位

五　林位

六　林齢

右ハ林況簿ヨリ轉載ス

七　現在ノ年度級　此欄ニハ面積平分ノ欄ト對比シ易カラシメンカ爲年度級（羅馬數字ニテ）I—20　21—40　II　ト記シ各欄ニ相當スル各小班ノ面積ヲ記入スヘシ（本欄記載例參觀）

八　面積平分ノ各欄ノ上頭ニテ施業期（羅馬數字ニテ）ト年度（アラビヤ數字ニテ）21—40トヲ記シ各欄ニ相當スル各小班ノ面積ヲ配記スルコト前項ノ如クスヘシ但喬林ニ在リテハ第一期ヲ分テ前半期（I_1）後半期（I_2）ト爲スヘシ

施業期ノ年數ハ喬林ニ在リテハ五ケ年ト爲ス即假リニ明治廿五年ヨリ起算スレハ喬林ニ於ケル第一施業期（I）ハ明治二十五年ヨリ明治四十四年迄ヲ第二施業期（II）ハ明治四十五年ヨリ明治六十四年迄ヲ云フ而ノ第一施業期ノ前半期ハ明治廿五年ヨリ明治廿九年迄ヲ云フ又矮林ニ於ケル第一施業期（I）ハ明治廿五年後半期トハ明治三十五年ヨリ明治四十四年迄ヲ云フ等ノ如シ故ニ喬林ニヨリ明治廿九年迄ヲ第二施業期（II）ハ明治三十年ヨリ明治三十四年迄ヲ云フ等ノ如シ故ニ喬林ニシテ若シ其輪伐齢六十年ナルキハ本項第四欄（第十）ノ頭書ヲ單ニ第三施業期（III）ト記スヘシト雖トモ其輪伐齢七十年或ハ八十年ナルトキハ第三施業期及第四施業期ノ前半期（III及IV前半）ト或ハ第三施業期及第四施業期（III及IV）ト記スヘシ例之ハ輪伐齢六十年、七十年、八十年ノ喬林ニ對スル本項ノ頭書法ヲ示スコト左ノ如シ

面積平分

第I期	前半期	自明治廿五年 至仝三十四年	第II期	第III期
	後半期			

輪伐齢60年ナレハ

第I期	前半期	自明治廿五年 至仝三十四年	第II期	第III期
	後半期			

輪伐齢70年ナレハ

第I期	前半期	自明治廿五年 至仝三十四年	第II期	第III期及IV前半期
	後半期			

輪伐齢80年ナレハ

第I期	前半期	自明治廿五年 至仝三十四年	第II期	第III期及IV前半期
	後半期			

又輪伐齢十五年及二十年ノ矮林ニ對スル本項ノ頭書法ヲ示スヘク左ノ如シ

面積平分

第I期	第II期	第III期
自明治廿五年 至仝廿九年	自明治三十年 至仝三十四年	自明治三十五年 至仝三十九年

輪伐齢15年ナレハ

第 I 期	第 II 期	第 III 期	第 IV 期
自明治廿五年 至仝 廿九年	自明治三十年 至仝 三十四年	自明治三十五年 至仝 三十九年	自明治四十年 至仝 四十四年

而シテ各小班ノ面積ヲ各欄内ニ分記スルニハ假ニ輪伐齢六十年トスレハ現今林齢十四年（即年度級Ⅰ）ノ者ハ今後四十六年目ニ伐採スヘキカ故ニ第Ⅲ期内ニ記シ現今林齢廿五年（即年度級Ⅱ）三十六年（即年度級Ⅱ）及四十七年（即年度級Ⅲ）ノ者ハ今後三十五年廿四年及十三年目ニ伐採スヘキカ故ニⅡ及Ⅰニ記入スルカ如シ又輪伐齢十五年ノ矮林トスレハ現今林齢三年（即年度級Ⅰ）七年（即年度級Ⅱ）及十二年（即年度級Ⅲ）ノ小班面積ハ今後十二年八年及三年ニシテ輪伐齢ニ達スルカ故ニⅢⅡⅠニ記入スヘキナリ

斯ク一樹種ノ各小班ヲ各施業期ニ配分スルノ後ハ其各期欄内記載ノ面積ヲ合計シテ彼此ノ差異如何ヲ對比スヘシ面積平分簿ハ前ニモ述フル如ク一樹種ノ全林地ヲ成ルヘク平等ニ各施業期ニ分配シ且ツ林業上諸般ノ關係ヲ鑑ミ伐採順序ノ良否被害等ノ爲特ニ伐採時期ヲ緩急スルヲ要スル者ノ外ハ總テ成ルヘク正當ノ輪伐齢ニ達シタル者ヲ伐採スルヲ目的トナス即Ⅰノ面積合計ハⅡ、Ⅲ、Ⅳ等ノ面積合計ニ等シキヲ要スルモノナリ「面積平分」ノ項中第四欄ニ、一期半、二期、二期半、等ノ面積ヲ合記スルニ當リテハ其合計ハ第一期ノ面積合計ノ一倍半、二倍、二倍半、等ト爲スヲ要スルヤ論ヲ俟タス故ニ各期欄下ノ面積合計ニ稍多キ差異ヲ來スキハ幾何ノ小班ニ於ケル全面積或ハ其幾部分ヲ上下ノ施業期ニ轉送セシメ例之ハⅡノ者ヲⅠニ繰上ケⅡノ者ヲⅣニ繰リ下ケル等ノ上下ヲナシ其平等分配ノ目的ヲ達セシムヘシ但其轉送ヲ施スニ於テハ其原位置ニ記載シアル數字ハ赤色ノ箭形ヲ以テ引消スヘシ而シテ其箭ノ尖端ハ送リ込ミタル欄ニ向

ケテ書クヘシ且面積ノ幾部分ヲ送ル場合ニハ其幾數又ハ新ニ送ラレタル數量ヲ原數ノ上位ニ黒書スヘシ合計モ亦同樣ノ手續ヲナスヘシ

以上陳述シタル面積平分法ハ皆伐作業ニノミ之ヲ施ス者ニシテ擇伐作業ニ在リテハ又他ノ法ヲ用ユ則チ擇伐作業ニ在リテハ皆伐作業ノ如ク輪伐齢ヲ定ムルノ必要ナクシテ其伐採スヘキ區域順序等ハ總テ所謂回歸年ナルモノニ據リテ之ヲ定ムルモノトス回歸年トハ一林班或ハ數林班ノ一點ヨリ漸次擇伐進行シ終ニ全部ヲ通シテ其終點ニ達シ再ヒ始點ニ回歸スルノ年限ヲ云フ此回歸年ハ林種及林況ノ如何ニ由リテ之ヲ異ニスヘシト雖モ通例ハ主要ナル樹種ノ適當ナル伐期齢ノ二分ノ一三分ノ一或ハ四分ノ一ト爲スヲ適當トス然レ𪜈場合ニヨリ樹種中ノ最低輪伐齢ヲ用ヰルモ妨ケナシ而シテ擇伐作業ニ於ケル記入タル單ニ其一欄内ニ向フ十ケ年間ニ擇伐スヘキ小班ノ面積ヲ記スルナリ其向フ十ケ年間ニ擇伐スヘキ面積ハ回歸年ニテ全面積ヲ除シ其得數ニ10ヲ乘シテ（例之ハ全部ノ面積ヲ五百四十町トシ回歸年ヲ三十年トスレハ $\frac{540}{30}\times 10=180$町）算出シ其算定面積丈ケヲ施業順序ノ便利ニシテ且輪伐齢ニ近キ樹木ヲ有スル林班小班中ヨリ撰出スルニ在リ

九　備考　各小班ノ面積ヲ各施業期中ニ平等分配シタルノ多少及理由等ノ說明又ハ參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ

第四　材積平分簿

本簿ハ年々收獲スル所ノ材積ヲシテ平等ナラシメンカ爲メ先ツ各施業期間ノ材積ヲ平分スルヲ以テ目的トナス其平分ハ猶面積平分簿ニ於ケル作業種、樹種及輪伐齢ヲ掲クヘシ（面積平分簿ノ例ニ據ル）但擇伐作業矮林ハ之ヲ要セス各欄ノ記載方ハ左ノ如シ

一　保護區
二　林班（小班）（字）
三　面積
四　地位
五　林位
六　林齡
以上六欄ハ面積平分簿ヨリ轉載ス
七　現在材積
八　生長量（平均）
九　年度級
以上ノ三欄ハ林況簿ヨリ轉載ス
十　施業期ハ面積平分簿面積平分ノ欄ヨリ轉載ス
十一　伐期齡トハ伐採サルヽ時期ニ於ケル平均ノ年齡ヲ云フ即現在ノ林齡ニ現在ヨリ起算シテ面積平分ニ於テ各小班ノ編入サレタル施行分期間ノ半期ニ至ル迄ノ年數ヲ加ヘタル者ヲ云フ例之ハ齡十五年ノ喬林ニシテ第二施業期ニ編入サレタル者ハ其齡十五年ニ三十ケ年（第一施業期二十ケ年ト第二施業期ノ半期十ケ年トノ加）ヲ加ヘテ四十五年トシ齡五十六年ノ喬林ニシテ第一施業期ノ前年期ニ編入サレタル者ハ齡五十六年ニ五年（即第一期前半期ノ半數）ヲ加ヘテ六十一年トスルカ如シ故ニ喬林ニ於テハ平均伐期齡ヲ得ルカ爲メニ現在ノ林齡ニ加フヘキ年數ハ左ノ如シ

編入サレタル期　加フヘキ年數

I（第一施業期）ナレハ　十年
I₁（第一施業期ノ前半期）I₂（第一施業期ノ後半期）ナレハ　五年
II（第二施業期）ナレハ　十五年
III（第三施業期）ナレハ　二十年
IV（第四施業期）ナレハ　五十年
V（第五施業期）ナレハ　七十年
又矮林ニ在リテハ施業期ハ五ケ年ナルカ故ニ現在ノ林齡ニ加算スヘキ數左ノ如シ

編入サレタル期　加フヘキ年數

I（第一施業期）ナレハ　二年半
II（第二施業期）ナレハ　七年半
III（第三施業期）ナレハ　十二年半
IV（第四施業期）ナレハ　十七年半

以上ノ欄ハ面積平分簿ニ於テ平分ニ據リ定リタル所ノ施業期ヲ記入シ之ニ據テ各小班ノ平均伐期齡ヲ定メテ記入スヘシ

十二　伐期材積本欄ハ前欄平均伐期齡ニ平均生長量ヲ乘シタルモノヲ記入ス

十三　材積平分ノ各欄ノ上頭ニハ施業期（羅馬數字ニテ）ト其年限　明治25—34ト云フヲ記シ欄内ニハ當該期間ニ輪伐齡ニ達スヘキ小班ノ材積ヲ算出記入ス其材積ヲ算出スルニハ現在材

積ニ伐期迄ノ生長量ヲ加ヘタルモノニテ即チ伐期迄ノ生長量ハ現在ヨリ伐期迄ノ年數ニ一町歩ニ付テノ平均生長並ニ小班ノ面積ヲ乘シテ之ヲ得ルナリ但林木ノ連年生長ハ齢ノ高低ニ由リテ其差異アルモノナルカ故ニ已ニ十年後ノ生長ハ平均生長ニ依リテハ綿密ニ之ヲ求メ難シ因テ伐期迄ノ生長ヲ求ムルニハ宜シク林位ト連年生長ノ昇降如何トニ注意シテ之ヲ定ムヘシ故ニ平均生長量ニ代フルニ力メテ伐期平均生長量ヲ用フルヲ良トス既ニ材量表ノ綿密ナルモノヲ調製シ得タル林區ハ之ヲ用ヒテ計算スヘシ其施業期ト年限トノ記載法ハ面積平分簿ニ準ス而シテ材積ノ平分ハII期迄ヲ限リトス

斯ク一樹種各小班ノ材積ヲ各施業期ニ分配シ各期欄内記載ノ材積ヲ合計シ之ヲ對比スヘシ然ルトキハI_1ノ材積トI_2ノ材積ト或ハI_1I_2ヲ合計シタル材積トIIノ材積ト多少差違アルヲ見出スヘシ是ニ於テ之ヲ平均セシメントスルニハIIトIノ間ノ材積或ハI_1トI_2トノ材積ヲ上下シ可成的平等ニ近カラシメ以テ平等分配ノ目的ヲ達スヘシ斯ノ如クシテ材積ヲ上下セシムルトキハ從テ其面積モ之ヲ上下セシメサルヘカラス爲メニ面積平分簿ニテ平分シタル面積ニ多少ノ差違ヲ生スルハ又免ルヘカラサル所ナリ因テ其上下シタル所ノ面積ハ之ヲ備考欄内ニ掲ケテ施業按ニ轉載スルノ用ニ供スヘシ而シテ其轉送スルニ至リ原位置ノ數字ハ赤色ノ箭形ヲ以テ之ヲ引消シ其箭端ハ送リタル欄ニ向ケテ畫キ又其幾部分ヲ送リタル塲合ニハ其殘數又新ニ送ラレタルトキハ其數量ヲ原位置ノ上位ニ記スヘシ、

十四　備考　各小班ノ材積ヲ各施業期中ニ平等ニ分配シタルノ多少及理由又ハ參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第五　施業按

本按ハ面積平分簿及材積平分簿ニ由リテ平等ニ分配シタル各樹種ノ面積及材積ヲ記入シ林業ヲ永遠ニ保續經營スルノ基礎トナルモノ即諸簿中最要ノモノナリ

本按ノ記載法ハ左ノ如シ

一　國、二　郡、三　市町村、四　大字、五　字、

六　保護區

七　林班 小班（字）

八　面積

九　地位

十　林位

以上各項ハ前諸簿ヨリ轉載ス；

十一　現在林況ノ部ハ之ヲ分テ林木種、林齢、毎町材積、總材積及平均生長量ノ五欄トシ前簿ヨリ轉載ス

十二　平均伐期齢　前簿ヨリ轉載スヘシ

十三　明治何年後施業豫定ノ部ハ之ヲ施業分期數ト等シキ數欄ニ分チ之ニI_1 I_2 II III等ノ期限ヲ記入シ之ヲ又伐採面積ト材積（III期以下ハ之ヲ除ク）トノ二欄ニ分チI期ノ材積ノ欄ヲ又主伐（平均伐期齢ニ達シタル時期ニ於テ伐採スル收獲）ト間伐（平均伐期齢ニ達スル以前ニ於テ手入ノ爲メ伐採スル收獲）トノ二欄ニ分ツヘシ

本按ハ喬林皆伐作業擇伐作業及矮林皆伐作業ノ三種ニ由リテ之ヲ異ニス

喬林ニ在リテハ第一及第二施業期ノミ材積平分簿ニ由リ平分シタル材積ト面積トヲ記入

シIII期以下ハ單ニ面積簿ニ於テ平分シタル面積ノミヲ記スヘシ

天然下種作業ノ施業按又之ニ準ス

矮林施業按ニ在リテハ材積ヲ平分スルヲ要セサルカ故ニ本項中面積ノ欄ニハ面積平分簿中ニ撰定シタル面積ヲ轉記シ然後先ッ其伐期齢ヲ記入シ次ニ現在材積ニ伐期迄ノ生長量ヲ加ヘタル者ヲ算出シ之ヲ「材積」ノ欄内ニ記入スヘシ

又擇伐作業ノ施業按ニ在リテハ皆伐作業及矮林施業按ノ平均伐期齢ニ代フルニ各林木伐期齢ヲ以テシ施業豫定ハ之ヲ又I₁(前半期)ニ止メ之ヲ伐採面積伐採材積ノ二欄ニ分チ總面積ヲ回歸年ニテ除シ之ニ十年ヲ乘シタル面積(今後十ケ年間ニ擇伐ヲ施スヘキ面積)ヲI₁ノ伐採面積ノ欄ニハ回歸年ニテ主樹ノ伐期又ハ平均齢ヲ除シ其得數ヲ以テ再ヒ前記ノ面積ニ存スル總材積ヲ除シタル者ヲ記スヘシ例ヘハ回歸年ヲ四十年主樹ノ伐期齢ヲ百二十年トスレハ $\frac{120}{40}=3$ ヲ以テ現在材積ヲ除シ得ル所ノ數量ヲ記スルカ如シ擇伐作業ニ在リテハ面積並ニ材積ヲシテ皆伐作業ニ於ケルカ如ク綿密ニ之ヲ平等ニ分配スルコト能ハサルモノニテ且I₂以上ノ期ニ對スル材積ハ之ヲ定ムルヲ要セサル者トス

間伐ハ重ニ喬林皆伐作業ニ在リテ施行スル者ニテ本項ニ記入スルハ第一期間ニ止ムヘシ

右ノ外年々ノ諸豫算簿總括簿處分實行簿等ノ簿式アレトモ別ニ說明ヲ附セサルヲ以テ各簿ニ就キ記載方ヲ參觀スヘシ但施業按中ニアル數量(喬林ニアッテハ十分ノ一矮林ニアッテハ五分ノ一)ヲ分配スルモノナリト知ルヘシ

施業按編製心得

第一章　總則

第一條　森林ヲ保護シ之ヲ永遠ニ保續セシメ常ニ左ノ三項ニ注意スヘシ

一　常ニ完全ノ林相ヲ維持シ力メテ將來最多ノ材積ヲ產出セシムルコト

二　適實ナル植伐法ヲ施行シ力メテ風火災及虫害ヲ豫防スルコト

三　前項ノ被害若クハ其他ノ關係ニ據ル收額ノ減少ヲ豫想シ之レカ豫備ヲナスコト

第二條　施業按ヲ調製スルニ當テハ左ノ業務ヲ執行スヘシ

一　林地ヲ實測シ若クハ既成ノ境界圖ヲ寫用シテ基本圖ヲ製スルコト

二　施業ノ便否及ヒ實地ノ狀況ヲ參酌シテ林地ヲ(小林區保護區林班小班ニ)區劃スルコト

三　前項ノ各區域ハ之ヲ實測シ林相圖及ヒ面積簿ヲ製スルコト

四　各小班ニ付材積ノ測定及地位林位ノ撿定ヲナシ林況簿ヲ製スルコト

第三條　前條ノ調查ヲ終レハ各小班ニ於ケル將來施業ノ方法ヲ考按シテ作業級ヲ定ムヘシ

第四條　施業期ハ喬林ヲ二十年矮林ヲ五年トス

第五條　施業按ハ林種作業ノ種類及輪伐齢ノ異ナル毎ニ即作業級毎ニ一小林區ヲ通シテ調製スヘシ

第二章　林地區劃及製圖

第六條　林地ノ區劃ハ地形及施業ノ便否ヲ斟酌シ一林班ノ面積ハ拾町歩以上五拾町歩以內ニ於テ之ヲ撰定スヘシ

但實地ノ地形ニ據リ此制限ニ據ルヘカラサルトキハ此限ニアラス

第七條　既ニ官林境界測量內規ニ據リ實測ヲ了ヘタル場所ハ直ニ其境界圖ヲ寫用シテ基本圖及林相圖ヲ製スヘシ

第八條　基本圖及林相圖ノ記載例ハ總テ製圖式心得ニ準據スヘシ

第九條　點々散在スル處ノ少町歩ノ森林ハ之ヲ一個ノ林班トナスモ妨ケナシ

第十條　林班ハ天然若クハ人造ノ區域ヲ以テ區劃シ其番號ハ一小林區ヲ通シテ付スヘシ但番號ノ數百ニ到ルモノハ便宜一保護區或ハ郡村毎ニ之ヲ改ルモ妨ケナシ

第十一條　天然ノ區劃ハ峯谷或ハ山ノ向背其他在來ノ水流溝渠堤防及道路ニ據ルヘシ

第十二條　林班ハ可成長方形トナル樣區劃スルヲ良トス

第十三條　一林班中林相ヲ異ニスルモノアレハ之ヲ區別スルニ及ハス

但大森林ニ在テハ五反歩以下ノ林相ハ之ヲ區別スルヲ要セス

第十四條　林班ノ界線タル主線ハ五間以内支線ハ二間以内ヲ度トシテ之ヲ設クヘシ

但地勢ノ難易其他ノ事情ヲ參酌シテ之ヲ伸縮スルハ此限ニアラス

第三章　林況調査

第十五條　既ニ前條ノ業務ヲ了ルトキハ各小班ニ付樹種年齡地位林位ヲ査定シ及其材積ヲ測定シテ林況簿ヲ調製スヘシ

第十六條　地位ヲ檢定スルニハ各小班ノ位置土性氣候其他ノ關係ニ據リ之ヲ十等ニ別チテ1,0ヲ最上位0,1ヲ最下位トシ適宜等級ヲ定ムヘシ

第十七條　林位ハ各小班毎町歩ノ材積ヲ算出シ全樹種全年度ノ林相中適當材積ヲ有スルモノヲ1,0トシ最下位ヲ0,1トシ地位ト全シク之ヲ十等ニ區別スヘシ

第十八條　材積ヲ測算スルニハ全一林相中疎密相平均セル場所ニ於テ壹反歩以上ノ標準地ヲ撰ヒ其内ヨリ平均木即チ標準木ヲ撰出シ其材積ヲ測定シテ全林ノ材積ヲ推算スヘシ

但疎密適度ノ場所ヲ發見セサルトキハ二三ケ所ニ標準地ヲ設ケ又適當ノ標準木ナキトキハ大中小數本ニ就キ之ヲ平均シテ算出スルモ妨ナシ

第十九條　一小林區内ノ各小班ニ就キ悉ク以上ノ調査ヲ了ルトキハ林況簿ニ記載スヘキ材料ヲ蒐集シ得ルカ故ニ是ニ於テ將來施業ノ方按ヲ立テ當該欄内ヘ其要略ヲ記シ以テ施業按編製ノ業務ニ移ルヘシ

第二十條　將來施業上ノ都合若クハ其他ノ事情ニ據リ現在ノ林種ヲ變換スルノ目的ヲ以テ喬林ヲ矮林ニ編入シ又ハ矮林ヲ喬林ニ編入スルモ妨ケナシ

第四章　施業按調製

第廿一條　前章ノ調査ヲ了ヘテ林況簿ヲ製シ將來施業ノ要略ヲ記入シ之ヲ蒐集シテ各作業級ニ編入スヘキ小班ヲ定ムルトキハ各作業級毎ニ面積平分簿ヲ製シテ面積ノ平分ヲナスヘシ

第廿二條　一作業級ハ必スシモ相連續スル一森林タルヲ要セス數個ノ森林或ハ其一小部分ヨリ組立ルヿヲ得

第廿三條　他ニ同一林相ナキ特別ノ一林相アルモ面積僅少ニシテ一作業等級トナスヘカラサルトキハ一タヒ伐採スルノ後ハ之ヲ變換スルノ目的ヲ以テ適當ノ作業級ニ編入シ若クハ類似ノ作業級ニ合併施業スルコトヲ得ヘシ

第廿四條　既ニ面積ノ平分ヲ了レハ材積平分簿ヲ製シ材積ノ平分ヲナスヘシ

但矮林及ヒ擇伐作業ヲ施ス喬林ニアッテハ之ヲ要セス

第廿五條　一作業級ハ力メテ連年作業ヲ施シ得ヘキ面積ヲ以テ組立ッヘシ

第廿六條　各作業級其ニ生長ヲ增大スルヲ主旨トシ年度級ノ配置ヲ正シクシテ法正ノ材量ヲ豫備

スルヲ力ムヘシ

第廿七條　既ニ前各條ノ面積及ヒ材積ノ平分ヲ了レハ之ニ據テ生スル所ノ面積材積ノ得數ヲ移載シテ施業按ヲ調製スヘシ

第廿八條　施業按ハ之ヲ別テ喬林施業按及矮林施業按ノ二種トシ各作業級ニ分ツヘシ

第廿九條　混合林ニシテ其各樹ノ正當ノ輪伐齢相異ナルニ於テハ彼是折衷ノ輪伐齢ヲ以テ該林ノ輪伐齢トナスヘシ

但貴重ノ樹種極テ少數ナルカ爲メ他樹伐採ノ後之ヲ存置ノ大材トナス場合ハ此限ニアラス

第三十條　水源涵養林土砂扞止林及風致林其他國土ノ保安ニ關シ皆伐作業ヲ施ス能ハサル場所ニ於テハ總テ擇伐作業ヲ施シ其他ノ森林ハ可成皆伐作業ヲ施スヘシ

第三十一條　材積ハ總テ尺〆(十二立方尺)ヲ單位トシテ之ヲ掲クヘシ

第三十二條　喬林幷矮林施業按ニハ第二期ニ至ル迄材積ヲ顯シ第三期以下ハ只伐採面積ヲ記載スヘシ但シ擇伐作業ニ在テハ第一期前半期(十ケ年間)ノ面積及材積ヲ記載スルヲ以テ足レリトス

第三十三條　喬林施業按ニ在テハ第一期材積ノ欄内ニ間伐ノ欄ヲ設ケテ其材積ヲ記載スヘシ但其材積ハ當該林相ノ疎密ニ據リ適宜之ヲ定ムヘシ

第五章　附則

第三十四條　本心得ニ要スル所ノ諸按簿表ノ記載例ハ別冊施業諸按簿表說明書ニ據ルヘシ

第三十五條　面積簿全異動記載簿林況簿面積平分簿材積平分簿及各施業按ハ十ケ年間目毎ニ之ヲ更製スヘシ

第三十六條　面積簿林況簿及各施業按一通ハ之ヲ本省ヘ差出スヘシ

森林圖式

繪畫ノ部

一第1、2及4圖ノ色緣ノ色ハ淡薄ニ過キタリ較々之ヨリ濃クスルヲ良トス

一第19圖ノ國道ノ兩緣ノ二重線間ニ着色アルハ誤リニテ空白ニ存置スルモノトス

一第24圖ノ濃紅曲線ノ殊ニ外方ニ接近ノ部ハ更ニ地面ノ色ヨリ較々濃キ洋紅液ヲ以テ塗リ其陰影ヲ明瞭ナラシムヘシ

一第26圖中陰影內ニ微ニ線ノ顯ハレタルハ誤リニテ陰影ハ「ボカス」ヘシ

一第31圖ノ下ニ陰影ヲ附シタルハ誤ナリ

一第38及ヒ39圖ノ北針ノ羽箭形ヲ顯ハス左方ノ線ハ細ク右方ノ線ハ太クスヘシ

一第41圖ノ橋ヲ顯ハス弧線間ニ藍線ヲ引キ延ハシタルハ誤リナリ

一第45圖ノ藍色ハ一面ノ「ボカシ」ト爲スヘシ點記ス可カラス

一第46圖ノ川ハ一面ニ藍色ニ塗リテ上方ニ陰影ヲ附スヘシ

一第59 60 61及ヒ62圖ノ第五級及ヒ第六級ハ最濃色ニ塗リ第六級ノミハ更ニ「アラビヤゴム」液ヲ塗ルモノトス第五級ニ「アラビヤゴム」液ヲ塗レルハ誤ナリ

一第64及69圖中ノ小樹形ノ卵圓點ノ右邊ニハ明瞭ニ黒線ヲ引キテ陰影ヲ示スヘシ

注意

凡ソ圖畫ノ着色濃淡ノ適度ハ我邦ノ如ク未タ印刷術ノ發達セサルニ在リテ着色版ニ之ヲ顯ハスハ

極メテ難ク一々自在ニ之ヲ畫クニ非サレハ到底其當ヲ得ル能ハスト雖本圖ハ夥多之ヲ要スルニヨリ已ヲ得ス色摺ト爲セリ依テ畫者ハ宜シク注意アルヘシ

森林圖式總則

第一條　森林圖ハ左ノ二種トス

一　基本圖

二　林相圖

第二條　森林圖ノ渲彩ノ爲メニ使用スヘキ彩料ハ左ノ十三種トス

一　墨

二　朱

三　洋紅

四　青藍

五　藤紫

六　雌黃

七　岱赭

八　綠青

九　草綠

十　茶褐

十一　樺

十二　胡粉

十三　赤「インキ」

第三條　製圖用紙ハ縱二尺五寸橫三尺ノ圖紙ヲ用ユヘシ

第四條　森林圖ハ常ニ北ヲ上ニ向ケ子午線ノ方向ハ圖廓ト平行セシムルヲ通則トス北針ハ力メテ凡例ノ位置ニ反對シテ上方ニ之ヲ畫クヘシ

第一編　基本圖

第一章　通則

第五條　基本圖ハ縮尺五千分ノ一ニ製シ最數學的ニ精密ナルヲ要ス故ニ之ヲ畫クニハ極メテ注意シ諸線及物體ノ長短位置等ヲシテ實測シタルモノト毫厘ノ差異ナカラシムヘシ

第六條　基本圖ハ後來寫圖ノ原料ナルヲ以テ特別ノ因由アルニアラサレハ之ヲ改ムルコトナシ且林區內ノ變更沿革ヲ永遠ニ證明スヘキモノナルカ故ニ圖上ノ一點タリトモ塗抹改竄スヘカラス但止ムヲ得サル塲合（例ヘハ不明瞭或ハ疑惑ヲ生スル等）ニ在リテハ只其部分ニ線ヲ引キテ其記號トナスヘシ

第七條　基本圖ハ十ケ年毎ニ之ヲ修正スルモノトス

第二章　基本圖中ニ記入スヘキ諸物

第一款　境界標、豫備標及三角點

第八條　境界石及豫備石　境界石ヲ顯ハスニハ洋紅ノ正方形ヲ畫キ豫備石ヲ顯ハスニハ朱ノ正方形ヲ畫キ各々石ノ位置ヲ示ス所ノ針跡ヲシテ其正方形ノ中心ニアラシメ正方形ノ一邊ノ長サハ三米突（圖中ニ記載スヘキ物体ノ尺度ハ總テ縮尺ヲ以テ測リタル量ニ之ヲ掲ク）トナスヘシ且境界石ニ在リテハ正方形ノ邊ノ向キヲシテ圖廓ノ向キト平行セシメ豫備石ニ在リテハ邊ノ向キヲメ道ノ向キト平行セシムヘシ（第1圖參觀）

第九條　天然ノ境界石及豫備石　天然ノ境界石ハ洋紅ヲ用ヒ天然ノ豫備石ハ朱ヲ用ヒテ直徑三米

突ノ圏ヲ畫キ尚墨ニテ外圏四處ニ小點ヲ附シテ之ヲ顯ハス但其小點ハ他線ト一致セシムヘカラス(第2圖)

第十條　境界木標ハ洋紅ニテ直徑四米突ノ圏ヲ畫キテ之ヲ顯ハス(第2圖)

第十一條　境界土壘ハ墨ニテ直徑五米突ノ圏ヲ畫キ之ヲ顯ハス土壘ノ中央ニ尚木標ヲ建設スルトキハ墨圏内ニ洋紅ノ小點ヲ畫クヘシ(第3圖)

第十二條　境界樹ハ墨ニテ直徑四米突ノ小圏上ニ箭鏃形ヲ附シタルモノヲ畫キテ之ヲ顯ハス(第4圖)

第十三條　參謀本部陸地測量部ニ於テ設置シタル三角測量點ヲ顯ハスニハ墨ニテ正三角形ヲ畫クヘシ且其三角形ノ一邊ノ長サハ一等三角點ハ十米突二等三角點ハ五米突三等以下ノ點ハ三米突ト爲スヘシ

但三角形ノ底邊ヲシテ圖紙ノ横罫ト平行セシムヘシ

第二款　境界線

第十四條　境界線ハ一米突乃至一、五米突ノ幅ヲ有スル墨線ヲ以テ之ヲ顯ハス

第十五條　境界溝ハ墨ニテ直線ヲ引キ三米突ツヽヲ隔テ、其線ノ各點ニ向ケ線ノ左右ヨリ長サ四米突ノ平行線數條ヲ鋭角ノ向キニ引キテ之ヲ顯ハス(第3圖)

第十六條　境界墻壁ハ一米突乃至五米突ノ幅ヲ有スル濃キ洋紅線ヲ以テ之ヲ顯ハス(第3圖)

第十七條　爭論アル境界ハ墨ニテ點線ヲ引クヘシ(第4圖)

第三款　行政區界

第十八條　府縣界ハ幅五米突長サ七、五米突ノ線ヲ七、五米突ツヽ、隔テ、引キ其虚部ニ直徑二米突ノ一圓點ヲ添加シテ之ヲ示ス但其小點ハ他線ト一致セシムヘカラス(第5圖)

第十九條　國界ハ幅一、五米突長サ七、五米突虚部一、五米突ナル點線ヲ以テ示ス(第6圖)

第二十條　郡界及市界ハ幅一、五米突長サ五米突ノ線ヲ十米突ツヽ、隔テ、引キ其虚部ニ直徑一、五米突ナル二圓點ヲ添加シテ之ヲ示ス(第7圖)

第二十一條　町村界ハ幅零、五米突長サ七、五米突ノ線ヲ七、五米突ツヽ、隔テ、引キ其虚部ニ直徑零、五米突ナル圓點ヲ加入スル者ヲ以テ示ス(第8圖)

第二十二條　字界ハ幅四分ノ一米突ノ點線ヲ以テ示ス

第四款　境界色緣

第二十三條　境界線ニハ外部ニ接シテ幅十五米突ノ色緣ヲ附スルモノトス

第二十四條　色緣ヲ畫クニハ左ノ彩料ヲ用ユ

一　民有地トノ境界ニハ洋紅ノ稀薄液ニ赤「インキ」二三滴ヲ加ヘタルモノヲ用ユ(第1圖第2圖第4圖)

二　官有地トノ境界ニハ藤紫色液ヲ用ユ(第3圖)

第二十五條　色ヲ異ニスル境界線ノ互ニ相接スル場所ニハ細墨線ヲ畫キテ林區外ノ官民有地ノ境ノ向キヲ示シ又林區外ノ町村界ハ緣色ノ同不同ニ關セス箭(第1圖)ヲ以テ之ヲ示ス

第五款　除地

第二十六條　基本圖ニ在リテハ苗圃及區劃主線ヲ除クノ外除地ノ面ハ悪ク着色シ林地面ハ空白ニ存置スルモノトス

第二十七條　森林圖ニ在リテハ光線ハ圖面ノ左方ノ上隅ヨリ來ルモノト想定スルヲ法トス故ニ地

面ヨリ低キモノ例ヘハ沼、河、堀等ニ在リテハ其陰影ヲ左方ノ上部ニ畫キ地面ヨリ高キモノ例ヘハ家屋等ニ在リテハ其陰影ヲ右方ノ下部ニ畫クヘシ

第二十八條　除地ノ種類ハ概ネ左ノ如シ

一　耕地ハ總テ淡黃色ニ塗リ倘境界線ノ內緣ニ幅二、五米突ノ濃黃色ヲ引クヘシ（第9圖）且田、桑畑、茶畑、三種畑、葡萄畑ハ各內部ニ其記號ヲ排置スヘシ（自第10圖至第14圖）

二　原野ハ淡綠色ニ塗リ倘境界線ノ內緣ニ幅二、五米突ノ濃綠線ヲ引クヘシ（第9圖）

三　牧場ハ原野ト同一ニ塗リ內部ニ其記號ヲ排置スヘシ（第15圖）

四　池、複線ニ顯ハスヘキ河川、溝及堀ハ淡藍色ニ塗リ岐々濃キ藍色ニテ陰影ヲ附シ倘其境界線ノ左方ノ上緣ハ淡濃厚藍色ニ引キ其右方ノ下緣ハ岐々淡キ藍色ニ爲スヘシ（第16圖及第17圖）

流水ニ在リテハ長サ三十米突乃至五十米突ノ箭形ヲ墨ニテ處々ニ記載シ其向キヲ示スヘシ又舟或ハ筏ヲ通スヘキ河川ニ在リテハ墨ニテ中央ニ其符號ヲ畫クヘシ（第16圖）

五　沼ハ淡藍色ニ塗リ其內部ニ濃藍ノ記號ヲ排置シ且墨線ニテ其境界ヲ顯ハスヘシ（第18圖）

六　道路　國道ハ二重朱線ヲ以テ各緣ヲ畫キ各緣ニ於ケル二重線間ハ空白ニ存置シ內方二線間ハ淡赭黃色ニ塗ルヘシ（第19圖）

縣道ハ朱ノ單線線ヲ引キ內部ハ國道ト同一ニ渲彩ス（第20圖）

而積ヲ揭クヘキ廣キ林道及廣キ里道（達路）ハ朱線ニテ平均ノ幅ニ畫キ內部ハ黃色ニ塗ルヘシ

道路ノ側邊ニ當リ除地ニ算入スヘキ急斜面地ハ黃色ニ塗リ墨線ニテ林地トノ境ヲ引キ且

內部ハ三米突乃至四米突毎ニ道緣ニ對シ直角ノ向キニ平行線ヲ引キ且其線ハ卑キニ就クニ從ヒ次第ニ幅ヲ廣クシテ其斜面ハ道面ヨリ上騰スルカ或ハ下降スルカヲ明瞭ナラシム

七　街道（國道及縣道）幷ニ複線ニ顯ハス右方ノ緣ヲ九十米突毎ニ五米突ヲ間斷シテ之ヲ示ス（第22圖）

聚場及繩道ノ除地ニ屬スルモノハ墨線ニテ其境ヲ引キ黃色ニ塗ルヘシ（第23圖）

八　岩石砂礫類ノ廣マリタル不毛ノ地面ハ洋紅及赤「インキ」ノ淡キ色ニテ內部ヲ塗リ墨線ニテ其境ヲ畫キ且岩石ニ在リテハ濃キ洋紅ニテ其記號ヲ一方ニ集メ畫キ（第24圖）砂礫ニ在リテハ其記號ヲ全部ニ排置シ畫クヘシ（第25圖）

九　石切場ハ洋紅ニ赤「インキ」ヲ加ヘタルモノヲ以テ全部ヲ淡ク塗リ稍濃キ洋紅ニテ溜河ニ於ケルカ如キ陰影ヲ畫キ其境線ハ濃キ洋紅線ニテ顯ハシ其線ハ左方ノ上緣ヲ太クスヘシ倘現在作業ニ從事スル場所ニ在リテハ內部ニ墨ニテ小鎚形ヲ記スヘシ（第26圖）

十　絕壁ハ洋紅及赤「インキ」ニテ淡ク塗リ墨線ニテ圍ミ內部ニ濃キ洋紅點ヲ散記スヘシ（第27圖）

十一　採鑛場ハ前項ト同樣ニ塗リ墨ニテ小鎚形ヲ×狀ニ畫クヘシ（第28圖）

十二　砂坑ハ洋紅ノ細線ヲ以テ圍ミ其內部ハ淡黃ニ塗リ洋紅ノ小點ヲ散記ス

但其小點ハ左方ノ上部ニ近ク且ニ從ヒ稍密且大ナラシメ周圍線モ亦稍太クシテ陰影ノ觀ヲ呈セシムヘシ（第29圖）

十三　礫坑ハ砂坑ト同樣ニ着色シ只內部ノ洋紅點ヲ大小混合セシメテ前者ト區別ス（第30圖）

十四　土坑ハ褐黃色ニテ淡ク塗リ倘其濃液ニテ溜ト同樣ナル陰影ヲ畫キ濃褐色ノ線ヲ以テ溜

◎第四種　○第二類

ト同樣ニ其線ヲ造ルヘシ(第31圖)

十五　炭燒場ハ墨ニテ園ミ內部ニ墨ニテ直徑十米突許ノ竈形ヲ畫クヘシ(第32圖)

十六　茸類製造場ハ前項ノ如ク塗リテ內部ニ墨ニテ茸形(㊍)ヲ畫クヘシ

十七　苗圃ハ內部ニ綠青ニテ小樹形ヲ列記シ而シテ其黑キ周圍線上ニ許多ノ短キ斜線ヲ畫キテ柵ヲ示ス

小樹形ハ長サ三米突幅二米突トナシ右方ニ細キ墨線ヲ引キ又根際ニ稍長キ點ヲ附シ此點ヨリ右方ニ長サ五米突ノ水平線ヲ引キテ其陰影ヲ附ス(第33圖)

但除地ニ屬セサル苗圃ハ只綠點ヲ列記スルニ止ム

十八　公園ハ原野ト同樣ニ內部ヲ塗リ綠青ニテ前項ト同樣ノ小樹形ヲ數個ツヽ處々ニ聚メテ畫クヘシ而シテ其周圍ニ柵墻等ナキトキハ單一ノ黑線ヲ以テ之ヲ圍ミ柵墻等アルトキハ其物體ニ對スル記號ヲ畫クヘシ(第34圖)

十九　庭園ハ前項ト同樣ニ塗リ小樹形ヲ列記スヘシ

二十　邸宅ノ廓內ハ淡赭黃色ニ塗リ黑線ヲ以テ圍ムヘシ但塀墻等ヲ以テ境界ヲ爲ストキハ其記號ヲ畫クヘシ(第35圖)

二十一　家屋ハ官有ト民有トニ之ヲ別チ官有ハ洋紅ニ赤「インキ」ヲ加ヘタル者ニテ淡ク塗リ且稍濃キ色ニテ右方ノ下部ニ陰影ヲ附シ濃キ洋紅線ニテ其緣ヲ畫キ且其緣ハ右方及下方ヲ強大トナス民有ハ洋紅ニ換用スルニ墨ヲ以テスヘシ

又大小林區署及小林區吏官舍ハ上部ニ墨ニテ鹿角形ヲ畫クヘシ但鹿角ハ大小林區署ニ在リテハ四枝ヲ具ヘシメ官舍ニ在リテハ三枝ヲ具ヘシム(第35及36圖)

二十二　區劃主線ハ廣ク伐リ開キタル場合ニハ除地ト爲ス其畫法ハ第七款ニ說明ス

第六款　別種ノ物體

第二十九條　前條ニ揭クル諸物ノ外尙基本圖中ニ記入スヘキ者ハ左ノ如シ

一　岩　不毛ノ除地ニ算入セサル小面積ノ岩ハ洋紅及赤「インキ」ノ淡色ニ塗リ濃キ同色ノ陰影ヲ附スヘシ(第40圖)

二　橋　石橋ハ洋紅木橋ハ墨ニテ一雙ノ弧線ヲ畫キ之ヲ顯ハス(第41圖)

三　柵、板墻、竹墻ハ長サ三米突乃至四米突ノ斜行線ノ陰影ヲ附シタル墨線ニテ顯ハス(第42圖)

四　生籬ハ小環ヲ連記シテ之ヲ顯ハス(第43圖)

五　墻壁ハ幅一米突ノ濃キ洋紅線ヲ以テ之ヲ顯ハス(第44圖)

六　堤ハ互ニ三米突許ヲ距リタル墨線ヲ基底ニ直角ノ向キニ列記シ其線ノ長短ハ堤ノ幅ニ適セシメ且其線ハ卑キニ就クニ從ヒ漸次ニ太クスヘシ(第45圖)

七　堰　石造ハ洋紅木造ハ墨ニテ其記號ヲ畫クヘシ(第46圖)

八　綱場ニハ墨ニテ一條ノ繩狀線ヲ畫クヘシ(第46圖)

九　除地ニ算入セサル炭燒場及茸類製造場ハ墨ニテ第二十八條第十五項及第十六項ノ符號ノミヲ畫クヘシ

第七款　區劃主線及區劃副線

第三十條　區劃主線幷ニ區劃副線ニシテ廣ク伐リ開キタルモノハ其實際ノ幅ニ畫クヘシ

第三十一條　二個ノ區劃線ノ互ニ相接合スル場合ニハ其接點ヲ離開スヘシ（第37圖）

第三十二條　岩石多キ傾斜地等ニシテ截リ開カサル區劃線ハ其中央ノ位置ニ單線ヲ引キ第四十二條ノ法ニ由リテ其區劃線タルコトヲ判明タラシムヘシ（第37圖）

第三十三條　區劃線ハ其隅端接近ノ位置ニ當リ線ノ中央ヲ距ルコト十米突ノ點ヲ中心ト爲シ三十米突ノ半徑ヲ有スル圈線ヲ其上緣ニ畫キ倘主線ニ在リテハ其名稱（A、B、C）副線ニ在リテハ其番號（「アラビヤ」數字）ヲ弧線內ニ朱書スヘシ（第37圖）

第八款　單路

第三十四條　面積ヲ算入セサル道路即單路ハ幅半米突乃至一米突ノ朱線ニテ顯ハス其種別ハ左ノ如シ

一　里道ハ單線ト點線トヲ列ヘ畫キテ之ヲ顯ハス但單線ヲ以テ常ニ道ノ中央ヲ示スヘシ（第47圖）

二　尋常ノ林道ハ單線ヲ以テ之ヲ顯ハス（第48圖）

三　小徑ハ點線ヲ以テ之ヲ顯ハス（第49圖）

第九款　單川

第三十五條　複線ニ畫クコト能ハサル川（即單川）及堀ハ青藍ト胡粉トヲ混シタルモノニテ單路ト同一ノ幅ノ線ニ顯ハシ倘水流ノ方向ヲ示スカ爲メニ墨ニテ長サ三十米突乃至五十米突ノ箭ヲ側方ニ畫クヘシ（第50圖）

第十款　小班境界

第三十六條　小班境界ハ濃キ墨ニテ半米突乃至一米突ノ線ヲ引キテ之ヲ顯ハス

第三十七條　小班境界ハ角點ヲ明瞭ナラシムルカ爲メ其界線ヲシテ角點ヲ距ルコト二米突ノ位置ニ止ムヘシ（第37圖）

第十一款　伐木區域

第三十八條　施業按ニ既定スル新施業前期十ケ年ノ間ニ伐木スヘキ區域ハ鉛筆ニテ小×形ヲ連結シタル記號ヲ畫キテ之ヲ示ス（第37圖）

第三十九條　將來一ケ年間ニ伐木スヘキ區域ハ鉛筆ニテ線ヲ引キ之ヲ示ス

第十二款　附載

第四十條　森林ノ境界外ニシテ境界ヲ距ルコト一百米突以內ニ存在スル所ノ主要ノ物躰ハ皆之ヲ基本圖中ニ記入スルヲ法トス道路、河川ノ類幷ニ隣接森林ノ區劃線モ亦境界線外一百米突迄ヲ揭クヘシ

第四十一條　境界外ニ存在シ特ニ之カ附載ヲ要スルモノハ概ネ左ノ如シ（位之ヲ顯ハス（第1圖）

一　町村界　林區ニ接續スル町村各互ノ境界線ノ向キハ墨ニテ長サ一百米突許ノ箭形ヲ畫キ

二　隣接地ノ種類（森林、原野、田、畑等）ヲ分ツニハ墨ノ點線ヲ用ユヘシ

三　鐵道ハ青藍ニ墨ヲ混シタルモノヽ淡液ヲ以テ線路ノ廣サニ塗リ同色ノ濃キモノニテ兩邊ノ界線ヲ引クヘシ（第51圖）

四　神祠及佛宇ハ第二十七條第二十項ニ於ケルカ如ク着色シ倘神祠ハ內部ニ卄形ヲ記シ佛宇ハ卍形ヲ記スヘシ（第52圖及第53圖）

五　墳墓ハ形丄ヲ以テ顯ハス（第54圖）

第十三款　林班ノ境界符號及切圖ノ境界符號

第四十二條　林班ノ境界ヲ顯ハスニハ五十米突乃至八十米突ヲ隔テ墨ノ圓點ヲ連記スヘシ但境界線カ單線ナルトキハ其線上ニ記シ複線（複線ニ顯ハス道路、河川及區劃線）ナルトキハ中間ニ記スヘシ

又切圖ノ接續部ニ在リテハ四個ノ點ヲ十字形ニ記スヘシ但其接續部カ區劃主線、複線ノ道路、河川等ニ中ルトキハ其除地ヲ面積中ニ算入セサル圖片ニ於テ其除地ノ內緣ニ記シ又複線ノ公道ニ在リテハ中間ニ記スヘシ（第37圖）

第十四款　高曲線

第四十三條　基本圖中ニハ便宜高曲線ヲ畫クヘシ

第四十四條　高曲線ハ墨線ヲ以テ高サ十米突毎ニ之ヲ顯ハシ且其線ハ五十米突毎ニ稍太クスヘシ

第十五款　縱橫罫

第四十五條　縱橫罫トハ直角縱橫ノ線系ニシテ其一區劃ノ面積ハ縮尺一「ヘクタール」或ハ一町歩タラシムヘシ

第四十六條　縱橫罫ハ赤「インキ」ニテ引クヘシ

第十六款　北針

第四十七條　北針ハ墨ニテ七百米突ノ長サニ畫キ其下端ヲ較々太クシ上端ヲ去ル五百五十米突ノ點ヨリ起リテ一百米突ノ距離ニ至ルマテハ二三米突毎ニ北針ニ對シテ四十五度ノ傾ヲ存スル十米突ノ直線數條ヲ左右ニ引キ且其ノ左方ノ線ハ較々細ク右方ノ線ハ較々太クシテ羽箭ノ形ヲ作ルヘシ又線ノ上端ヨリ五十米突ヲ距テ長サ十米突ニシテ四五十度ニ傾キ稍彎曲シタル線ヲ左右ニ引キ其線端ヲ尖ラシテ鏃形ヲ作ルヘシ（第38圖）

第十七款　尺度

第四十八條　尺度ハ直立ノ向キニ畫キ長サヲ三百米突（或ハ三百間）ヲ十等分シ更ニ其最上ノ百米突（或ハ百間）ヲ十等分スヘシ而シテ此尺度ヲ畫クニハ先ツ三米突（或ハ三間）ヲ隔テ、大小（右方ヲ大トシ左方ヲ小トシ）二條ノ直立線ヲ引キ上端ノ一水平線ハ左方ニ三十米突（或ハ三十間）右方ニ十米突（或ハ十間）タケ突出シ又每百米突（或ハ百間）ノ分線ハ長サヲ三十米突（或ハ三十間）トナシ每十米突（或ハ十間）ノ分線ハ長サヲ十五米突（或ハ十五間）トナシ各直立線ノ左方ニ引クヘシ（第55圖及第57圖）

第三章　基本圖謄寫ノ順序

第四十九條　基本圖ヲ謄寫スルニハ左ノ順序ニ據ルヘシ

基本圖ヲ謄寫スヘキ圖紙ヲ取リ之ニ原圖ヲ重子留針ヲ以テ之ヲ圖引板ノ上ニ張リ針ヲ以テ原圖中ノ要點ヲ刺シ下紙ニ針跡ヲ附シテ之ヲ寫スヲ常トス其刺針ハ大中小ノ三種ヲ具フヘシ（殊ニ最モ多ク具フヘシ是レ便用ノ際容易ニ折ルヽノ患アレハナリ）針跡ヲ附スルノ順序ハ初メニ大針ヲ以テ境界標及豫備標ノ中點ヲ刺シ次ニ中針ヲ以テ林相境界線ノ各點ヲ刺シ終ニ小針ヲ以テ道路、河川及其他ノ物体ノ周圍點ヲ刺スヲ定則トス

針跡ヲ附スルノ前ニハ豫メ原圖紙ノ厚サヲ計リ針跡ノ深淺ニ過不及ナキ樣注意スヘシ又針ヲ刺スニ境界標及豫備標ハ番號ノ順ニ從ヒ林相境界線ノ角點及他ノ物体ハ一碎部每ニ順ヲ追フ等ノ方法ヲ用ヒ決シテ一點ヲモ遺サヽル樣注意スヘシ既ニ諸點ヲ記シテ餘スナシト確信セハ原圖ヲ取リ除ケ第一ニ境界標及豫備標ヲ畫クヘシ（此點ハ大ナル針跡ヲ有スルヲ以テ容易ニ之ヲ認ムルヲ得ルナリ）已ニ之ヲ畫キ終ラハ墨

ニテ先ツ境界線次ニ區劃主線及區劃副線ヲ引クヘシ道路、河川ノ類カ林區境界ノ一部ヲ爲ストキハ豫メ鉛筆ヲ以テ微ニ其線ヲ引クヘシ右終レハ先ツ色緣ヲ畫キ次ニ除地ノ境界線ヲ（但草原耕地等ノ境界ハ墨ニテ又石切場砂坑等ノ如キ周圍ヲ着色スヘキモノハ先ツ鉛筆ニテ）引キ其面ニ着色スヘシ

池、沼、河、石切場等ノ陰影ハ其着色ヲ終ヘタルトキ直ニ之ヲ畫クヲ便トス

總テ森林圖ヲ製スルニハ成ルヘク分業ノ原則ニ從ヒ一種類ヲ畫キ終テ後チ他ノ種類ヲ畫キ以テ同時ニ數多ノ彩料ヲ使用スルコトヲ省クヲ要ス

單路、單川ハ最初ニ鉛筆ヲ以テ引キ然ル後朱ヲ以テ此單路ヲ畫キ次ニ複道ノ緣線ヲ引クヘシ

朱ノ使用ヲ終レハ單川ヲ畫キ次テ縱橫罫ヲ引クヘシ是レ錯雜ノ部分ニ在リテハ縱橫罫ニ由リ林相境界線ノ位置ヲ容易ニ知リ得ルノ益アレハナリ

混雜ノ部分ハ誤寫等ノ患ナカラシメンカ爲メ林相ノ境界線ヲ墨ニテ引クノ前ニ豫メ鉛筆ニテ細線ヲ引キ置クヲ良トス

既ニ林相ノ境界線其內部細別ノ點線、附載、水流ノ方向及町村境界ノ羽箭ヲ畫キ終レハ林班幷ニ切圖ノ境界記號ヲ畫キ次テ區劃線上ノ弧線ヲ畫クヘシ北針及尺度ハ最終ニ之ヲ畫クモノトス

但此二者ハ決シテ針ニテ刺シ寫スヲ許サス每回新ニ之ヲ畫クヲ要ス

第四章　基本圖中文字ノ書法

第五十條　基本圖中ニ記入スヘキ文字ハ左ノ如シ

一切圖ノ番號ニハ羅馬數字ヲ用ヒ區劃主線ノ記號ニハ平假名或ハ羅馬文字A、B、Cヲ用ヒ區劃副線、林班、境界標、豫備標ノ番號ニハ亞剌比亞數字ヲ用ヒ小班及除地ノ記號ニハ片假名或ハ羅馬文字a、b、cヲ用ユ

但除地ノ番號ハ赤「インキ」ヲ以テ書シ區劃線ノ記號ハ朱ヲ以テ書スルノ外總テ他ノ文字ハ墨ヲ以テ書スルモノトス

二　基本圖ノ標題ハ左ノ如ク記載スヘシ

何大林區何小林區	國名郡名村名	基本圖	第何片	面積……町
				何年何月
				官名姓名測定

第二編　林相圖ノ畫法

第一章　通則

第五十一條　林相圖ハ基本圖ニ因リ其尺度ヲ四分一即チ實際ノ二萬分一ノ尺度ニ縮少シテ之ヲ製スルモノトス

但面積小ナル森林ノ林相圖ハ便宜五千分一ニ之ヲ製スヘシ

第五十二條　林相圖ハ基本圖ノ如ク數學上極メテ精密ナルヲ期スル能ハスト雖モ基本圖中ニ畫ク處ノ諸物ハ皆正當ノ位置ニ記入シ殊ニ周圍及區劃線ノ如キハ精密ニ畫カサルヘカラス又林相圖ニハ基本圖ニ畫ケル諸物ノ外ニ尙林木ノ種類其配置、作業種類及年度級ヲ揭クルモノトス

第二章　林相圖中ニ記入スヘキ諸物ノ畫法

第一款　基本圖上ニ存スル諸物

第五十三條　基本圖上ニ存スル諸物ハ左ニ掲クル諸項ノ外皆之ヲ基本圖ト同樣ニ林相圖中ニ書クヘシ

一　境界標及豫備標ハ林相圖中ニ記入セス

二　外圍ノ境界線ハ零、五　米突乃至零、七　五　米突ノ幅ニ書キ林相境界線ハ稍之ヨリ細クスヘシ

三　境界ノ色線ハ幅十米突ノ淡色線トナシ尚其内方ニ幅三米突ノ濃色線ヲ附ス

四　複線ノ道路又ハ河川ヲ境界ヲ爲ストキハ其森林地ニ屬スルト否トニ關セス其外緣ニ色緣ヲ設クヘシ

又道路、河川ノ幅カ殆ンド色緣ノ幅ト同大ナルトキハ色緣ヲ附セス

五　區劃線、複線ノ道路及河川ハ其複線ヲ明瞭ニ視得ルノ程度ニ書クヘシ

六　公道ト私道トハ之ヲ分ツヲ要セス兩道共ニ赭黃色ニ塗ルヘシ街道ハ他ノ複線道ノ如ク緣線ヲ單一ト爲ス

七　家屋及石橋ノ着色ハ洋紅ニ代ユルニ朱ヲ以テス

八　林相境界線ノ屈折スル場所ハ其界線ヲ角點マテ引クヘシ

九　林班ノ符號點ハ三十米突乃至四十米突ヲ隔テヽ記入スヘシ

十　區劃線ニ附スル弧線ハ上緣ヲ距ル五米突ノ點ヲ中心トナシ十米突ノ半徑ニ書クヘシ

十一　鐵道ハ凡ソ幅五、二　米突ノ鋼青色（青藍ト墨トヲ混シテ製ス）ノ單線ヲ以テ之ヲ顯ハスヘシ

十二　墻及生籬ハ圖中ニ揭クルヲ要セス

十三　北針ハ長サ五百米突ニ書キ尚其中央ヲ截斷シテ之ト同長ノ子午線ヲ引キ以テ磁針ノ偏倚度ヲ顯ハスヘシ（第39圖）

十四　尺度ハ基本圖ニ在リテハ其長サ三百米突或ハ三百間ナルニ由リ此四倍即千二百米突或ハ千二百間ノ長サニ書クヘシ（第56圖及第58圖）

十五　縱橫罫ハ基本圖ト同シク赤「インキ」ニテ縮尺一「ヘクタール」或ハ一町歩ノ正方形ニ書クヘシ

第二款　作業種類、樹種及年度級ノ區別

第五十四條　喬林ハ年度級ヲ六級ニ分チ毎級ヲ二十年ト爲ス即一年ヨリ二十年マテヲ第一級二十一年ヨリ四十年マテヲ第二級四十一年ヨリ六十年マテヲ第三級六十一年ヨリ八十年マテヲ第四級八十一年ヨリ百年マテヲ第五級百一年以上ヲ第六級ト爲ス

第五十五條　年度級ハ着色ノ濃淡ニ由リテ之ヲ區別ス其法ハ最淡キ色ヲ以テ最若キ級トナス依テ第五級及第六級ハ最濃ク着色シ且第六級（即百一年以上）ハ着色ノ上ニ尚（アラビヤゴム）液ヲ塗ルヘシ

第五十六條　針葉樹林ハ墨ニテ塗抹シ（第59圖）濶葉樹林ハ草綠色（第62圖）ニテ塗抹スルヲ法トス但針葉樹林ヲ尚其樹種ニ由リテ區別スルニハ左ノ色ヲ用ユヘシ

一　松ハ墨（第59圖）

二　杉ハ茶褐（第60圖）

三　ヒノキ、サワラ、アスナロハ樺（第61圖）

第五十七條　更新級（若干ノ母樹ヲ存置シ天然下種ニ由リテ更新スル場處ヲ云フ）ハ其色ヲ第一年

度級ノ濃サニ塗リ尚墨ニテ點線ヲ附ス(第59 60 61圖ノ右端)

第五十八條　矮林ハ毎五年ヲ一級トナシ四級ニ分チテ絲青色ニ塗ルヘシ且第四級(十六年以上)ハ稂メ墨ニテ淡ク地ヲ塗リ其上ヲ絲青ニテ塗ルヘシ(第63圖)

第五十九條　中林ハ下木ノ年度ニ由リテ矮林ト同樣ノ年度級ニ分チ且矮林ト同樣ニ着色シ尚小樹形ノ符號ヲ處々ニ點散記入シテ以テ矮林ト區別ス(第64圖)

第六十條　擇伐林ハ岱赭ノ濃液ニテ塗ルヘシ(第65圖)

第六十一條　竹林ハ紫ニ少シク胡粉ヲ混シタル色ニ塗ルヘシ(第66圖)

第六十二條　散生地(樹木ノ點散存生スル地ヲ云)及未立木地ハ共ニ空白ニ存シ只前者ハ散生セル樹種及其混生等ノ現狀ニ從ヒ小ナル樹形ノ符號ヲ記入スヘシ(第69圖)

第六十三條　歩分林ヲ尋常林ト區分スルニハ胡粉ニテ×形ノ記號ヲ畫クヘシ尚其官民分收ノ歩合ヲ顯ハスニハ其數ヲ上下ニ記スヘシ例ヘハ×ハ二官八民ヲ示スカ如シ(第67圖)

第六十四條　保存林ヲ供用林ト區分スルニハ胡粉ニテ小正三角形ヲ畫クヘシ(第68圖)

第三款　暗色上ノ小班界線幷ニ林班界及區劃線ノ符號

第六十五條　喬林ニ於ケル第五級ト第六級トノ界線ハ胡粉線ニテ顯ハスヘシ

第六十六條　暗色上ノ林班ノ符號及區劃線ノ符號ハ胡粉ニテ畫クヘシ

第四款　林木ノ混淆

第六十七條　林況調査簿上ニ記載スル樹木ノ種類ハ林相圖上ニ其名稱ヲ記シ或ハ小樹形ノ符號ヲ畫キテ之ヲ顯ハスモノトス

第六十八條　特ニ主樹ノ名稱ヲ顯ハスヲ要スルトキハ林班若クハ小班ノ記號ノ右下ニ片假名ニテ

樹名ヲ朱書スヘシ

第六十九條　副樹即混淆ノ樹林ノ名稱ヲ顯ハスニハ前條ノ主樹名ヨリ較小ニ之ヲ書シ且針葉樹林中ニ混淆セル濶葉樹名ハ綠色ニ書シ濶葉樹林中ニ混淆セル針葉樹名ハ墨ニテ書スヘシ

但數種ノ樹木ノ混生シテ其主樹ノ針葉樹ナルトキハ唯針葉樹名ノミ書シ其主樹ノ濶葉樹ナルトキハ唯濶葉樹名ノミ書シ其主樹ノ濶葉樹ナルトキハ唯濶葉樹名ノミ書スルヲ常トス

第七十條　小樹形ノ符號ヲ以テ混淆樹ノ種類ヲ顯ハスニハ左ノ法ニ據ルヘシ濶葉樹ニ在リテハ長サ三米突幅二米突許ノ卵圓形ノ綠色點ヲ記シ針葉樹ニ在リテハ長サ五米突許ノ小墨點ヲ記シ其下點ヨリ右方ニ長サ五米突許ノ水平線ヲ引キテ陰影ヲ示シ尚其線ノ下底ニ其符號ト爲シ針葉樹ニ在リテハ墨ニテ(※)ノ如キ小樹形ヲ畫キテ其符號ト爲ス又小樹形ノ符號ヲ用ヒテ特ニ樹名ヲ顯ハスニハ左ノ色ヲ以テ之ヲ畫クヘシ(第69圖)

ナラ	雌黄	クリ	茶褐
クヌキ	岱赭	カシ	樺
ブナ	紫	ケヤキ	藍
グス	洋紅	マツ	墨
スギ	茶褐	ヒノキ、サワラ、アスナロ	樺

第七十一條　樹木ノ符號ハ圖紙ノ下綠ニ直立セシメテ之ヲ畫クヘシ

第七十二條　樹木ノ混淆ノ歩合ハ其符號ノ多寡ニ因リ之ヲ畧示スルコト左ノ如シ

點々星散スルモノ　一個ノ符號ヲ畫ク

唯一叢又一列ナルモノ

處々ニ叢生スルモノ
一處ニ群生スルモノ
數列ヲ爲スモノ
處々ニ群生スルモノ
處々ニ列ヲナスモノ
群生列生相混スルモノ
二個ノ符號ヲ畫ク
三個ノ符號ヲ畫ク

第七十三條　萌芽樹及下木ハ混淆樹ノ部類ニ編入セス

第七十四條　數樹混淆ノ面積廣濶ナルトキハ小樹形ヲ處々ニ畫クヘシ（是レ圖面ヲシテ鮮美ノ觀ヲ呈セシメンガ爲メナリ然レトモ小樹形ノ箇數ハ餘リ夥多ナルヲ厭フヘシ寧過少ナルヲ良トス）又面積甚タ狹隘ナルトキハ全ク之ヲ省キ以テ圖面ノ不明瞭トナルノ患ヲ防クヘシ

第五款　伐木區域

第七十五條　向フ十ケ年間ニ伐木スヘキ區域ヲ林相圖中ニ顯ハスニハ四米突乃至五米突宛ノ距離ニ胡粉ヲ以テ數線ヲ平行ニ引キ且其線ヲ以テ同時ニ伐木ノ方向ヲ示スヘシ即該線ハ必ス伐木方向ト直角ヲ爲スノ向キニ引クヘシ但伐木區域ノ幅員狹隘ナルトキ例ヘハ離開伐周圍伐ニ在リテハ其線ヲ楷梯狀ニ畫クヘシ

第七十六條　皆伐スヘキ區域ニ在リテハ前條ノ線ヲ連線ト爲シ前更作業林ニシテ現在施業期中ニ林木ノ一部分ノミヲ伐採スル區域幷ニ擇伐林ノ擇伐區域ハ點線ト爲ス又前更林ニ於テ現在施業期中ニ盡ク其林木ヲ伐採スルノ區域ハ連線ト點線トヲ交ヘ引クヘシ

喬林ニ變更スル中林及矮林ノ伐木スヘキ區域ハ連線ヲ平行ニ引クヘシ

普通中林及矮林ノ伐木スヘキ區域ハ小班記號ノ下位ニ胡粉ノ小長方形ヲ畫キテ之ヲ顯ハス

第六款　圖解凡例

第七十七條　林相圖中諸物ノ解說ノ凡例ヲ揭クル塲合ニハ圖紙ノ下緣ニ平行シ之ヲ距ル二百米突乃至三百米突ノ間ニ一區劃ヲ設ケ更ニ之ヲ小部ニ分チテ其中ニ之ヲ畫クヲ定則トス而シテ其解說ノ順序ハ左ノ法ニ據ルヘシ

一　小區劃ハ長サ百米突幅三十米突トス
但揭載スヘキ塲處狹小ナルトキハ便宜其尺度ヲ異ナラシメ又解說スヘキ物體ノ個數多クシテ一行ニ揭ケ盡スコト能ハサル塲合ニハ二行トナスヘシ
二　林地ハ常ニ除地ノ前ニ揭クヘシ
三　喬林ハ中林及矮林ノ前ニ揭クヘシ
四　成林ノ樹種ハ其廣狹ノ順ニ從ヒ之ヲ揭ク即面積ノ大ナルモノヲ前ニシ小ナル者ヲ後ニス
五　年度級ハ現在スル級ノミヲ揭ク
六　更新級ハ其樹種ノ最老年度級ノ次劃ニ揭ク
七　各樹ノ種別ノ次ニ散生地ヲ揭ケ其次ニ未立木地ヲ揭ク
八　次ノ區劃ニハ伐木區域ノ解說ヲ揭クヘシ
九　次ニ林木ノ混淆ヲ示スヘシ
十　次ニ面積ノ廣狹ニ從ヒ除地ヲ揭ク
十一　前各項ノ外總テ物体ノ圖解ハ最尾ニ揭ク其順序ハ畫者ノ隨意トス

第三章　林相圖ヲ畫クノ順序

第七十八條　林相圖ヲ畫クニハ左ノ順序ニ據ルヘシ

林相圖ヲ畫クニハ先ッ基本圖ノ各片ヲ合一縮小スル所ノ下圖ヲ製セサルヘカラス而シテ其下圖ハ縱橫罫上ニ畫クヲ常トス故ニ下圖ヲ製スルニハ縱橫罫ヲ畫クヲ第一着トス

縱橫罫ハ新ニ之ヲ畫キ又ハ基本圖ノ罫ヲ剩シ寫シテ之ヲ四分スヘシ

林相圖ノ下圖ヲ本紙ニ謄寫シ且之ヲ精製スルニハ第四十九條ノ法ニ準スヘシ

小班界線ハ針跡ヲ附シタル後直ニ墨線ヲ以テ之ヲ連絡スヘシト雖モ他ノ諸物ハ琢メ鉛筆ヲ以テ假線ヲ引キ而後着色スルヲ要ス

着色ノ順序ハ先ッ境界線ヲ塗抹シ次ニ着色スヘキ除地面ヲ塗リ空白ニ存置スヘキ場所ハ假リニ鉛筆線ヲ引クカ或ハ適宜ノ方法ヲ用ヒテ他ノ着色スヘキ部分ト之ヲ區別シ易カラシム

林相ノ着色ハ針葉林面ヲ前ニシ濶葉樹林面ヲ後ニスヘシ且其着色ノ順序ハ第一級ヨリ始メテ漸次高級ニ移ルヘシ

第七十九條　第五級ト第六級トノ小班ノ界線及高級中ニ記スヘキ林班境界ノ符合點ハ胡粉ニテ畫クヘシ

伐木區域ハ施業案幷ニ基本圖ニ依リテ其符號ヲ畫クヘシ

第四章　林相圖中文字ノ書法

第八十條　林相圖中ニ記入スヘキ文字ハ基本圖ト異ナルコトナシ唯第四年度級以上ノ喬林ノ林相中ニ林班及小班ノ記號ヲ書スルニハ墨ニ換用スルニ朱ヲ以テスルノ別アルノミナリ

第八十一條　林相圖ノ標題ハ左ノ如ク記載スヘシ

但數多ノ森林ヲ一圖上ニ揭クルノ場合ニハ官林名ヲ除クヘシ

區林小何何區林大何

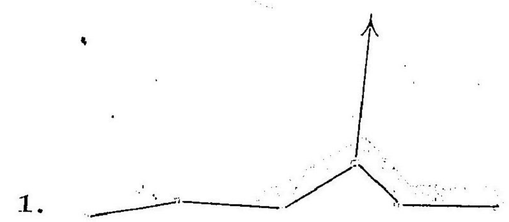
林官何

圖相林

面積……町

何年何月

測定ハ或寫謄名姓名官



1. 石標ニ因リテ定メタル民有地トノ境界
2. 木標及ビ天然石ニ因リテ定メタル民有地トノ境界
3. 土塁ニ因リテ定メタル官有地トノ境界
4. 境界標ニ因リテ示シタル爭論アル境界
5. 府縣界
6. 國界
7. 郡市界

18. 沼
19. 國道
20. 縣道
21. 廣キ里道及林道
22. 荷車ノ通ゼザル里道
23. 娶場及馬道
24. 岩石ノ露ガリタル不毛地
25. 砂礫ノ露ガリタル不毛地

3. 土里ニ囲リテ定メタル官有地ノ境界

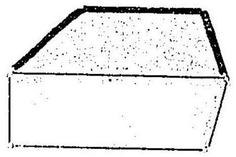
4. 境界樹ニ囲リテ示シタル事論アル境界

5. 府縣界

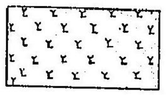
6. 國界

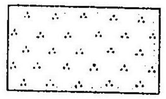
7. 郡市界

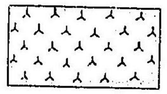
8. 町村界

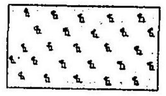
9.  原野 耕地

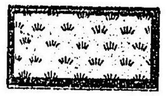
10. 田

11.  桑畑

12.  茶畑

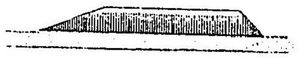
13.  三椏畑

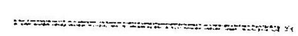
14.  葡萄畑

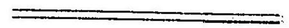
15.  牧場

16. 河川

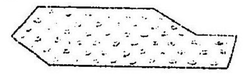
17. 湖

21.  荷車里道及林道

22.  荷車ノ通ゼザル里道

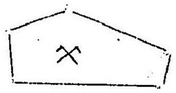
23.  裏場及馬道

24. 岩石ノ露ガリタルヌモ地

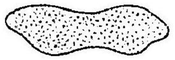
25.  砂礫ノ露ガリタルヌモ地

26. 石切場

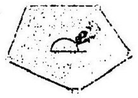
27. 絶壁

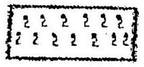
28.  採鎮場

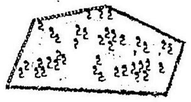
29. 砂坑

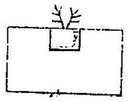
30.  礫坑

31. 土坑

32.  炭焼場

33.  苗圃

34.  公園

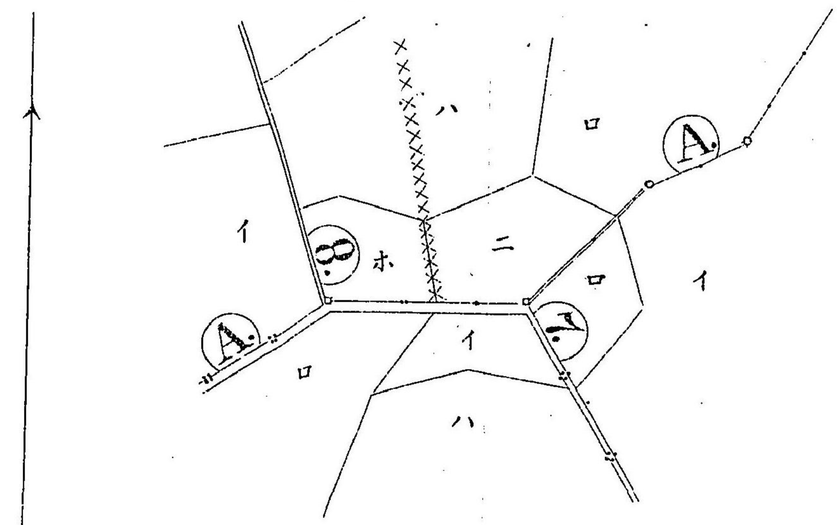
35.  林區署及ビ某郡内

36. 民有家屋ニシテ小林區吏ノ官舎ニ充テタルモノ

37.

38.

39.

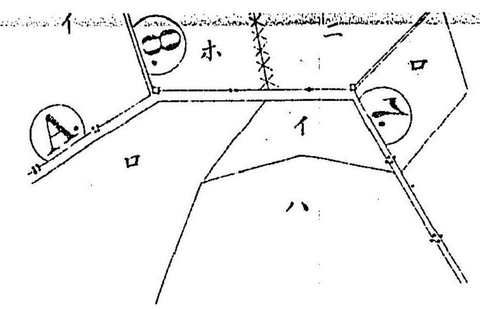


40. 岩

41. 橋

51 鉄道

52. 神祠



40. 岩

41. 橋

42. 柵仮橋
竹墻

43. 生墻

44. 墻壁

45. 堤

46. 堰堀塲

47. 里道

48. 林道

49 小徑

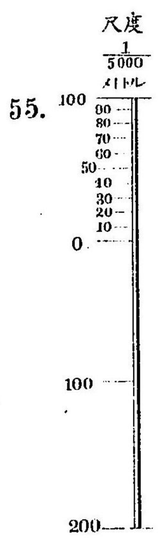
50. 川

51 鐵道

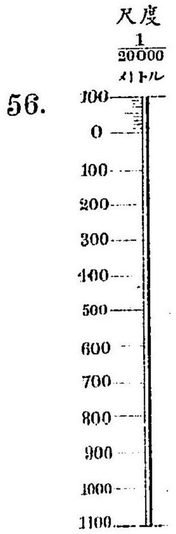
52. 神祠

53. 佛宇

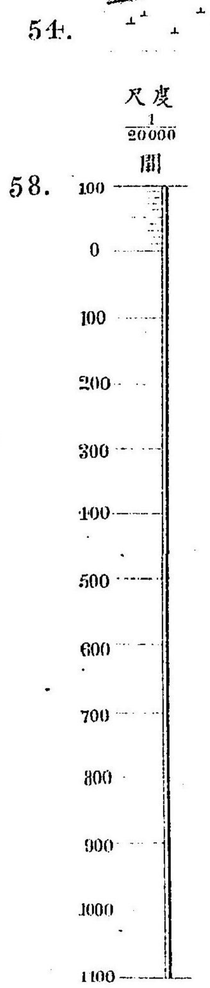
54. 墳墓



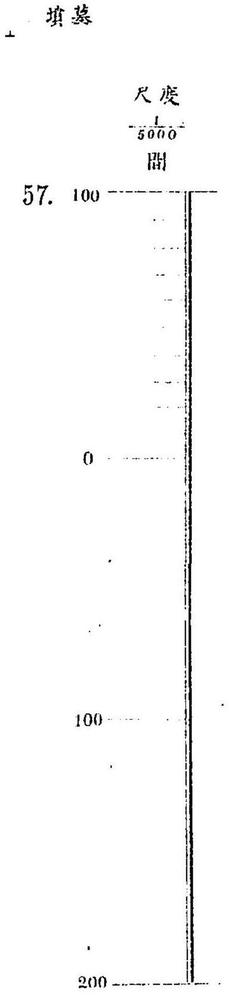
55.



56.



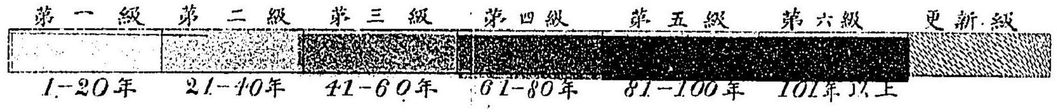
58.



57.

針葉樹

59.

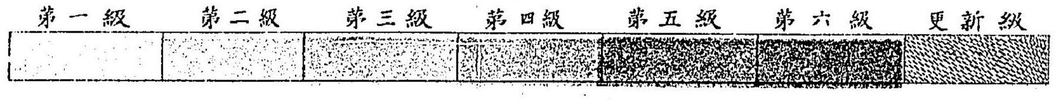


杉

60.

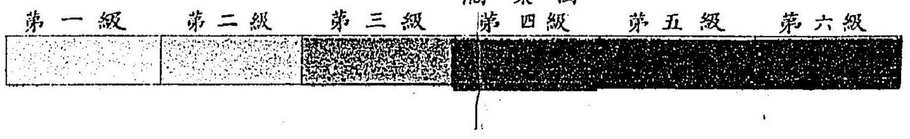
扁柏

61

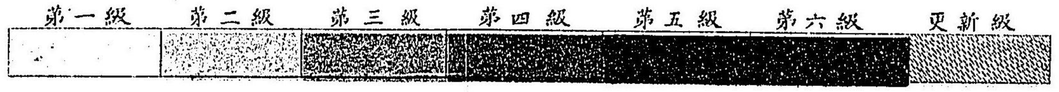


濶葉樹

62.

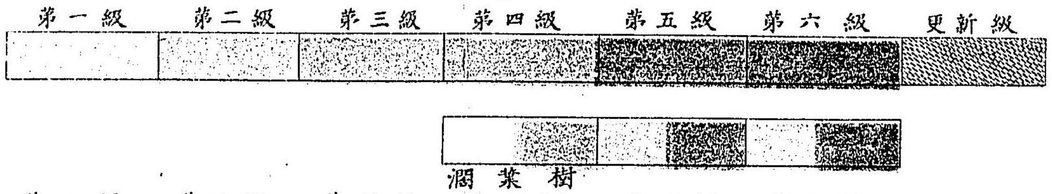


60.



扁栢

61

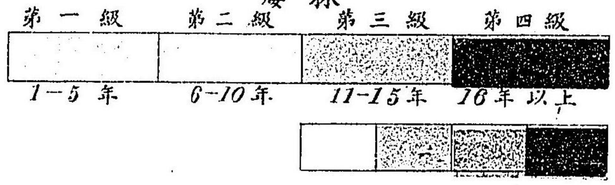


濶葉樹

62.

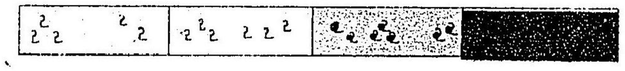
矮林

63.



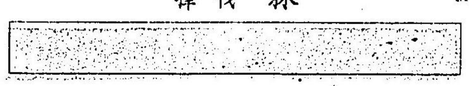
中林

64.



擇伐林

65.



竹林

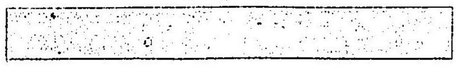
66.

歩分林

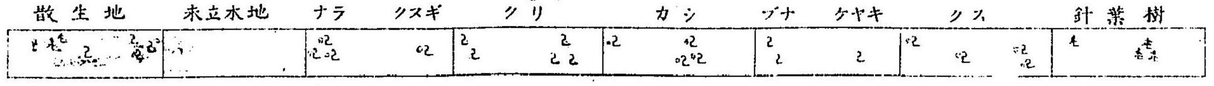
67.

保存林

68.



69.



○明治廿四年四月戊第二一一號山林局長ヨリ大林區署長ヘ森林施業案實施ノ件ニ付通達

今般訓令第十七號ヲ以テ森林施業ニ要スル諸案簿表施業案編製心得等制定相成候處右ハ廿六年度豫算編製以前ニ於テ境界測量結了ノ箇所ハ右雛形ニヨリ廿六年度ヨリ施行ノ積リヲ以テ編製シ本年十二月廿八日迄ニ差出スヘシ尤モ豫算簿ハ施業案編製セサル箇所ト雖モ廿六年度ヨリ施行シ其他處分及實行簿報告表ハ廿五年度ヨリ施行候儀ニ付此旨可被了承別紙諸案簿表施業案編製心得幷ニ施業諸案簿表說明附記載例相添此段及通達候也

○明治廿五年九月發第三七一號山林局長ヨリ各大林區署ヘ通牒

明治廿四年四月訓令第十七號ヲ以テ御制定ニ相成候森林施業ニ要スル諸按簿表中面積ハ當分ノ內町以下四位(何反何畝何十何步)迄記載スルヿニ詮議相成候條自今右ニ準シ御調製相成度依命此段及御通牒候也

○明治廿三年四月丙林第一四九號山林局長ヨリ各大林區署ヘ通牒

從來林產物數量ノ取調方ハ同種ノミニシテ棚束駄挺荷或ハ斤貫石把等ヲ以テ數ヘ其棚束ニ於ケルモ大小アリ右ハ各地方ノ習慣ニハ可有之候得共如此區々ノ取調ヘニ相成居候テハ調査上差支不尠儀ニ候條實際ノ處分ハ其習慣ニ依ルモ諸案表ノ調製ハ左記ノ如ク一定ニ改算御取調相成度

一用材ハ尺〆薪炭材ハ棚ヲ以テ數ヘ束駄荷挺等ハ總テ棚ニ改算シ其棚ハ六尺立方トス但麁朶ハ束ヲ以テ數ヘ其束ハ三尺繩〆トス

一根株ハ箇數竹ハ本或ハ束ヲ以テ數ヘ其束ハ三尺繩〆トス

一樟腦木炭漆五倍子蕨山芋櫧楮筍籜桑葉茶葉葡萄菌簞ノ類ハ貫目小柴下草落葉萱笹ノ類ハ束(束ハ三尺繩〆)樟油樹實ノ類ハ石、土ノ類ハ坪、石ノ類ハ切、轉石ノ類ハ個數トス

右及御通牒候也

追テ來ル五月中御差出可相成諸案表ノ儀モ本文ニ據リ御調製ノ儀ト御承知相成度爲念申添候也

○明治廿四年五月戊第二九三號山林局長ヨリ各大林區署ヘ通牒

林産物數量取調方ノ儀ニ付客年四月十一日付丙林第一四九號ヲ以テ及通牒置候内棚ノ積算ハ六尺立方ニ相定メ置候得共其後廿五年度事業豫算編製ノ儀ニ就テハ六六三即チ容積百〇八立方尺ニ積算可致旨御達相成居候間廿五年度以後ニ屬スル諸案簿表ハ勿處實際ノ處分ニ至ル迄總テ右ニ準シ取扱フヘシ此段及御通牒候也

○明治二十四年十月發第六八六號山林局長ヨリ各大林區署ヘ照會

來ル廿六年度造林事業豫算ノ義ハ本年四月當省訓令第十七號造林豫算簿(第一部及第二部)造林豫算總括簿ニ據リ御調製相成且官行造材事業豫算ハ別表ニ據リ御調製來ル十二月廿八日迄ニ御差出有之度此段及御照會候也

追テ造林豫算簿及總括簿中前三ケ年平均額及差引增減ノ事項ヲ省キ又防火線ニシテ一時刈拂ヲ爲シタルカ如キ林地ノ儘取扱フモノハ造林豫算第一部中手入ノ部ニ加入シ又防火線ヲ區劃線ト兼用シ將來除地トシテ取扱フモノハ造林豫算第二部道路ノ部ニ加入シ其兼用ヒシ旨ヲ適宜指示シ置相成度此段申添候也

何年度
官行造材豫算簿

記入番號	豫算簿主産物記入番號	國	郡	市町村	大字	字	保護區	小班林班(字)	起業年月	繼續見込年限	資材 樹種(竹種ハ)	資材 材積	資材 價格 單價	資材 價格 總額	造材 種目	造材 數量	造材 價格 單價	造材 價格 總額	經費 掛員 俸給	經費 掛員 旅費	經費 伐木及造材 雇人數	經費 伐木及造材 賃金 壹人當	經費 伐木及造材 賃金 總額	經費 運搬 雇人數	經費 運搬 賃金 壹人當	經費 運搬 賃金 總額	經費 何々雇人手當	經費 計	差引益	備考
													圓	圓		單位	圓	圓	圓	圓		圓	圓		圓	圓	圓	圓	圓	
計																														

注意

1) 本簿ニ依リ執行スベキ資材ハ主産物收額豫算簿ニアルモノニ限ル

2) 造材欄ノ價格ハ主産物收額豫算簿ノ價格ト符合スルヲ要ス

3) 經費ノ欄ニ於テ本簿ニ記載セル事項ノ外尚費途アルトキハ順次經費ノ節別ニ依リ欄ヲ設クヘシ

4) 經費ノ欄掛員ノ俸給旅費ハ特ニ該事業ニ對シ掛員ヲ設ケタル場合ニ記入スヘシ

何年度

官行造材豫算簿

何大林區署

第三　造林

○明治二十六年五月戊第一八號各大林區署ヘ達

造林事業計畫上別冊樣式ノ通リ造林事業費基按編成ノ必要候條各說明書ニ據リ調製來ル十一月三十日限リ其署ヲ發シ進達スヘシ

造林事業費基按編成說明書

將來造林ヲ施行スヘキ殖林地ノ種類ハ第一未立木地第二伐採跡地ニシテ此伐採跡地ハ既往ニ屬スルモノ及ヒ將來ニ係ルモノヽ別アリ而ノ是等ニ對シテ年々ノ新植面積ヲ定ムルハ次ノ方法ニ依ル

(一)　無立木地(未立木地及既往伐採跡地ノ總稱)及將來伐採跡地年々ノ植栽面積ヲ定ムル標準ハ連年作業ヲ執リ得ルヲ目的トシ概定作業區域(概定作業區域ハ本調査上便宜ノ爲メ作業區域ヲ概定シタルモノヲ云フ故ニ施業案編成濟ノ處ニアリテハ直ニ施業案ノ作業區ヲ用ユ)ノ大小ヲ基トシ撰定樹種ノ輪伐年度ニ據リテ之ヲ定ム即他日連年作業ヲ執ルヘキ一區域內(即概定上ヨリ作タル一作業級ナリ)ニ於テ年々斫伐スヘキ面積ヲ算定シタルモノヲ以テ每年ノ植栽面積トス而ノ概定作業區域ハ數官林ヨリ成立テ或ハ否ラサルモ其中ニハ立木地、未立木地、伐採跡地アルノミナラス)一官林ニシテ是等ノ混在スルモノアルニヨリ三者相連結シテ作業ヲ執ルノ目的ヲ以テ年々ノ斫伐面積ヲ算定セハ年々ノ植栽面積ハ殖林地ノ種類ノ區別ニ從ヒ每年造林表中各其所屬種類ノ下ニ分劃表示スルヲ要ス

但森林ノ配置樹種ノ撰定其他ノ事故ニ由リ連年作業ヲ執リ難キモノハ隔年作業ヲ執ルモノトシテ算定ス

◎第四種　○第二類

(二) 實況調査ノ結果ニ依リ存置スヘキ官有山野又ハ保安林（保安林トハ國土保安若クハ公衆ノ利害ニ關スルト認定シタル官林ヲ云フ而メ現在ノ官林等級種類ニ係ハラス次ノ五項ヲ標準トシテ之ヲ定ム(一)水源ノ涵養ニ必要ナルモノ(二)土砂巖石ノ崩落ヲ扞止スルニ必要ナルモノ(三)風潮額雪又ハ水害ヲ防止スルニ必要ナルモノ(四)魚附又ハ回船ノ目標トナスニ必要ナルモノ(五)風致ヲ裝飾シ又ハ衛生ヲ保全スルニ必要ナルモノ）ニシテ無立木地ノ場所ハ前項所記ノ作業區域外トシ明治廿八年度ヨリ向フ三十ケ年間ニ造林ヲ完結スルモノトシテ調査ス

前各項ノ主意ニ基キ第一號毎年造林表ヲ調製ス

(三) 年々植栽ニ要スル苗木ハ種子發生數ヲ酌量シテ之ガ苗木ヲ養成スルニ足ルヘキ苗圃面積ヲ定メ以テ其供給ヲ計ルヲ要ス

本項ノ主意ニ依リ第三號苗圃表ヲ調製ス

(四) 防火線、道路、橋梁、溝渠、堤防等ノ諸事業ハ之レカ設置ヲ最必要トセルノミニ付（凡ソ三十ケ年間ニ林產利用ノ途興ルヘキ官林ノミニ對シテ開設スルヲ標準トス）完成期ヲ三十ケ年トシ之レカ經費ヲ算定ス

但シ存置官有山野ハ取除ケニシテ官林ノミニ付テ設計スルモノトス

本項ニ依テ第四號官林土木工事總括表及第五號乃至第十號官林土木工事毎年經費諸表ヲ調製ス

諸表說明

第一號毎年造林表

(一) 本表ハ新植ヲ施シテヨリ補植手入ノ事業ヲ終ル迄數年間ノ經費ニシテ全地造林完了ニ至ル迄年々支出ヲ要スルモノヲ掲クルモノトス而メ官林ニ對シテハ無立木地、將來伐採跡地及保安林ノ三部ニ分チ之ニ官有山野ノ部ヲ加ヘ全体四部ヨリ成ルモノニシテ官林ノ合計ヲ掲ケ終ラハ樹種別再掲ノ部ヲ設ケ次ニ官有山野ノ部ヲ掲ケ官林トノ合計ヲ得テ次ニ官林ト山野ト合シタル樹種別再掲部ヲ設ケ但天然下種ヲ行フ場合ニハ其所屬部中ニ別記ス

(二) 初年ニハ新植欄ノミノ記入ニ止ム

第二年ニハ當年新植スヘキ分ト初年分新植ニ係ル補植及手入アルニ由リ是等ヲ新植、補植、手入ノ各欄下ニ記入ス

第三年ニハ當年新植スヘキ分ハ初年分及第二年分新植ニ係ル補植及手入アルニ由リ是等ヲ各當該欄下ニ累加記入ス以后之ニ準ス本表記載例ニハ補植ハ一ケ年手入ハ二ケ年ニテ終結ノ見込ナル故ニ手入欄ノミ累加記入シテ合計セリ此合計カ爾后毎年ノ造林費ナリ而メ殖林事業終ラハ毎樹種造林ノ濟否欄ニ「濟」ト記入ス是レ造林ハ始メテ新植ニ着手セシヨリ補植手入ヲ終ル迄ニハ數年ヲ要スルノミナラス同樹種ト雖モ地方同一ナル能ハサルニ由リ是等ノ濟否ヲ明ニスル爲メ本欄ノ記入ヲナスモノナレハ「濟」ト記入シタルモノハ其樹種ニ對シテ全地造林完了スル迄年々所要ノ造林費ナレハ爾后掲載スルヲ要セス

(三) 苗木價格ハ自設苗圃栽培ニ係ルモノヽミニ付テ掲ク

樹種別再掲部ニハ「濟」ト記入シタルモノハ第三號苗圃表ニヨリ得タルモノヲ掲ケ且ツ朱書スヘシ

苗木價格ハ自設苗圃苗木ト購買セルモノトヲ植栽スル場合ニハ別々ニ記入ス

(四) 若シ同一樹種ニシテ自設苗圃苗木ト購買セルモノトヲ植栽スル場合ニハ別々ニ記入ス

補植部合ハ一大林區ヲ通シテ平均幾割ノ見込ニシテ何年間施行スル見込ナルヤ備考欄ニ掲記ス

(五) 手入ハ一大林區ヲ通シテ平均何年間施ス見込ニシテ毎年何回施スヤ備考欄ニ掲記ス

(六) 各樹種毎ニ何年間ニテ造林ヲ終ルカ本文説明ノ主意ヨリ算定シタル處ニ依リ其見込年數ヲ全地造林完了年限欄ニ記入ス

(七)(八) 天然下種ヲ行フ場合ニハ樹種、植栽面積、千入等ノ各欄下ニ費目ニ應シテ適宜記入ス
合計行ハ天然下種ヲ行フ場合ニハ是ニ對シテ掲記セシ事項（樹種、面積千入等）ヲ初年分、第二年分第三年分等ニ各附加スルヲ要ス

(九) 混合植栽ヲ行フ場合ニハ備考欄ニ於テ毎町歩ニ對スル各樹種混合ノ割合及苗數ヲ顯ハシ且此割合ヨリ各樹種ノ占領面積及苗數ヲ掲ク

(十) 事業準備等ノ爲メ明治廿八年度ヨリ實施シ難キ見込ナラハ其若手年度ヲ備考欄ニ記入ス（以下諸表之ニ準ス）

第二號現在造林總括表

(一) 本表ハ無立木地、保安林ニ對シ要スル所ノ總高ヲ掲クルモノニシテ第一號毎年造林表ヨリ摘錄シテ算定記載セルモノナリ

第三號苗圃表

(一) 初年ニハ播種欄ノミノ記入ニ止ム
第二年ニハ當年分播種ニ係ルモノト前年分播種ノ床替ノ兩欄下ニ記入ス
第三年ニハ當年播種スヘキ分ト前々年來ノ床替スヘキ分トアルニ由リ之ヲ播種及床替兩欄下ニ累加記入ス
山行トナル苗木ヲ得ル當年カ苗圃ノ完備シタル年ナリ例之ハ第三年ニテ山行苗木ヲ得ルトセ

ハ此年次ニ當ル經費カ后來順還シテ支出スヘキ年々ノ苗圃費ナリ故ニ爾后掲記スルヲ要セス

樹種別再掲ノ部ニハ苗圃完備ノ當年ノモノヽミヲ記載ス

(二) 雜品費中ニハ普通ノ雜品ノ外器具類及墻用ノ材料等ノ價格ヲ算入ス
但シ其保存期限ヲ定メ之ヨリ算定セル一ケ年分ノ費用ヲ算入スルモノトス

(三) 養成苗數ハ山地ヘ植付ケ得ル本數ヲ掲ケ

(四) 借地料ヲ拂フモノト否ラサルモノトハ各別行ニ記入ス

(五) 各樹種毎ニ山行苗ヲ得ル年次ノ下行ニ現在面積（明治廿六年四月一日現在）ヲ記入スヘシ但シ現在面積ハ表中官林ノ部無立木地ニ對スル分ニ悉ク配置掲記ス

第四號官林土木工事總括表

(一)(二) 本表ハ三十ケ年間ニ完成スヘキ總高ヲ調査シテ當該欄內ニ記入ス
橋梁ハ備考欄內ニ其個數ヲ掲クヘシ

第五號官林土木工事每年經費表（永久防火線ノ部）

(一) 本表ハ完成高ヲ完成期三十ケ年ニ配當シテ其完成迄年々支出ヲ要スル設置費及修繕費ヲ示スヘキ表ナリ

(二) 修繕費ハ成功後原物形体ノ維持上ニ要スル毎年ノ支出費ナレハ本表記載例ニテハ三十一年目ニ於ケル千五百八ニ對スル金三百圓ヲ以テ年々要スル修繕費トス而ノ本例ニテハ初年設置后毎年修繕ヲ加フルモノト假定シテ示セルモノニシテ隔年ノ場合ニ非ス

第六號仝上表（臨時防火線ノ部）
前表ニ準シテ調製ス表式略ス（以下諸表之ニ準ス）

第七號全土表　（道路之部）
第八號全土表　（橋樑之部）
第九號全土表　（堤防之部）
第十號全土表　（溝渠之部）

毎年造林表

第一號　何大林區署

樹種	毎ノ樹造林濟否	年次	植栽 面積	新植 苗木 數量	新植 苗木 價格	新植 苗木 運搬費	新植 下刈 人員	新植 下刈 賃金	新植 植付 人員	新植 植付 賃金	新植 計 人員	新植 計 經費	補植 苗木 數量	補植 苗木 價格	補植 苗木 運搬費	補植 下刈 人員	補植 下刈 賃金	補植 植付 人員	補植 植付 賃金	補植 計 人員	補植 計 經費	手入 人夫 人員	手入 人夫 賃金	合計 苗數	合計 人員	合計 經費	全完地了造林年限	備考
			町	本	圓	圓		圓		圓		圓	本	圓	圓		圓		圓		圓		圓	本		圓		
											官林之部																	
											無立木地																	
杉	未濟	初年	1 0000	10,000	[illegible]		25	5 000	33	6 600	58	21 540												10,000	58	21 540		補植ハ三割ニシテ一ケ年ニ完了ノ見込
〃	〃	第二年	1 0000	10,000	9 940		250	5 000	33	6 600	58	21 540	3,000	2 982		25	5 000	10	20 000	35	9 982	15	3 000	13,000	108	34 522		手入ハ二ケ年ニ完了ノ見込故ニ初年及第二年ニ新植セル者ノ兩者合計ヲ掲ク且初年第二年共毎年二回ノ見込
〃	濟	第三年	1 0000	10,000	9 940		25	5 000	33	6 600	58	21 540	3,000	2 982		25	5 000	10	20 000	35	9 982	30	6 000	13,000	123	37 522	20	
杉		初年																										
〃	計	第二年																										
〃		第三年																										
											天然下種																	
松杉																												
	計																											
		初年																										
合計		第二年																										
		第三年																										
											將來伐採跡地（記載例無立木ト同シ）																	
		初年																										
總計		第二年									保安林（記載例同上）																	
		第三年																										
杉松											樹種別再掲																	
	計																											
											山野之部（記載例官林ノ部ニ同シ）																	
		初年																										
通計		第二年																										
		第三年																										
杉松											樹種別再掲																	
	計																											

第二號　　何大林區署　　現在造林總括表

造林種類	樹種	無立木地 面積	無立木地 苗數	無立木地 經費	保安林 面積	保安林 苗數	保安林 經費	計 面積	計 苗數	計 經費	全造林地完了年限	備考
		町	本	圓	町	本	圓	町	本	圓		
					官林							
人工植栽面積	スギ											
〃	ヒノキ											
〃	何々											
計												
天然下種面積	マツ											
〃	何々											
計												
合計												
					山野							
					記帳例官林ニ同シ							
總計												

第三號　何大林區署　苗圃表

樹種	年次	全面積	播種 種子 數量	播種 種子 價格	播種 床地 面積	播種 床地 借地料	播種 人夫 人員	播種 人夫 賃金	播種 雜品費	播種 計 人員	播種 計 經費	床替 苗數	床替 床地 面積	床替 床地 借地料	床替 人夫 人員	床替 人夫 賃金	床替 雜品費	床替 計 人員	床替 計 經費	合計 養成苗數	合計 人員	合計 經費	備考
		町	升	圓	町	圓		圓	圓		圓	本	町	圓		圓	圓		圓	本		圓	
										官林之部													
										無立木地ニ對スル分													
スギ	初年	0 0008	1,1	0 550	0 0008	0 240	1,2	0 240	0 300	1,2	1 330										1,2	1 330	
〃	第二年	0 0204	1,1	0 550	0 0008	0 240	1,2	0 240	0 300	1,2	1 330	11,600	0 0126	1 680	8,4	1 680	0	8,4	3 360		9,6	4 690	
〃	第三年	0 0505	1,1	0 550	0 0008	0 240	1,2	0 240	0 300	1,2	1 330	10,450	0 0427	4 410	2,1	1 200	0	2,1	8 610	10,000	22,2	9 940	
	現在	0 0315																					
計	初年																						
	第二年																						
	第三年																						
	現在																						
										將來伐採跡地ニ對スル分 (記載例無立木地ト仝シ)													
										保安林ニ對スル分 (記載例仝上)													
合計	初年																						
	第二年																						
	第三年																						
										山野之部 (記載例官林ノ部保安林ニ對スル分ト仝ジ)													
總計	初年																						
	第二年																						
	第三年																						
	現在																						
										樹種別再掲													
スギ																							
ヒノキ																							
何																							
	計																						

官林土木工事總括表

第四號　　何大林區署

土功ノ種類	潰地面積	長	幅	高	深	人夫 人員	人夫 賃金	材料 品名	材料 數量	材料 價格	計 人員	計 經費	備考
	町	間	間	尺	尺		圓			圓		圓	
永久防火線	30 0000	30,000	3	0	3	3,750	750 000		0	0	3,750	750 000	
臨時防火線	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	
計		30,000	3	0	3	3,750	750 000		0	0	3,750	750 000	
道路													
計													
橋梁五間以下土橋													
〃 木橋													
〃 五間以上十間以下土橋													
〃 木橋													
〃 十間以上土橋													
〃 木橋													
計													
堤防													
計													
溝渠													
計													
合計													

第五號　　何大林區署　　官林土木工事　　毎年經費表　　永久防火線ノ部

年次	新設								修繕				人夫			合計			備考
	潰地面積		長	幅	高	深	人足 人員	人足 賃金	長	幅	高	深	人員	賃金		人員	經費		
	町		間	間	尺	尺		圓	間	間	尺	尺		圓			圓		
第一年	1	0000	1,000	3	0	3	125	25 000	0	0	0	0	0	0		125	25	000	
第二年	1	0000	1,000	3	0	3	125	25 000	1,000	3	0	3	50	10	000	175	35	000	
第三年	1	0000	1,000	3	0	3	125	25 000	2,000	3	0	3	100	20	000	225	45	000	
第四年	1	0000	1,000	3	0	3	125	25 000	3,000	3	0	3	150	30	000	275	55	000	
何年																			
〃																			
〃																			
第三十年	1	0000	1,000	3	0	3	125	25 000	29,000	3	0	3	1,450	290	000	1,575	315	000	
—	—		—	—	—	—	—	—	30,000	3	0	3	1,500	300	000	1,500	300	000	
計	30	0000	30,000				3,750	750 000											

○明治廿六年五月戊第一八號ノ二山林局長ヨリ各大林區署長ヘ造林事業費基按調製方ノ義ニ付通牒今般戊第一八號ヲ以テ造林事業費基按編成ノ儀御達ニ相成候處目下官林實測ハ勿論境界踏査實況調査等モ完了セサル塲合ニ付調査上御困難ノ儀モ可有之存候得共抑モ造林事業ハ永遠ヲ期スヘキモノナレハ創始ノ日ニ當リ豫メ之カ計畫ヲ定ムヘキ義ニ有之中途ニシテ時々費額ニ變動ヲ生スルニハ事業蹉跌ノ不幸ヲ來シ林業上勘ナカラサル影響ヲ蒙リ候儀ニ付右等ノ憂ヲ釀サヽル樣今日ニ於テ根據アル調査ヲ遂ケ將來ニ對スル確實ナル方針ヲ計畫シ事業ノ進捗ヲ謀ラルヽノ御主意ニ出タル儀ニ候間其邊御了知充分御調査相成度將又苗木ノ義ハ民間ヨリ購入スルモノヨリハ官ニ於テ培養セシモノヲ用ユル方營林上得策ト認メ候條爾來格段ナル塲合ヲ除クノ外自設苗圃栽培ノモノヲ以テ供給スル方針ヲ執リ御計畫相成度命ニ依リ此段及御通牒候也

第四　成蹟報告

○明治廿五年三月發第一三〇號山林局長ヨリ各大林區署長ヘ通牒客年十月發第六八六號ヲ以テ及御照會候官行造材事業豫算ニ對スル處分報告書ノ儀ハ別表ニ據リ御進達相成度（以下略之）

何年度 官行造材處分報告書

記入番號	起業年月日	伐採面積 町	資材 樹種	資材 材積	資材 價格 單價 圓	資材 價格 總額 圓	造材 種目	造材 數量 單位	造材 價格 單價 圓	造材 價格 總額 圓	經費 出張 俸給 圓	經費 出張 旅費 圓	經費 伐木及造材 雇人數	經費 伐木及造材 賃金 雇人壹人當 圓	經費 伐木及造材 賃金 總額 圓	經費 運搬 雇人數	經費 運搬 賃金 壹人當 圓	經費 運搬 賃金 總額 圓	經費 何々雇人手當 圓	經費 計 圓	差引損益 圓	備考

種目別再掲

注意

本書ハ事業完了ノ後報告スヘキモノトス

會計年度經過後ニ於テ處分未濟ノモノアルトキハ其際處分濟ノモノヽミヲ一先報告シ爾後三ケ月ヲ經過シ尚ホ處分未濟ノモノアルトキハ三ケ月毎ニ當初ヨリ其時迄ニ處分セシモノヲ悉ク記入報告スルモノトス

數回報告ノ後事業完了ニ至リシモノト雖モ當初ヨリ處分セシモノハ悉皆記入シ其差金ヲ明瞭ナラシメ報告スルモノトス

經費ノ欄ニ於テ本書記載事項ノ外尚ホ費途アルトキハ順次經費ノ箇別ニ區リ其欄ヲ設クヘシ

經費ノ欄掛員ノ俸給旅費ハ特ニ該事業ニ對シ掛員ヲ設ケタル場合ニ記入スヘシ

種目別再掲ノ部ニハ造材欄以下ヲ掲記スルモノトス

差引損益ノ欄損ニ屬スル分ハ朱書スヘシ

何　年　度

官行造材處分報告書

何大林區署

何年度 官行造材處分報告書

記入番號	起業年月日	伐採面積 町	資材 樹種	資材 材積	資材 價格 單價 圓	資材 價格 總額 圓	造材 種目	造材 數量 單位	造材 價格 單價 圓	造材 價格 總額 圓	經費 掛俸給 圓	經費 旅費 圓	伐木及造材費 雇人數	伐木及造材費 賃金 壹人當 圓	伐木及造材費 賃金 總額 圓	運搬費 雇人數	運搬費 賃金 壹人當 圓	運搬費 賃金 總額 圓	何々雇人手當 圓	計 圓	差引損益 圓	備考

種目別再掲

注意

本書ハ事業完了ノ後報告スヘキモノトス

會計年度經過後ニ於テ處分未濟ノモノアルトキハ其際處分濟ノモノヽミヲ一先報告シ爾後三ケ月ヲ經過シ尚ホ處分未濟ノモノアルトキハ三ケ月毎ニ當初ヨリ其時迄ニ處分セシモノヲ悉ク記入報告スルモノトス

數回報告ノ後事業完了ニ至リシモノト雖モ當初ヨリ處分セシモノハ悉皆記入シ其差金ヲ明瞭ナラシメ報告スルモノトス

經費ノ欄ニ於テ本書記載事項ノ外尚ホ費途アルトキハ順次經費ノ節別ニ據リ其欄ヲ設クヘシ

經費ノ欄掛員ノ俸給旅費ハ特ニ該事業ニ關シ掛員ヲ設ケタル場合ニ記入スヘシ

種目別再掲ノ部ニハ造材欄以下ヲ掲記スルモノトス

差引損益ノ欄損ニ屬スル分ハ朱書スヘシ

○明治廿六年二月戊第一二號植林事業實行成蹟報告方大林區署ヘ達

苗木栽培成蹟表及林地植栽成蹟表別紙說明書ニ據リ調製每年四月末日ヲ期シ其署ヲ發シ進達スヘシ

苗木栽培成蹟表說明書

(一) 播種床替ニ屬スル期間ハ會計年度ニ依ラス特ニ事業期間ニ依リ區別スルモノトス

事業期間ハ左ノ如ク定ムヘシ

播種期間トハ播種事業施行ノ時ヨリ(若シ播種ノ爲メ豫備ノ事業ヲナシタルトキハ其時ヨリ)初回ノ床替ヲナス前迄ノ間ヲ謂フ

初回床替期間トハ初回床替施行ノ時ヨリ次回床替施行ノ前迄ノ間ヲ謂フ

次回床替期間トハ次回床替施行ノ時ヨリ林地植栽(第三回ノ床替ヲ爲ス塲合ニハ第三回床替施行ノ前迄)施行ノ前迄ノ間ヲ云フ

(二) 年度欄ニハ播種ヲ行ヒシトキノ會計年度ヲ掲クルモノトス而メ栽培事業終了迄ハ其記入年度ヲ引續キ掲記ス例之ハ三年間ニテ栽培事業終了スルモノトセバ明治廿五年度ニ播種セシモノハ翌年其床替セルモノヲ報告ノ際年度欄下ニ「25」ト記入シ廿七年度報告モ同樣記入スルカ如シ

(三) 林地植栽成蹟表中年度欄「新植」記入スヘキ年度ニ對スル新植、補植及手入ノ關係亦之ニ同シ

(四) 同一樹種ニシテ借地料ヲ拂フモノト否ラサルモノト混スル塲合ニハ別行ニ掲記スヘシ

苗圃番人ヲ置キシ塲合ハ播種及床替ノ面積ニ比例配當シテ以テ人夫數トシ算出シテ當該欄下ニ記入スヘシ

(五) 雜品費欄下ニハ總テ所要物品ノ合計價額ヲ記入スヘシ

墻ノ設置若クハ修繕ヲ行ヒシ場合ニハ其價格ハ雜品費ニ併算シ其配當法ハ第四項ニ準ス器具器械ヲ購入セシ場合ニハ之レカ價格ハ其使用ノ目的ニ應シ播種若クハ床替ノ雜品費價格ニ併算シ共通使用スヘキモノハ使用ノ割合ヲ見積リ播種又ハ床替ノ雜品費價格ニ併算スヘシ

(六) 合計欄中枯損部合ハ初回床替ノ際ノ苗數ト養成苗數トノ差ヨリ百分比例ヲ以テ算出シタルモノヲ掲クヘシ

(七)(八) 若シ第二回床替ヲ要スル場合ニハ前床替欄ニ準シテ第二回床替欄ノ次ニ欄ヲ設ケ記入スヘシ

特別ナル苗木栽培法（例之ハ林地自生ノ苗木ヲ採集シ苗圃ニテ撫育ヲ加ヘタル后林地ニ植栽スルノ類）ヲ行ヒシ場合ニハ其旨備考欄ニ記入シ而ノ之ニ關スル勞費ハ適當ノ欄內ニ記入スヘシ

林地植栽成蹟表說明書ノ

(一) 新植、第何回、補植、第何回手入等ノ事業期間ハ會計年度ニ從フヘシ

故ニ手入ノ如キ同年度間ニ二回以上施行スル場合ト雖モ之ヲ第何回ノ手入ト見做シ一欄內ニ其合計ヲ記入シ其年度間手入回數ノ異ナルモノハ其異別ニ從ヒ反別ノ內譯ヲ備考欄ニ記入スヘシ

(二) 混合植栽ノ場合ユハ混合植栽面積、各樹種苗數其他ノ事項ヲ各當該欄下ニ記入シ且ツ每町步混合ノ割合ヨリ面積ヲ改算シ之ニ對シ樹種別ニナシタル苗數、人夫、經費ノ總高ヲ備考欄ニ記入スヘシ

(三)(四) 年度欄中「播植」ハ苗木養成ノ爲メ播種シタル年度ヲ記入スヘシ

苗木價格ハ自設苗圃栽培ニ關ルモノハ苗木栽培成蹟表ニ依リ得シ經費ヲ朱書シ購買ニ係ルモノハ墨書スヘシ

(五) 完否欄ハ事業ノ完了セシヤ否ヤヲ記スルモノニシテ補植手入ノ如キ同一林地ニ數回之ヲ施行スヘキモノハ最後（則チ或年度ノ新植ニ對シテ）ノ補植又ハ手入ノ事業ヲ終リタルヲ完トシ其以前ノ事業ヲ否トス

(六)(七) 然レトモ一旦完了ト認メ報告セリト雖モ天候其他豫想外ノ原因ノ爲メ翌年更ニ施行ズルヿアルヘシ此場合ニハ次年報告ノ際其事由ヲ備考欄ニ記シ前年報告セシ合計及摘要兩欄ヲ修正シテ報告スヘシ

特別多額ノ經費ヲ要スルモノハ其理由備考欄ニ記入スヘシ

特別ナル植林法ヲ行ヒシ場合ニハ其旨備考欄ニ記入シ之ニ關スル勞費ハ各欄下ニ適宜記入スヘシ

栽植地林

林大何

成績表

署區

年度	係ル者播種ニ	係ル者新植ニ	樹種	面積 町	新植 施行年月	新植 苗木 員數 本	新植 苗木 價格 圓	新植 苗木 運賃 圓	新植 下刈 人員	新植 下刈 賃金 圓	新植 付植 人員	新植 付植 賃金 圓	新植 計 圓	補植 施行年月	補植 枯損部合	補植 苗木 員數 本	補植 苗木 價格 圓	補植 苗木 運賃 圓	補植 下刈 人員	補植 下刈 賃金 圓

植付 人員	植付 賃金 圓	植付 計 圓	植付 完否	手入 施行年月	手入 回數	手入 人夫 人員	手入 人夫 賃金 圓	手入 完否	合計 苗木 員數 本	合計 苗木 價格 圓	合計 人夫 人員	合計 人夫 賃金 圓	合計 運搬費 圓	合計 計 圓	摘要 毎町歩 苗木 本	摘要 毎町歩 人夫 人	摘要 毎町歩 費額 圓	備考

培栽木苗

何大林

年度	樹種	播種 施行年月	播種 樹實 數量	播種 樹實 價格	播種 地床 面積	播種 地床 借料地	播種 人夫 人員	播種 人夫 賃金	播種 雜品費	播種 計	第一回床替初 施行年月	第一回床替初 苗數	第一回床替初 地床 賃金	第一回床替初 地床 借料地	第一回床替初 人夫 人員	第一回床替初 人夫 賃金	第一回床替初 雜品費	第一回床替初 計	第二回床替 施行年月	第二回床替 苗木 苗數	第二回床替 苗木 估價	備考
			改益	價格	面積	借料地	人員	賃金	圓	圓		本	圓	圓	人員	賃金	圓	圓		本	都合	
			本	圓	町	圓		圓	圓	圓		本	町	圓		圓	圓	圓		本	都合	

成蹟表

區署

年度	樹種	二回床替 地床 面積	二回床替 地床 借料地	二回床替 人夫 人員	二回床替 人夫 賃金	二回床替 雜品費	二回床替 計	合計 樹實 改益	合計 樹實 價格	合計 地床 面積	合計 地床 借料地	合計 人夫 人員	合計 人夫 賃金	合計 雜品費	合計 計	摘要 成苗木 養成	摘要 成苗木 估價	摘要 每升 苗數	摘要 每升 賃金	成經費千本資	備考
		町	圓		圓	圓	圓	升	圓	町	圓		圓	圓	圓	本	都合	本	圓		
		町	圓		圓	圓	圓	升	圓	町	圓		圓	圓	圓	本	都合	本	圓		

右ニ付山林局長ヨリ大林區署長ヘ通牒廿六年二月戊第一二號ノ二

今般戊第一二號ヲ以テ苗木栽培及林地植栽事業實行成蹟報告ノ儀御達相成候處本年ノ報告期ニハ苗木栽培成蹟表ハ明治廿五年春季已后ノ播種ニ係ルモノヨリ（本表ハ播種ヨリ苗木養成ニ至ル迄全体ノ成蹟ヲ知ルヲ旨トス故ニ廿四年以前ノ播種ニ對スル床替ハ之ヲ省クヘシ）林地植栽成蹟表ハ明治廿五年度新植施行ニ係ルモノヨリ（本表ハ新植、補植、手入等凡テ造林事業全体ノ成蹟ヲ知ルヲ旨トス故ニ廿五年夏季ノ手入又ハ本年春季補植ノモノハ廿四年度以前ノ新植ニ對スルモノナレハ之ヲ省クヘシ）御報告ニ相成候儀ニ付此段及御通牒候也

第五　部分木及献植

○明治十一年三月甲第四號内務省布達

植林之儀ハ最モ方今ノ急務ニ付今般部分木仕付條例別紙之通施行候條其趣旨ヲ體認從事候樣可致此旨布達候事

部分木仕付條例

第一條　樹木ナキ官有ノ山野官ニ於テ差支無之時ハ人民ノ願ニヨリ之ヲ貸渡シ地味ニ適當セル木種ヲ植揷セシメ其幾分ヲ官納シ自ラ其幾分ヲ納メシムルヲ名ケテ部分木ト云フ

但官林伐木跡ト雖モ從前部分ノ慣行有之個所ハ本文ニ準スルヲ得ヘシ

第二條　第一條ノ趣旨ヲ以テ官地ヲ拜借セント欲スルモノハ先ツ該所ノ反別ヲ測量シ地味ノ適否ヲ審査シ別紙第一號書式ニ照ラシ地方廳ニ願出ヘシ

◎第四種　○第二類

第三條　前條ノ場合ニ於テハ地方廳ニ於テ官吏ヲ派遣シ巡視點檢事實相違ナキヤヲ檢シ之ヲ聞屆ケ別紙第二號書式ニ倣ヒ貸地案狀ヲ下ケ渡スヘシ

第四條　樹木部分ノ方法ハ運輸ノ便否地味ノ善惡人民希望ノ原簿ニヨリ二官八民（假令ハ百本立本ナレハ二十本ヲ官收シ八十本ハ人民ニ付與スルヲ云フ）以上實際適宜ニ之ヲ區分スヘシ

第五條　第四條揭クル所ノ部分方法ハ成木ノ上立木ノ儘分配スルアリ又ハ伐木ノ節官民於テ各評價人ヲ出シ總計金額ヲ豫算シ金員ヲ以テ配賦スルアリ共ニ官民協議ノ上適宜ニ之ヲ定ムルモノトス

但不得已事故アッテ官ニ於テ該地入用ノ節ハ相當代價ヲ以テ其民有ニ當レル樹木ヲ買上クヘシ

第六條　地方廳ニ於テハ臺帳ヲ製シ每年八民ヘ貸渡シタル地所反別（植付挿付）木種員數及ヒ拜借人ノ住所姓名共詳細取調前年十二月迄ノ分翌年一月限リ內務省地理局ニ屆出ヘシ

第七條　官ハ地所ノ貸渡料ヲ取立サルヘシ借人ハ植揷養護ヲ擔任スルモノトス

第八條　植揷ノ後樹木成育スルニ隨ヒ手入伐木セント欲スルトキハ前以テ地方廳ニ願出ッヘシ地方廳ニ於テ實地點檢不都合ナキモノハ是ヲ許可シ爰除ノ樹木ハ悉ク仕立主ニ下付スヘシ而シテ臺帳ニ就キ其爰伐セシ木數ヲ削除シ其翌年一月限リ遺漏ナク內務省地理局ニ屆出ッヘシ

但十五年以後ニ至リ抜伐スル木品ハ最初ノ約束ニ基キ各之ヲ配賦スヘシ

第九條　地所拜借願濟ノ上ハ四至境界ヲ正シ四隅ヘ左ノ通仕立主ヲシテ標木ヲ建設セシムヘシ

裏

何府縣　下何國何郡何町村　字何四至境界

等何號幾官民部分林反別何程

第十條　仕立主ノ都合ニヨリ其部分木仕付ノ權ヲ他ニ讓渡サント欲スルトキハ其事實ヲ詳記シ地方官ニ願出ッヘシ地方廳ニ於テハ實際不都合ナキモノト認ムルトキハ證券ニ裏書シテ下渡シ追テ內務省地理局ヘ屆出ッヘシ

但本文ノ樹木ヲ質入書入セント欲スルトキハ明治七年第六號公布ノ手續ニ準擬シ所戶長ノ檢認ヲ受クヘシ

第十一條　借地反別ハ豫メ其制限ヲ定メスト雖モ其植栽見込ノ員數ニ對照シ相當ノ地積ヲ貸付スルモノトス

但植立員數ノ都合ニヨリ廣大ノ地積ヲ要シ一時植揷ヲ爲シ得サル場合ニ於テハ三ケ年以內ノ期限ヲ以テ追次其植繼ヲ許可スヘシ然レトモ三ケ年ヲ過キ猶其植揷未了ノ地ハ直ニ返附セシムヘシ

第十二條　一時植立並追次植繼ニ拘ラス實地植立濟ノ上ハ其旨地方廳ニ屆出之レカ檢查ヲ受クヘシ

願書雛形

第一號

表紙

部分木　植付挿付　願

何府縣管下何國何郡何町村　華族士族平民　何之誰

御管內何國何郡何町村字何官山野反別何程ヘ何木何程幾官幾民ノ部分方法ヲ以テ御規則ノ通私費植付挿付被差許度此段奉願候也

何府縣管下何國何郡何町村
華士族
平民
何之誰印

第一號

年　月　日

奥書

前書之通相違無之ニ付被差許度候也

年　月　日

地方長官宛

區戸長印

證券雛形

第二號

此割印ハ縣廳所用ノ印ヲ稟帳ニ割印ス

割印

番號　部分木證券

何府縣下何國何郡何町村字何官山野

反別何程

何樹植付挿付何程

樹種數品有之モノ本行ニ倣ヒ列記スヘシ

右明治何年何月ヨリ地所貸渡候條植付挿付ヨリ培養保護ニ至ルマテ全ク私費ヲ以テ可相辨尤成育ノ上ハ幾官幾民ノ割合ヲ以テ部分スヘキモノ也

年　月　日

何府縣下何國何郡何町村

何之誰

地方長官姓名印

○明治十一年三月乙第二十七號內務省達　府縣

森林ノ經國ニ緊要ナルハ勿論ニ候處近來工事進歩土木多端ノ折柄木材ノ需用日一日相增候ニ付テハ植樹ノ儀ハ最モ方今ノ急務ニ有之然ルニ偶種樹ニ志アルモ所有地無キカ爲着手致シ得サル者有之哉ニ相聞候ニ付今般部分木仕付條例頒布候條其趣旨管下人民ヘ丁寧告諭シ國益ヲ永遠ニ圖候樣可致此旨相達候事

○明治十一年六月甲第十四號內務省布達

本年三月當省甲第四號ヲ以テ部分木仕付條例及布達置候處右ニ照準出願ノ者ハ別紙ノ條件相心得不都合ノ儀無之樣可致此旨布達候事

（別紙）

一　部分木仕付條例ニ準シ官地拜借許可濟ノ後條例第十條ノ手續ヲナサス竊ニ其地ヲ他人ニ貸シ又ハ質入書入ヲ爲スモノ

一　同斷許可濟ノ日ヨリ滿一年ヲ過キテ植挿着手セサルモノ

但條例第十一條但書ノ塲合ハ本文ト牴觸スルヿナシ

一　同斷一ケ年以內ト雖モ主願ノ樹木ヲ植挿セス他事ニ使用セルモノ

一　植樹ノ爲メ甲ノ地ヲ拜借シ置乙ノ地ニ苗床ヲ設ケ實植苗植等ヲナシ他日生育ヲ待テ甲地ニ移植スヘキヿノ著明ナルヰト雖モ最初許可ノ日ヨリ滿三年ニ至リ猶甲地ニ移植セサルモノ

右條々ノ所爲アルモノハ直ニ其地幷地上ニ附着セルモノヲ取上ケ最初貸渡許可ノ日ヨリ而後ノ借地料ニ當ル金額ヲ徵收シ且其者等（第一條ノ所爲ニ依リ其地ヲ借リ又ハ書入質入ニ取リタル者モ同シ）ヘ再此條例ニ由リ官地ヲ貸渡スヲ許サス

○明治十三年十二月廿六日部分木證券料金ハ収入セサル件（内務省）決議

本省甲第四號布達明治十一年三月十四日部分木仕付條例御發行相成候處該條例第三條ニ貸地券狀ヲ下渡スヘシト有之券狀料金收入ノ明文無之就テハ該券狀製造費及手數料等總テ人民ヨリ収入不致儀ト相心得可然哉

○明治二十一年六月京發第七〇號部分林ノ萌芽木部分ノ件（京都大林區署）照會

部分木仕付條例ニ依ルトキハ人民ニ於テ植挿セシモノヽミヲ部分スヘキ義ニ付濶葉樹ノ如キ斫株ヨリ再萌スヘキ性質ノモノト雖モ一度伐採後再萌セシ其蘖ニ對シ人民ノ勞費ハ無之ヲ以テ此等ノ類ハ部分スヘキモノニ無之候哉果シテ然ラハ素ト松樹ノ部分木其伐木跡ヘ天然發生ノ松モ亦同樣ノ儀ニ可有之哉

明治二十一年七月山林第三一六號（山林局長）回答

最初ノ契約ニ據ルモノニ候得共若シ其契約ナカリシハ一度ノ伐採ヲ以テ直ニ跡地引揚候ハ頗ル憫然ノ至リニ候間矢張前割合ノ通リ部分候方穩當ト存候併シ萌芽ノ都度部分シ來リ候テハ際限モ無之ニ付是等ハ今後何回迄部分スヘキカ更ニ契約致置候樣御取計相成可然被考候且又後段松木ノ部分木仕付條例之件（岩手縣）伺

分林其伐採跡ヘ天然發生セシモノヽ如キハ元ヨリ部分スヘキ限リニ無之義ト存候

○明治二十三年七月甲第九〇四九號部分木仕付條例ハ勅令第六十九號官有森林原野及産物特別處分規則ニ關係無之旨他縣伺指令之趣有之ニ就テハ右條例第一條ノ地盤貸渡ハ會計規則ニヨリ競爭ニ付スヘキ義ト相心得可然哉

明治二十三年七月林第五九八九號（大臣）指令

地盤貸渡ハ競爭ニ付セス貸與スル事ヲ得ル義ト心得ヘシ

○明治廿五年一月發第一一二一五號山林局長ヨリ各大林區署ヘ通牒

官有地内ニ部分木仕付ノ儀ニ付今般別紙ノ通地方廳ヘ及通牒候條貴署ニ於テ實況調查上不存置ノ個所ニ限リ差支ナキ旨御回答相成可然此段及御通牒候也

○仝年仝月仝號山林局長ヨリ各府縣ヘ（但神奈川、愛知、靜岡、山梨、沖繩ヲ除ク）ヘ通牒

目下各大林區署ニ於テ官有森林原野實況調查中ニ有之候ニ付テハ部分木仕付許可ノ儀ハ其許可以前ニ於テ差支有無一應所在大林區署ヘ御照會ノ上右差支ナキ分ニ限リ御許可相成度依命此段及御通牒候也

○明治廿五年一月戊第五號内訓

明治十一年三月甲第四號内務省布達部分木仕付許可候ハヽ明治廿三年十一月勅令第二百七拾五號官有財産管理規則第七條ニ準據シ相當ノ年期ヲ附スヘキ儀ト心得ヘシ右内訓ス

（從來ノ部分林ニ對シテモ八十年以内ヲ以テ相當ノ年期ヲ付スヘキ旨山林局長ヨリ大林區署長ヘ通知アリ玆ニ略ス）

○明治十二年三月廿二日官林ヘ獻植ノ件（内務省）決議摘要

第一條　公衆一般ノ利益ヲ圖リ苗木ヲ獻植シテ水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防禦セントスルモノハ自利ノ意ナキモノニ付燈臺又ハ學校病院ノ敷地ヲ獻シ水理堤防ノ爲メ用度ヲ献上スルモノト同情同理ナリ故ニ其願意ヲ開届ケ例規之通御賞譽相成可然

第二條　一已ノ私利ヲ計ルモノハ政府ニ於テ其獻木ヲ受クヘキノ理ナシ故ニ御許可無之可然

第三條　政府ノ用供ヲ助ンカ爲メ苗木ヲ獻植セントスル者ハ即國恩冥加ノ爲メ米金ヲ献納スルト同樣ニ付壬申第十七號正月二十二日公達ノ趣ニ照シ渾テ御採用不相成候テ可然

第六　除害

○明治廿五年十月發第四一六號山林局長ヨリ道廳府縣大林區署ヘ通牒

今般勅令第八十四號ヲ以テ狩獵規則公布セラレ候處當省主管官有森林原野內ニ於テ該規則第十七條ニ依リ獵區設定ノ義出願セシモノ有之候節ハ從來土地人民ニ於テ狩獵セシ習慣狀況等詳細御調經伺ノ上處分相成度依命此段及御通知候也

（大林區署ヘハ本文中「當省主管官有森林原野」ノ十字ヲ「官林」ノ二字ニ改ム）

○明治廿五年十月戊第一〇八號山林局長ヨリ大林區署ヘ通牒

勅令第八十四號狩獵規則第五條禁獵制札建設ノ義ハ所轄官林中ト雖モ地方廳ノ名ヲ以テ建設スヘキ筈ニ付禁獵必要ト認ムル個所有之時ハ該廳ヘ照會ノ上建設可相成爲念此段及御通牒候也

○明治二十五年十二月發第三十七號各大林區署ヘ訓令

所轄官林內ニ於テ有害鳥獸ノ驅除捕獲ヲ必要ト認ムル場合ハ勅令第八十四號狩獵規則第二十六條及當省訓令第二十八號本則取扱手續第一條及第二條ニ準據シ地方廳ノ承認ヲ得タル上部下ノ吏員ヲシテ驅除捕獲方實施セシメ其驅除捕獲シタル鳥獸ノ名稱及ヒ員數ハ每月十日迄ニ前月分ヲ纏メ地方廳ニ報告スル儀ト心得ヘシ

右……訓令參照

勅令第八十四號狩獵規則（明治廿五年十月六日官報）抄錄

第二十六條第二十四條及第二十五條ニ揭クル鳥獸ト雖モ野鑑飼養ノ保護學術研究其他特別ノ理由ニ因リ驅除又ハ捕獲ヲ要スルトキハ地方長官ハ特ニ其許可ヲ與フルコトヲ得

本省訓令第二十八號狩獵規則取扱手續（明治廿五年十月十二日）抄錄

第一條　狩獵規則第二十六條第一項ニ據リ鳥獸ノ捕獲又ハ驅除ヲ許可セントスルトキハ豫メ其捕獲又ハ驅除スヘキ鳥獸ノ種類數及捕獲驅除ノ期限ヲ定ムヘシ

同條第二項ニ據リ有害鳥獸ノ驅除又ハ捕獲ヲ出願スル者アルトキハ被害ノ狀況ヲ調査シ必要ト認メタル場合ニ限リ其驅除捕獲期限及區域ヲ定メ之ヲ許可スヘシ

本條許可期限ハ三週日以內トス

第二條　第一條ニ據リ鳥獸ノ捕獲又ハ驅除ヲ許可スルトキハ期限ヲ定メ其鳥獸ノ名稱及員數ヲ報告セシムヘシ

前項ノ報告ハ每月十五日マテニ前月分ヲ取纏メ第一號表第二號表ノ區別ニ從ヒ本大臣ニ差出スヘシ

◎第四種　○第二類

◎第五種　保存林

○明治十七年二月第三號太政官布達
明治十五年二月第三號布達左ノ通改正ス
民有森林ノ中水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防キ頽雪ヲ支フルノ類國土保安ニ關係アル箇所ニシテ漫ニ其樹木ヲ斫伐シ鑛物土石ヲ掘採セハ他ニ障害ヲ及ホスコト不尠ニ付是等ノ箇所ハ實地ノ景狀ニヨリ其事業ヲ停止セシムルコトアルヘシ

府縣（沖繩縣ヲ除ク）

右布達候事

○明治十七年三月第三號農商務省達
明治十七年二月第三號ヲ以テ明治十五年二月第三號布達改正之儀布達相成候ニ付テハ明治十五年二月當省第三號達左ノ通改正候條此旨相達候事
民有森林ノ內水源涵養、土砂扞止、風潮除、頽雪止等ノ如キ國土保安ニ關係アル箇所ニ於テ樹木ヲ斫伐シ鑛物土石ヲ掘採セント欲スルモノアルトキハ其都度實地ノ景狀ヲ檢査シ處分方可伺出

○明治廿六年七月十七日本省決議
國土保存林ノ制タル公益ヲ保護スルト同時ニ個人ノ所有權ヲ制限スルモノナルヲ以テ此制ヲ適用スヘキ山林ノ選擇ハ最モ愼重ヲ加ヘ誤謬ナキヲ期セサルヘカラス依テ將來保存林ノ設定及解除ハ地方長官ノ上申ノ外ニ當該管轄區域ノ大林區署ノ意見ヲ徵スルコトヽセラレタシ

○明治十七年三月第七號布告地租條例
地租條例

◎第五種

第四條　公立學校地鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地禁伐林及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス（十二年法律第三十二號ヲ以テ改正）

○地租條例施行細則（二十二年十二月大藏省令第十九號）

第二條　條例第四條中免租ノ制限左ノ如シ

公立學校地ハ校舍建設アル一棟內ノ土地及授業上ニ必要ナル土地又ハ公立農學校ニ於テ實驗用ニ供スル五町歩以內ノ土地ニシテ借地ニ非サルモノニ限ル

鄉村社地ハ鄉社村社ノ現境內ニシテ該社有ノモノニ限ル

禁伐林ハ明治十七年太政官布達第三號ニ據リ樹木所伐停止ノ土地鐵道用地ハ明治廿年勅令第十二號私設鐵道條例第八條ノ土地

◎第六種　警察

○明治二十六年三月東京控訴院第二〇一四號訓令局四九五六號　東京控訴院檢事長ヨリ山林局長ヘ通牒

林務官司法警察執務手續別紙ノ通相定當院管內限施行セシメ候爲御承知寫一通及御送致候也

別紙

林務官司法警察執務手續

第一條　森林官ニシテ司法警察事務ニ從事スルモノハ林務官技師林務官補營林主事營林主事補監守トス

第二條　森林官ハ其所管官林部分林及ヒ貸下地內ニ起リタル犯罪ニ付司法警察ノ職務ヲ行フ

第三條　司法警察ハ犯罪ノ證憑及犯人ヲ捜査シ公訴提起ノ資料ヲ供スルヲ目的トス

第四條　司法警察ハ專ラ奸惡ヲ摘發シ公害ヲ除クニ着眼スヘシ

一概ニ犯罪ヲ檢擧スル事ノ多數ナルノミヲ以テ其職務ヲ盡スモノトナスヘカラス

第五條　司法警察官ノ職務左ノ如シ

一犯罪ノ捜査

一現行犯ノ假濠審

第六條　告訴告發ハ如何ナル場合ト雖モ之カ受理ヲ拒ムヘキモノニアラス

但シ其事件罪トナラスト思料シタルトキハ本人ニ示諭シテ取下ヲナサシムルコヲ得若シ承諾セサルトキハ之ヲ受理シ管轄檢事ニ送致スヘシ

第七條　書面ヲ以テ告訴告發ヲ受ケタル場合ニ於テ其事實不明瞭ナルカ又ハ捜査上必要ナリト思

料シタルトキハ附錄第一號書式ニ照準調書ヲ作ルヘシ

第八條　口述ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ隨意ニ其事實ヲ陳述セシメ附錄第貳號書式ニ照準調書ヲ作ルヘシ

第九條　告訴告發ニ付增減變更又ハ取下ケノ申立アリタルトキハ本人ヲシテ書面ヲ差出サシムル乎又ハ附錄第三號書式ニ準シ調書ヲ作ルヘシ

第十條　代人ヲ以テスル告訴告發ハ委任狀ヲ差出サシムヘシ

但法律ニ定メタル代人ノ告訴ハ此限リニアラス

第十一條　被害事件ハ左ノ區別ニ依リ管轄撿事ニ送致スヘシ

一　裁判所搆成法第十六條第二第三號ニ該ル輕罪事件ハ區裁判所ノ撿事

二　前項以外ノ重罪輕罪ハ地方裁判所及支部撿事

搜査處分

第十二條　非現行犯ハ勿論現行犯ト雖モ其事件輕微ニシテ臨撿ヲ要セサルモノハ搜査處分ヲ以テ取調ヲ爲スヘシ

第十三條　左ニ記載シタル犯罪ニ付搜査ヲ要スルトキハ速カニ管轄撿事ニ報告シ其指揮ヲ受ケ着手スヘシ

一　官吏公吏帝國議會議員府縣會議員幷華族帶勳有位者ニ關スル事件

一　郡市町村ノ民心ニ關スル事件

一　其他重要ナル事件

第十四條　所管外ニ於テ搜査ヲ爲スヘキトキハ之ヲ其地ノ司法警察官ニ囑托スヘシ

第十五條　搜査上必要ト思料シタルトキハ所有主又ハ保管人ノ承諾ヲ得テ其場所ニ立入リ物件搜索ヲ爲スコヲ得

第十六條　前條ノ場合ニ於テ物件ヲ發見スルト否トニ拘ラス附錄第四號書式ニ照シ調書ヲ作ルヘシ若シ犯罪ノ事實ヲ証明スヘキ物件ヲ發見シタルトキハ所有者又ハ保管人ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置スルコヲ得

第十七條　搜査上必要ト思料シタル場合ニ於テハ證人參考人又ハ被告人出頭ヲ求メ或ハ其所在ニ付キ取調ヲナシ附錄第五號書式ニ準シ聽取書ヲ作ルヘシ

但出頭ヲ求ムル場合ニハ附錄第六號書式ニ照シ報告書ヲ發スヘシ

第十八條　非現行犯人ノ逮捕ヲ必要トスル事件ハ被告人他ニ潛匿シタリト思料スルトキハ其地ノ司法警察官ニ搜査方ヲ囑托シ其旨送致書ニ追書スヘシ

第十九條　被告人逃亡シ其所在ヲ知ルヲ能サルトキハ其人相書ヲ取調訴訟記錄ニ添ヘ置クヘシ

假豫審

第二十條　現行犯ニ就キテハ被告人ヲ逮捕シタルト否トヲ問ハス犯所ニ臨撿シタルトキハ假豫審處分ヲナスヘシ

第廿一條　數人共犯ノ場合ニ於テ一人ヲ逮捕シタルトキハ他ノ正犯從犯ニ對シ假豫審處分ヲ爲スコヲ得

第廿二條　勾引狀ヲ發シタルト否トヲ問ハス被告人ノ送致ハ四十八時間ヲ超ユヘカラス

第廿三條　假豫審ニ着手シタル事件ト雖モ一旦其手續ヲ止メタルトキハ再ヒ豫審處分ヲ爲スコヲ得

ス

但其手續ヲ止メタル事件ト雖モ捜査處分ヲ以テ補足スルハ妨ケナシ

第廿四條　假豫審ニ着手スルモ事繁難ニシテ必要ト思料シタルトキハ管轄檢事ニ急報シ其指揮ヲ受クヘシ

檢証及物件差押

第廿五條　假豫審ニ付事實發見ノ爲メ必要ナリト思料シ犯所其他ノ場所ニ臨檢シ又ハ家宅捜索ヲ爲シタルトキハ附錄第七號第八號書式ニ照シ調書ヲ作ルヘシ

第廿六條　前條ノ場合ニ於テ物件ヲ差押ヘタルトキハ附錄第九號書式ニ準シ目錄ヲ作リ其一通ヲ所有主又ハ保管人ニ交付スヘシ

第廿七條　伐木伐根其他被害ノ事跡又ハ隱匿若クハ遺失等ノ物件ヲ發見シ犯罪アリト認知又ハ思料シタルトキハ附錄第十號書式ニ照シ調書ヲ作ルヘシ

第廿八條　家宅內ニ於テ檢証處分ヲナスニハ戸主等ノ承諾ヲ待ツニ及ハスト雖モ成ルヘク檢証着手前其旨ヲ告知シ公力ヲ用ユルコトナキヲ要ス

被告人逃捕及呼出

第廿九條　司法警察官被告人ヲ受取タルトキ逃捕ノ事由ヲ訊問シ附錄第十一號書式ニ照シ調書ヲ作ルヘシ

逃捕ヲナシタルモノヨリ始末書又ハ手續書ヲ差出シタルトキハ調書ニ添置クヘシ

第三十條　犯罪ヲ自首スルモノアルトキハ附錄第十二號ニ照シ調書ヲ作リ現行非現行犯ヲ甄別シ管轄檢事ニ送致スヘシ

但現行犯人ト雖モ逃走若クハ証據湮滅ノ恐レナシト思料スルトキハ何時ニテモ召喚ニ應スヘキノ請書ヲ徵シ訴訟記錄ト共ニ管轄檢事ニ送致スヘシ

第卅一條　假豫審ニ於テ被告人ニ對シ召喚又ハ勾引ヲ必要トスルトキハ附錄第十三號第十四號書式ニ依リ之ヲ發スルコヲ得

被告人他ノ管轄內ニアルトキハ其地ノ司法警察官ニ勾引狀ヲ送致シ執行ヲ嘱托スルコヲ得

第卅二條　被告事件ヲ檢事ニ送致スルトキハ附錄第十五號書式ニ照シ送致書ヲ作リ一件毎ニ添付スヘシ

若シ檢事ノ所在地遠隔ナル場所ニ被告人ヲ送致スルトキハ第十六號書式ニ照シ傳遞狀ヲ添ヘ最寄警察署分署又ハ巡査駐在所ニ引渡スヘシ

第卅三條　被告人ヲ呼出スニハ報告書ヲ用ヒ又口達スルモ妨ケナシ

第卅四條　現行犯準現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ留置スルコヲ必要トセサルトキハ第三十條但書ノ例ニ準シ處分スヘシ

被告人訊問

第卅五條　被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ第十七號書式ニ照シ訊問調書ヲ作ルヘシ

第卅六條　訊問ハ一事項毎ニ其端ヲ更メ成ルヘク同時ニ數事項ヲ訊問スヘカラス

數罪俱發ノ場合ニ於テハ一罪ノ訊問ヲ終リタル後他罪ニ及フヘシ

第卅七條　被告人呼出ニ應シ出頭シタルトキハ即時ニ訊問ヲナスヘシ遲クトモ其日ヲ過クヘカラス

時宜ニ依リ被告人ヲ呼出スコトナク直チニ其所在ニ就キ訊問ヲナスモ妨ケナシ

第卅八條　數人共犯ノ場合ニ於テ成ル可ク各別ニ訊問シ其通謀ヲ防クヘシ

婦女幼者及罪狀ノ輕キモノ其他事實ヲ吐露スヘシト思料スルモノヲ最初ニ訊問スヘシ

第卅九條　訊問ニ就テハ即席ニ其調書ヲ作リ問答ノ始末ヲ遺漏ナク記載スヘシ

証人訊問

第四十條　假豫審ニ付事實發見ノ爲メ証人ノ取調ヲ必要トスル塲合ニ於テハ之ヲ呼出シ又ハ其所在ニ就キ訊問ヲナシ附錄第十八號ノ書式ニ照シ調書ヲ作ルヘシ

証人檢証ノ塲所ニ在ルトキハ直チニ訊問ヲナスコトヲ得

第四十一條　証人ヲ呼出スニハ附錄第十九號書式ニ依リ呼出狀ヲ發シ又ハ口達スルヿヲ得

但時宜ニ依リ郵便其他ノ方法ヲ以テ出頭ヲ求ムルヿヲ得

第四十二條　証人ハ被告人又ハ他ノ証人ト各別ニ訊問スヘシ

但時宜ニ依リ被告人及他ノ証人ト對質セシムルコトヲ得

第四十三條　証人ヲシテ証據物件ニ付証明セシムルトキハ其物件ヲ示シ又ハ犯所若クハ其他ノ塲所ニ付キ証明ヲ要スルトキハ其塲所ニ同行スルヿヲ得

附則

第四十四條　各小林區署派出所ニハ附錄第二十號雛形ノ簿冊ヲ備置キ事件毎ニ其各欄內ニ記入スヘシ

第四十五條　違警罪事件ニ付テハ本則ヲ適用セス直チニ所轄警察署分署ヘ送致スヘシ

但重輕罪事件ト俱ニ發シタルトキハ此限リニアラス

第四十六條　証書類ニシテ証據トナルヘキモノニ袋ニ封入シ繰印ヲ施シ之ヲ訴訟書類ニ添付スヘシ

第四十七條　被告事件ヲ有罪ト思料シタルトキハ戸籍寫ヲ管轄裁判所檢事ニ廻送方ヲ原籍町村役場ヘ照會スヘシ

若シ無籍又ハ本籍不詳ノ者ハ可成最終住居ノ地ヲ明示シ置ク可シ

第四十八條　証據物件ヲ送致スルトキハ被告人ト共ニ護送者ニ托スルヲ得ルモ其物件粗大ナルモノハ通運其他成ヘク速達スヘキ方法ニ依リ送致スヘシ

但送致スル必要ナキモノハ適宜官署ニ領置シ若クハ所有主等ニ保管セシメ其証書ヲ徴シ一件書類ニ添付スヘシ

附錄第一號

告訴
告發人調書

何縣何國何郡何市町村番地身分職業氏名代人何某ニ對シ何々告訴告發事件ニ付取調ヲ爲ス左ノ如シ

問　何

問　告訴告發書ニ何々トアルハ如何

答　云々

問　何々

答　云々

右陳述ヲ錄取シ讀聞カセタル處相違ナキ旨申立タルニ依リ共ニ署名捺印ス

何處ニ於テ

官氏名　印
告訴
告發人何某印

實印ナキモノハ花押又ハ拇印

年　月　日

◎第六種

無筆代署シタルトキハ其旨ヲ此處ニ附記スヘシ
以下附錄之ニ倣フ

附錄第二號

告訴
告發人調書

何縣何國何郡何市町村番地身分職業氏名（吏員ナルトキハ詰署職名及氏名）ハ年月日時何處ニ至リ口述ニテ何々事件（告訴告發又ハ取下）スルヲ以テ其陳述ヲ聽クニ左ノ如シ

一　何々
一　何々
問　何々
答　何々

右陳述ヲ錄取シ讀聞カセタル處相違ナキ旨申立ツルニ依リ共ニ署名捺印ス

年　月　日

何所ニ於テ

官氏名印
告訴
告發人氏名印

附錄第三號

告訴
告發人調書

何縣何國何郡何市町村番地身分職業氏名代人何某ニ對シ何々告訴告發事件增減變更ノ陳述ヲ聽ク左ノ如シ

一　何々
問　何々

答　何々

右陳述ヲ錄取讀聞セタル處相違ナキ旨申立ツルニ依リ共ニ署名捺印ス

年　月　日

何處ニ於テ

官氏名印
告訴
告發人氏名印

附錄第四號

證據物件搜查調書

年月日何々被告事件搜查處分上必要ニ付キ何郡何市町村何某方ニ至リ本人又ハ保管人ノ承諾ヲ得テ搜查スル左ノ如シ

一　何々
一　何々
一　發見シタル（物件ハ何々ノ痕跡アリテ何某ノ何々シタルモノト認ムルヲ以テ準現行犯ナリト思料）ス（物件ハ何々事件ノ証據トシテ必要ノ品ニ付何某ノ承諾ヲ得テ何署（所）ニ保管スル爲メ之ヲ領置ス）（若シ此場合ニ於テ何等ノ物件ヲモ發見シ得サルトキハ其旨ヲ揭載スヘキモノトス）

此搜查ハ本日午前後何時ニ始メ同何時ニ終ル

右錄取シ讀聞セタル處相違ナキ旨申立ツルニ依リ共ニ署名捺印ス

出張先ニ係ルヲ以テ署印ヲ捺セス

年　月　日

何處ニ於テ

附錄第五號

參考人聽取書

問　氏名年齡身分職業住所ハ如何

答　云々

問　何々事件ニ付參考人トシテ取調フルニ依リ事實ヲ陳述セヨ

答　承知セリ

問　何々

答　云々

右陳述ヲ錄取シ讀聞カセタル處相違ナキ旨申立ツルニ依リ共ニ署名捺印ス

年　月　日

何所ニテ

官　氏名印

參考人　氏名印

立會人　氏名印

附屬書式

證據物件目錄

種目	數量	差押場地	所有主名
何々	一本	何所	何某

（還付假下シタルトキハ其事由及氏名）

附錄第六號

報告書

何々事件ニ付相尋度儀有之年月日時出頭有之度候也

年　月　日

署（所）

官　氏名印

何郡町村

何某　殿

報知書ヲ要スルトキハ本書式ヲ適用スヘシ

附錄第七號

檢證調書

年月日時何郡何市町村何某當署ニ（出頭）何々ノ事ヲ急報ナシタルニ付何某何某ヲ率ヒ直チニ現場ニ出張檢證スル左ノ如シ

一　場所ハ何所ヲ距ル何ノ方何里何町許ニシテ何々

二　被害ノ摸樣云々

三　被害物件數量ハ云々

◎第六種

四　被害年月日ハ何月何日

依テ巡査屬　某ヲシテ何々セシメタル處何々ノ証跡ヲ得タリ右ハ狀況ニ依テ見レハ云々

五　何某ハ此日何時何々ノ爲メニ何々ノコヲ認メタルニ因リ（何署ニ）急報シタリト云ヘリ其事情ハ別紙始末書（調書）ノ如シ

六　被告何某ノ所爲ハ刑法第何條ニ該當スル何罪ニシテ且現行ナリト思料ス

七　現場ノ摸樣ハ別紙略圖ノ如シ

八　此檢証ハ本日午前午後何時何十分ヨリ始メ同何時何十分ニ畢ル

九　被告ト思料スル者ハ何方ニ向ヒ逃走ノ形跡アルヲ以テ某ヲシテ追跡セシメタリ

十　犯罪ノ時期ハ何々ト思料ス

年月日時何郡何市町村何小林區何官林字何處ニ於テ此檢書調書ヲ作リ立合人ニ讀聞セ共ニ署名捺印ス

但出張先ニ係ルヲ以テ署印ヲ捺セス

官氏名印

立會人

公吏氏名印

附錄第八號

家宅捜索調書

年月日何々被告事件ニ付事實發見ノ爲メ必要ナルヲ以テ何郡何市町村何某方ニ臨ミ家宅ヲ捜索スル左ノ如シ

一　家宅ノ方位ハ何々ニシテ其間取ハ別紙略圖ノ如シ

一　何處何處ハ何々ノ摸樣ニシテ異狀ナシ

一　何處ヨリ左ノ物件ヲ發見セリ

一　何々

一　何々

一　發見シタル物件ハ何々被告事件ノ證據トシテ別紙目錄ノ通押收セリ

一　此處分ハ午前午後何時ニ始メ同何時ニ終ル

右錄取シ讀聞セタルニ相違ナキ旨申立ツルニ依リ共ニ署名捺印ス

但出張先ニ係ルヲ以テ署印ヲ捺セス

何所ニ於テ

官氏名印

立會人氏名印

附錄第九號

差押目錄

一　何々　何個

但何々ノ摸樣又ハ何々

一　何々

右何々被告事件ニ付證據物件トシテ何某ヨリ差押フルモノナリ

何處ニ於テ

年月日

◎第六種

附錄第十號　甲

犯所臨場調書

年月日(郡市町村)何官林字何所ニ於テ盜伐犯アリシ旨何某訴出(認知又ハ思料シ)タルニ依リ其現場ニ出張取調フルトキ左ノ如シ

一　犯所何官林字何々ニシテ何處ヲ離ルヽ何里何町余

二　犯罪ノ現場ハ別紙繪圖ノ如シ

三　犯罪發覺ノ原因ハ何々

依テ何ノ某ニ對シ取調ヲナシタル處第何號ヨリ第何號ニ至ル始末書若クハ調書ノ如ク申立タリ

四　犯罪ノ時期ハ何々ト思料ス

五　犯所(若クハ其他)ニ於テ何々ノ遺失アルヲ認メタリ故ニ之ヲ証據トシテ領收セリ

六　被告ノ所爲ハ刑法第何條ニ該當スヘキモノト思料ス

七　此取調ハ本日午前后何時ニ始メ同何時ニ終ル

年月日何所ニ於テ此調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印ス

但出張先ニ係ルヲ以テ署印ヲ捺セス

年　月　日

何署詰(以下倣之)

官氏名印

立會人　氏名印

附錄第十號　乙

隱匿(遺失)物件發見調書

年月日何所巡視ノ際何々ノ物件(隱匿)(遺失)アルヲ發見シタル處何々犯罪ニ關係アルモノト認知(思料)シタルヲ以テ調書ヲ作ル左ノ如シ

一　何郡何市町村何小林區何派出所何官林字何所ニ於テ何々ヲ以テ藏ヒタルモノアリ之ヲ除キタルニ左ノ物品ヲ發見シタリ(何郡何市町村何官林字何所ニ於テ左ノ物件遺失シアルヲ發見セリ)

一　無檢印ノ角材又ハ丸太　幾本

一　鋸　幾挺

一　何々　幾個

一　右何々ハ何所ニ遺失アリシヲ以テ(犯罪ノ用ニ供シ)(又ハ檢印ナキニ依リ盜伐木ヲ以テ製シ)タルモノト思料ス

其物件ハ何々事件ノ證據トシテ必要ナルニ付何所ニ(運搬)(領置)セリ

一　物件ノ所在地ハ目下捜査中ナル何官林何盜伐ノ犯所ト若干ノ距離ニシテ又隱匿ニ便ナル場所(犯所ノ通路ニ當ル場所)ニ在リシヲ以テ該物件ハ何官林ノ盜伐犯ニ關係アルモノト思料ス依テ此調書ヲ作ルモノナリ

但シ出張先ナルヲ以テ署印ヲ捺セス

年　月　日

何所ニ於テ

官氏名印

附錄第十一號

逮捕調書

年　月　日何某ハ何犯罪ノ現行犯被告人何某ヲ逮捕シ本職カ面前ニ引致シタルニ由リ直チニ取調ヲ爲ス左ノ如シ

問　被告人何某ヲ逮捕シタル事由詳細ヲ申立ヨ

答　云々

問　何々

答　云々

右錄取シ讀聞セタル處相違ナキ旨申立ツルニ依リ共ニ署名捺印ス

何處ニ於テ

官氏名印

何署詰

雇氏名印

年　月　日

附錄第十二號

犯罪自首人調書

年　月　日何縣何國何郡何市町村番地身分職業何某ハ本職ノ面前ニ來リ何々事件（自首シ其筆記ヲ求メタリ）（自首狀ヲ差出シタルモ不明瞭ノ廉有之候付）取調ヲナス左ノ如シ

一　何々

一　何々

問　何々

答　云々

問　何々

答　云々

右陳述ヲ錄取シ讀聞セタル處相違ナキ旨申立タルニ依リ共ニ署名捺印ス

何所ニ於テ

官氏名印

自首人氏名印

年　月　日

附錄第十三號

召喚狀

受取人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其事由	被告事件	右ニ付訊問ノ筋有之出頭可致者也
送達シタル月日時		年　月　日
送達シタル場所		何署（所）
親屬雇人若クハ市町村長ヘ渡シタルトキハ其事由		官氏名印
右之通取扱候也		
明治　年　月　日		

召喚狀

右	被告事件
ニ付	訊問ノ
筋有之	出頭
可致候也	
年 月 日	
何署(所)	
官氏名印	

受取人ノ署名捺印若シ能ハ	
サルトキハ其事由	
送達シタル月日時	
送達シタル場所	
親屬雇人若クハ市町村長ヘ	
渡シタル其事由	
右之通取扱候也	
明治 年 月 日	

附錄第十四號

勾引狀

右	被告事件
ニ付訊問ノ筋有之	
ヘ勾引スヘキ者也	

勾引シタル被告人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其事由	
執行シタル月日時	
執行シタル場所	
執行ノ手續	
家宅捜索ヲナシタルトキハ其事由	
勾引スル事能ハサルトキハ其事由	
右之通取扱候也	
明治 年 月 日	

勾引狀

但本人潛匿シタルトキハ家宅捜索スヘシ	
明治 年 月 日	
何署(所)	
官氏名印	

執行ノ手續	
家宅捜索ヲナシタルトキハ其事由	
勾引スル事能ハサルトキハ其事由	
右之通取扱候也	
明治 年 月 日	

勾引狀

右	被告事件
ニ付訊問ノ筋有之	
ヘ勾引スヘキ者也	
但本人潛匿シタルトキハ家宅捜索スヘシ	
明治 年 月 日	
何署(所)	
官氏名印	

勾引シタル被告人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其事由	
執行シタル月日時	
執行シタル場所	
執行ノ手續	
家宅捜索ヲナシタルトキハ其事由	
勾引スル事能ハサルトキハ其事由	
右ノ通取扱候也	
明治 年 月 日	

附錄第拾四號　甲

送致書

年　月　日何郡何市町村何番地身分職業氏名ハ右何某ニ對シ何々ノ被告事件第何號告訴告發狀ノ通リ訴出タルニ由リ之ヲ調査スルニ其告訴告發狀ト相違ノ廉無之（有之候テハ第何號調書ヲ作リ一應捜査ヲ爲シタルモ未タ確證ヲ得ル能ハス然ル被告何某ハ曾テ何々ノ處刑ヲ受ケ且近來何處ニ徘徊シ云々）本件ハ全ク被告ノ所爲ト思料致シ候條一件書類（證據物件）（共）別紙ノ通及送致候也

年　月　日

何署（所）

官　氏　名　印

何判判所

檢事正（檢事）某　殿

追テ被告カ戸籍寫ハ直チニ貴官ヘ廻送スヘキ旨所轄町村役場ヘ照會致置候條此段申添候也

附錄第十五號別紙　甲

被害木調書

一金　何　圓

檜立木　何百本

目通平均何尺廻リ長平均何間

此尺〆何尺

何縣何國何郡何市町村何番地

身分職業

被告人　氏　名

罪名

二百三十二

但尺〆壹本ニ付平均金何圓ッヽ、

附錄第十五號　乙

送致書

被告人送致（朱書）

年　月　日　何署詰又ハ何郡何村何書記　何某ハ右何某ニ對シ何罪（口述告訴又ハ告發ヲ爲シ）（告訴告發書ヲ差出シ）（尚被告人ヲ本職ノ面前ニ引致シタルニ依リ何某ニ付キ第何號調書ノ如ク逮捕及告發ノ取調ベヲナシタルニ云々）（直チニ犯所ニ臨檢シ第何號檢證調書ヲ作リ尚ホ被告ニ對シ第何號調書ノ如ク訊問ヲ遂ケ且證人某外何人ニ對シ取調ヘタル處第何號乃至第何號調書ノ如ク申立タリ）即チ被告カ所爲ハ現行犯罪ニシテ刑法第何條ニ該當スヘキモノト思料スルヲ以テ別紙同條ノ通リ關係書類證據物件及被告人併セテ及送致候也

年　月　日

何署（所）

官　氏　名　印

何裁判所

檢事正（檢事）氏　名殿

追テ戸籍寫ハ直チニ貴官ヘ廻送スヘキ旨所轄村役場ヘ照會致置候條此段申添候也

附錄第十五號別紙　乙

何縣何國何郡何市町村何番地

身分職業

被告人　氏　名

罪名

二百三十三

◎第六種

目錄

一　告訴(告發)狀
一　何々調書
一　何々
一　何々
右ノ通リニ候也
年　月　日
何通
何通
何通
何通

附錄第十六號

罪名

右ノ者何地方裁判所(何區裁判所)檢事へ送致スヘキ犯人ニ有之候條遞傳護送有之度候也
年　月　日
何署(所)
官氏名印

何警察署(何分署)
御中

附錄第十七號

被告人調書

問　氏名年齡身分職業住所ハ如何
答　云々
何々事件ニ付取調フルニ依リ承知セヨ
答　云々
問　何々
答　云々
問　何々
答　云々
右陳述ヲ錄取シ讀聞カセタル處相違ナキ旨申立ツルニ依テ共ニ署名捺印ス
年　月　日
何所ニ於テ
官氏名印
被告人氏名印

附錄第十八號

證人訊問調書

問　氏名年齡身分職業住所ハ如何
答　云々
問　被告人又ハ民事原告人ト親屬雇人等(刑事訴訟法第百廿三條列記ノ關ヲ訊問ス(ヘシ)關係ナキヤ

◎第六種

答　云々
問　何々
答　云々
右錄取讀聞セタル處相違ナキ旨申立ツルニ依リ共ニ署名捺印ス

年　月　日

何所ニ於テ
官氏名印
證人氏名印

附錄第十九號

呼出狀

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル片ハ其事由	
送達シタル月日時	
送達シタル場所	
親屬雇人若クハ市町村長ヘ渡シタル片ハ其事由	
右ノ通取扱候也 年　月　日	

◎第六種

呼出狀

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル片ハ其事由	
送達シタル月日時	
送達シタル場所	
親屬雇人若クハ市町村長ヘ渡シタル片ハ其事由	
右ノ通取扱候也 年　月　日	

附錄第二十號

明治何年

重輕罪事件簿

受付年月日	明治　年　月　日
事件番號	第　號
訴告發人又ハ告知人	何小林區雇　某
件名	官林盜伐
現行非現行	現行犯
無引令狀致	何月何日
勾引狀	何月何日
捜査	何月何日着手 仝月何日結了
發送日數	何日
事件官付送日	何裁判所檢事へ何月何日送

主任	何々官
被告人名	住所族籍

豫審　年月日免訴

判決月日　年月日

刑期

刑名

犯數　初犯又ハ再犯

控訴　年月日控訴　年月日認可又ハ破毀

上告　年月日上告　年月日認可又ハ破毀

私訴

被害高	立木何本 此尺ノ何程 代價何程
現在賍物	何々何個 此代價何程
請求高	何圓
賍物還付	何々何圓
賠償高	何圓

事件要領

○明治二十三年八月一類第一二八號長野大林區署伺

裁判所構成法第十八條ニヨリ林務官カ撿事ノ事務取扱上ニ關スル疑義ノ廉左ニ

一　裁判所構成法ニヨリ林務官カ取扱ヒ得ヘキ撿事ノ事務トハ區裁判所ノ管轄ニ屬シタル刑事

訴訟ニ關シテハ檢察官トナリ其他治罪法第三十四條及同第百七條乃至百九條等同法中苟クモ檢事ノ爲スヘキ職務ヲ指稱シタル義乎

二　前項檢事ノ職務ヲ取扱ヒ得ヘキ塲合ハ森林ニ關スル犯罪事件ニ限ルヘキハ勿論ノ義ト相心得可然乎

三　又右ノ塲合ハ檢事ノ在ラサル地方ニ限ル乎或ハ檢事アルモ自ラ必要ト思料スルトキハ之ヲ取扱ヒ得ヘキ乎

四　第二項ノ通トセハ森林ノ犯罪ニ關シテハ第三項前段ノ法意ナルニ於テハ治罪法ノ規定ニ從ヒ公訴提起ヨリ裁判落着ニ至ル迄ノ職務ハ擧テ之ヲ行フヘキモノナル乎又同項後段ノ法意ナルニ於テハ犯罪ノ搜査臨檢家宅搜索等臨機急須ノ手續ヲ爲スニ止メ之ヲ檢事ニ移付スル等自ラ隨意ニ制限シ得ヘキ乎

五　此職權ハ既ニ森林監守ニモ與ヘラレタル以上ハ彼治罪法第九十六條ノ告發權ノ如ク其職務ヲ行フニヨリ發見シタル塲合ニ在テハ備者ト雖モ得ヘキ乎

六　治罪法第二百三條及同第二百六條ニヨリ發スヘキ令狀ハ如何ナル手續ニヨリ調製シ及ヒ送達スヘキ乎

七　又臨檢家宅搜索物件差押ノ處分ヲ爲スニ當リ擔任書記ノ職務ハ何人ヲ以テ之ニ充ツヘキ乎

八　右各項ノ塲合ニ於テ事件急速ヲ要スルトキハ十四年十二月司法省丙第十五號達ニヨリ所在地ノ巡査ヲ使用シ得可キ乎

九　林區員ノ內一名檢事ノ職務ヲ行ヒ公訴ヲ提起シタル事件ニ關シ民事原告人タルモノハ自餘ノ署員ヲシテ行ハシムヘキ乎

右相伺候條至急何分ノ御指揮ヲ仰ク

（同年十二月　林第七二九九號山林局次長通知）

林務官檢事ノ職務取扱方ノ義ニ付一類第一二八號ヲ以テ御伺出ニ相成候處右ハ法律ノ解釋ニ係ルヲ以テ表面指令難相成筋ニ有之依テ小官ヨリ左ニ申進候間御承知相成度此段及御通知候也

第一項　第二項　御見込ノ通リト思考ス

第三項　檢事ノ在否ニ拘ハラサル義ト思料ス

第四項　前項ニヨリ御了知相成度

但臨檢家宅搜索等ハ豫審判事ノ職權ニ屬スルモノト思考ス

第五項　備吏ハ行ヒ得サル儀ト思考ス

第六項　第七項　第八項ハ豫審判事ニ屬スル處分ナルヲ以テ林務官ノ取扱ヒ得サルモノト思料ス

第九項　御見解ノ通リニテ可然ト思料ス

○明治二十一年三月第五號農商務省訓令　警視廳　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

各地方ニ於テ火入ト稱ヘ山野ノ枯草ヲ燒キ其火延燒シテ隣接官林ニ災害ヲ及スコト少シトセス因テ地方廳ハ左ノ標準ニ據リ從來ノ習慣ヲ酌量シ山野火入取締規則ヲ設クヘシ

山野火入取締規則標準

第一條　山野ニ火入ヲナサント欲スル者アルトキハ地方廳ハ左ノ各項ヲ具シタル願書ニ認可ヲ受ケシムヘシ

一　火入期日

一　箇所限地目反別及字番號

一　四至境界ヲ見ルヘキ實地略圖

第二條　前條ノ認可ヲ受ケタル者ハ其火入ヲ爲サント欲スル山野ノ森林原野ニ接シタル境界ニ防火線ヲ設ケ且其森林原野所有者（官林ナルトキハ大小林區署若クハ大林區署派出所若クハ官林巡邏）及警察署ヘ少ナクトモ火入期日五日以前ニ其旨ヲ報告セシムヘシ

第三條　防火線ハ幅三間以上トス都テ柴草ヲ刈採リ落葉並塵芥ヲ除去リ或ハ土堤又ハ堀溝等ノ設ケヲナサシムヘシ

但道路谿谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ地ハ此限ニアラス

第四條　日出前日沒後及風勢穩ナラサルトキハ火入ニ着手セシムヘカラス

第五條　火入ノ期日間ハ番人ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ルマテ其場ヲ退カシムヘカラス

第六條　火入認可ヲ受ケタル者ト雖モ郡區長、警察官、大小林區署員、林區署派出所員、戸長、官林巡邏ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタルキ又ハ風勢ノ變動等ニヨリ他ヘ延燒ノ虞アリト思量スルトキハ直ニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ

○明治九年四月布告第五十六號

遺失物取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

遺失物取扱規則

第一條　凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヿヲ覺ラス及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヿヲ證明スルニ於テハ直チニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルヿヲ得ス

第二條　凡遺失ノ物ヲ得レハ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年内其主ナキ時ハ之ヲ得者ニ給ス

第三條　凡ソ遺失者ハ其遺失スル物品ノ摸樣員數幷ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ケ詳細ニ記載シ速カニ官ニ届ケ出ヘシ但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ

第四條　凡ソ遺失物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルヿヲ得且得者ニ報勞ノ爲メ其物價百分ノ五ヨリ少カラス貳拾ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ爭フ時ハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條　凡ソ遺失物ヲ得ルニ物品盜贓ニ係ル者ハ直ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止タ其費用ノミヲ償ハシム

第六條　官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルトキハ之ヲ地主ト中分セシム（十四年第二號布告ヲ以テ但書共改正）

但盜贓ニ係ルモノハ此限ニアラス

第七條　凡ソ遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其耐久シ難クシテ其主分明ナラサル時ハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルヿ第二條ノ如シ

第八條　凡ソ家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得ト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヿ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財產ヲ毀損スル時ハ律ニ照シテ處分ス

第九條　凡ソ逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ

若シ八日内其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩除アルモノハ之ヲ官

ニ領置シ榜示シテ處分スルコト第二條ノ如シ

第十條　凡ソ遺失物及ヒ逃走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヿ私物ニ異ナルヿナシ

第十一條　凡ソ警察官吏タル者ハ所部ノ內外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送リ全ク其主ニ還付シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス

第十二條　凡ソ一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス幷ニ官ニ沒ス

第十三條　凡ソ公私債證書「地券」諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條　凡ソ遺失物及ヒ逃走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ堀得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルコトヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ幷ニ律ニ照シテ處分ス

○明治十年九月內務省布達甲第二十號

明治九年四月太政官第五十六號ヲ以テ遺失物取扱規則中第六條埋藏物掘得ル者處分ノ儀公布相成候處右物品ノ中古代ノ沿革ヲ徵スルモノモ有之候ニ付處分前一應當省ヘ屆出檢查ヲ可受其品ニヨリ相當代價ヲ以テ購求シ官私中分ニ係ルモノハ其價格ノ半高ヲ發掘人ヘ下付シ該物品ハ永ク博物館ヘ陳列可致候條此旨布達候事

但物品ハ先ッ掘出地名及形狀等ヲ詳記シ及摸寫スルモノヲ郵送シ其見込アルモノニテ遞送方相達候後本文ノ通リ可取計候事

○明治二十二年一月乙第一九八七號宮城大林區署伺

當大林區部內陸前國本吉郡御岳村字瀧澤山官林內ニ於テ埋炭發顯致候趣ヲ以テ之レカ拂下之儀同村鈴木豐之進ヨリ出願候處取調フルニ右ハ凡百年以前ニ在テ舊仙臺藩治中御國產方ニ於テ白炭燒出候事今ニ口碑ニ傳フルヲ以テ其際放置シ遂ニ埋沒ニ歸シ居リタルモノト想像候得共書類ノ據テ以テ徵スヘキナケレハ明治九年四月十九日太政官第五十六號布告遺失物取扱規則第六條ノ明文其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸スヘシトアルヲ以テ當署ニ於テ拂下等相當ノ處分ヲ爲シ差支無之議ト存候得共右ハ大林區署長處務規程第十五條第二十四項ニ該當スルカ故一應經伺候明治二十二年四月第一〇號（大臣）指令

遺失物取扱規則第六條ニ據リ取計フヘシ

明治二十二年四月十三日（山林局長）通牒

一月十七日付乙第一九八七號ヲ以テ林地埋藏物發顯處分ノ義ニ付御伺ニ對シ本日御指令相成候右ハ凡テ埋藏物ハ遺失物取扱規則第六條ニ據リ其筋ヘ照會シ規則通ノ手續ヲ經タル上ニ非サレハ拂下等處分可相成モノニ無之候

○明治十三年七月第三十六號布告改正刑法

第二章　財產ニ對スル罪

第一節　竊盜ノ罪

第三百七十二條　田野ニ於テ穀類菜蓏其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

三百七十三條　山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百七十四條　牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十五條　此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百七十六條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○明治十五年六月丙第二十四號司法省達

大審院　裁判所　警視廳
府縣東京府ヲ除ク　東京憲兵本部

犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル物件ハ轉輾シテ他人ノ手ニ在リ及ヒ沒収スヘキモノ若クハ證憑ノ爲メ官ニ保存シ置クヲ必要トスルモノヲ除クノ外ハ裁判官檢察官司法警察官ニ於テ實際ノ便宜ニ因リ裁判言渡アルマテ其所有主ヘ假ニ之ヲ下渡シ置クコトヲ得ヘシ此旨爲心得相達候事

○明治二十三年五月發第一二五號ノ一秋田大林區署伺農商務大臣指令

本年二月發布法律第六號裁判所構成法第十八條中ニ區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得ト有之右林務官トハ一般林務ニ從事スル官吏則林務官補營林主事同補森林監守ヲ包含惣稱シタル義ニ候哉將タ單ニ林務官ノミヲ指稱シタル義ト心得可然哉該法御實施最早日支モ無之適當ノ手續等今ヨリ研究致度義モ有之候條何分ノ御指揮仰度

右ニ對シ仝年五月林第四二九二號ヲ以テ左ノ如ク指令

本年五月發第一二五號伺一裁判所構成法中林務官トハ一般林務ニ從事スル官吏ヲ惣稱シタル義ト心得可シ

○明治二十三年六月庶第一一四號岩手大林區署照會山林局長回答

客月三十日付林第四二九二號ヲ以テ御通牒相成候裁判所構成法第十八條中林務官之義ニ付秋田大林區署伺御指令ヲ閲スルニ林務官トハ一般林務ニ從事スル官吏ヲ惣稱シタル義ト心得可シト有之右官吏トハ判任官以上ヲ指稱シタル義トハ被存候得共森林監守心得ヲ以テ傭ヲ被命候者森林監守ノ職務ヲ執行候時ハ其資格ハ無論森林監守ナルヲ以テ是亦タ右御指令中ニ包含シタル哉右ハ聊カ疑似ニ渉リ候ニ付爲念及御問合候條何分ノ御回示相成度

右ニ對シ仝年六月林第五一四一號ヲ以テ左ノ如ク回答

裁判所構成法中林務ニ從事スル官吏ノ義ニ付本月二日付庶第一一四號ヲ以テ御問合ノ趣了承右傭ヲ以テ森林監守心得ヲ被命候者ハ該官吏中ニ包含セサル義ト御承知有之度此段及御回答候也

○明治二十四年三月第一六四號山林局長照會司法省會計局長回答

裁判所構成法刑事訴訟法等ニ據リ當省林務官ニ於テ司法警察官又ハ檢事ノ事務取扱トシテ犯罪ニ要スル左ノ項目ノ如キ費用ハ當省森林費ヨリ支出スヘキモノニ無之ト存候處右ハ貴省經費ヨリ支出可相成儀乎致承知度

一電信郵便料
一旅費又ハ辨當料
一證據鑑定人雇賃
一證人參考ニ關スル費用
一捕具即チ繩十手ノ類買入費
一犯人ニ係ル辨當料宿泊料醫師ノ診斷料藥料
一繩取人足犯罪人護送ノ場合ニ係ルトキ雇賃

一犯罪人調書ニ要スル筆紙墨文具料
一探偵費
一物品保存費現行犯人牛馬ヲ捨匿キ逃走シタルトキ其牛馬飼養料又ハ犯罪ノ用ニ供シタルモノト思料スル物品或ハ現行犯人ノ捨置キタル衣類等ノ保存費ヲ云フ
右及御照會候條至急御回答相成度

右ニ對シ仝年三月司法省會檢甲第六三九號ヲ以テ左ノ如ク回答

刑事訴訟上林務官ノ事務取扱ニ付生シタル費用支出應ノ義ニ付第一六四號照會ノ趣了承右林務官ハ法律ノ命令ニ據リ司法警察官若クハ檢事ノ職務ヲ行フヘキモノナルヲ以テ其職務ノ一部ニ可有之從テ之カ爲メニ要シタル費用ハ貴省經費ヨリ支出可相成ト被存候右及回答候也

◎第七種　統計

○明治十九年十二月第一四九號山林局會計主務達　各大林區署會計員

統計材料蒐集ノ儀ニ付其筋ヨリ通牒ノ次第有之候條其署所屬地所（官有地第二種ニ限）建物別紙樣式ニ依リ毎年十二月三十一日ノ現數取調翌年一月十日迄ニ其地ヲ發シ差出スヘシ

（綱場貯木所會計員ヘモ同日達アリ）

別紙　某大林區署所屬建物　明治何年十二月三十一日現在數

類別		木造		土藏		煉化造		石造		建築費
		二階坪數	平家坪數	二階坪數	平家坪數	二階坪數	平家坪數	二階坪數	平家坪數	
大林區署	役所									
	倉庫									
	諸建物									
	官舍									
	合計									
小役所										

◎第七種

林區署			又ハ何々	
何々	何々	官舍	合計	總計
建築費				

坪數ハ二階何坪平家何坪ト算シ二階下ノ坪數ハ平家ノ坪數ニ合算シ三階以上ノモノハ二階ノ坪數ニ算入スヘシ

從來ノ建物ハ其概價ヲ積リテ建築費トシ又建增新築シタル類ハ其費用ヲ合算シテ之ヲ掲クヘシ但修繕ノ費用ハ算入スヘカラス

諸建物トハ厩供待所番人詰所物置ノ類ヲ云フ

某大林區署所屬官有地坪數及地價

明治何年十二月卅一日現數

府縣	地名	所用名	坪數	地價
、、、	(郡)(區)(町)(村)字何々	某大林區署	、、、、、、	
、、、	、、、、、、	某(小林區署派出所)	、、、、、、	
			、、、、、、	
			、、、、、、	
			、、、、、、	
合計			、、、、、、	

地價ハ各其地券面ニ依リテ記載スヘシ地券ハ空白ニスヘシ

空地等ニテ即今所用セサル場所モ圍地附屬地等ノ名稱ヲ以テ所用名ノ欄ニ記載スヘシ

明治二十七年三月山第四二四號山林局長ヨリ各大林區署ヘ通牒

明治十九年十二月山林局會計主務達第一四九號官用地及建物現在表書式別紙ノ通リ改正相成候間本年末ヨリ該書式ニ準據シ御差出有之度此段申進候也

官用地

明治何年十二月三十一日現數

所用名	箇所	坪數	見積リ地價
何大林區署			
苗圃地			
貯木所			
何々			
總計			

◎第七種

備考

本表ハ明治七年布告第百二十號地所名稱區別第二種ニ属スル官用地ヲ掲載スルモノトス

箇所數ハ數番地ヲ併セ一區畫トナシ使用スルモノハ之ヲ一箇所ト計算シ又一ノ番地中ニ例ヘハ大林區署ト貯木所ト建設シアルノ類ハ其使用ノ重ナル方ニ一ケ所ト計算シ記入スルヿ但坪數見積リ地價ノ掲載方モ此例ニ據ル

地價ハ總テ管理者ニ於テ比隣ノ價ニ據リ見積リ概價ヲ掲載スルヿ而シテ官有財産調等ノ地價ト符合セサルモ妨ケナキモノトス

官舍地並即今所用セサル塲所、圍地、附属地等モ其所属ノ欄ニ掲載スルヿ

本表掲クル第二種ニ属スル官用地ノ外所管中他ノ官有地ハ總計ニ於テ左ノ式ニ據リ之ヲ別表ニ調製スルヿ但官林等ハ茲ニ掲載スルニ及ハス

種別　反別

第何種　何々　何々　總計　町反歩

附表

官用地々方別

地方	箇所數	坪數	見積リ地價
何府			
何縣			
總計			

備考

此表ハ本表ニ掲クル官用地ノ箇所數坪數見積地價ヲ府縣別ニ區分シテ掲載スルモノトス故ニ此總計ハ本表ノ總計ト符合スルヿヲ要ス

建物

明治何年十二月三十一日現數

類別	木造 二階坪數	木造 平家坪數	土蔵造 二階坪數	土蔵造 平家坪數	煉化造 二階坪數	煉化造 平家坪數	石造 二階坪數	石造 平家坪數	何々 二階坪數	何々 平家坪數	建築費
廳舍	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	圓
倉庫											
其他ノ諸建物											
官舍											
官舍附属倉庫											
官舍附属諸建物											
總計											

備考

坪數ハ二階何坪平家何坪ト算シ二階下ノ坪數ハ平家ノ坪數ニ合算シ三階以上ノモノハ二階ノ坪數ニ算入スルヿ

從來ノ建物ニシテ建築費ノ不明ナルモノハ其概價ヲ積リテ掲載スルヿ但新築又ハ建増シタル類ハ其費用ヲ合計シテ之ヲ掲クルモノト雖修繕ノ費用ハ算入スヘカラサルヿ

諸建物中ニハ厩、門衛詰所、供待所ノ類ヲ併載シ物置ハ倉庫ニ合算スル
小林區署ノ建物ハ凡テ大林區署建物ニ合算スル
表中掲クル廳舍、倉庫、諸建物等ニ合算シカタキ異種ノ建物アラハ別掲スルヲ要ス
○明治廿五年四月甲第一六號農商務次官ヨリ山林局長ヘ達官有財産管理規則ニ據リ帝國議會ニ報告スヘキ官有財産目錄調製ニ進達有之候處今般內閣ニ於テ各省可成一定ヲ要スル爲メ別紙ノ通標準相定メ更正提出方協議有之候條更ニ右ニ照準シ調製ノ上本月十五日限リ差出スヘシ
但帝國議會開設前取纏メ提出ノ積ニ付精々取運ヒ本文期日內ニ必ス調製候樣篤注意セラルヘシ

官有財産目錄編纂標準

第一

目錄調製ハ表式ニ依リ查閱ニ便ナラシムルヲ要ス
表式ニ付テハ今日之ヲ一定セシムルハ種々不便ヲ生スヘキモ可成別表樣式ニ準據スヘシ

第二

土地家屋船舶等各種毎ニ別表トナスヘキ事

第三

土地ハ可成一所用地毎ニ別記スヘシ但森林原野荒廢地等ハ其府縣郡市町村等ノ總額ヲ揭出スルモ隨意ナリトス

第四

家屋及營造物ノ解釋區々一定セス今左之標準ニ據ラハ其統一ヲ得ルニ幾カラン乎

家屋

官舍住家ノ類

營造物

官廳製造場、學校、病院、博物館、書籍館、監獄、燈臺、砲臺、鐵道、電信、橋梁、溝渠及家屋ニ附屬セサル及其一部ヲ爲サヽルル築造物ノ類

第五

附屬物解釋亦前項ニ同シ今左ニ其據ルヘキ標準ヲ概擧スヘシ

一 土地ノ附屬物
樹木石ノ類

一 家屋ノ附屬物
電信、電線、門墻、街燈、瓦斯、及蒸汽管ノ類

一 營造物ノ附屬物
家屋ノ部ニ準ス

一 船舶ノ附屬物
小艇其他諸機關ノ類

第六

附屬物トシテ諸器具等ヲ揭出セルモノアリ管理規則ノ所謂附屬物トハ日常轉々スル物品ヲ含蓄スルノ意ニアラサルヘシ因テ物品會計法ノ支配ヲ受ルカ如キ物品ニ至リテハ表中ヨリ取除クヘシ

第七

官有財産目錄ハ各三部ツヽ調製スヘシ

（別表）

（第一號）　土地ノ部

所在地	所用	附属物	數量	價格	記事
廳所名属 何府縣郡市町村	何敷地		坪	0,000円000	
仝		樹木石類		0,000000	
小計				0,000000	
合計					

（第二號）　家屋ノ部

所在地	種類	附属物	數量	價格	記事
廳所名属 何府縣郡市町村	煉化造建家		坪	0,000円000	
仝	木造建家		坪	0,000000	
仝		煉化造倉庫	坪	0,000000	
仝		石造倉庫	坪	0,000000	
仝		土藏造倉庫	坪	0,000000	
仝		電話電燈機等		0,000000	
仝		門檣街燈等		0,000000	
小計				0,000000	
合計				0,000000	

（第三號）　營造物ノ部

所在地	種類	附属物	數量	價格	記事
廳所名属 何府縣郡市町村				0,000円000	
仝	煉化造建家		坪	0,000000	
仝	煉化造工場		坪	0,000000	
仝	木造建家		坪	0,000000	
仝	機械		臺	0,000000	
仝		街燈	個	0,000000	
仝		軌道	間	0,000000	

全							
全	電話機瓦斯管等		0,000,000	囚			
全	門extra等		0,000,000				
小計	樹木石類		0,000,000				
合計			0,000,000				

（第四號）　船舶ノ部

所在地							
所屬郡市町村名	種類	附屬物	數量	價格	記事		
何府縣郡小蒸滊船							
全	端艇	艘	0,000,000	囚			
全	機關		0,000,000				
全	艀		0,000,000				
小計			0,000,000				
合計							

○明治廿三年六月山林發第六六一號山林局長ヨリ各大林區署長ヘ行政區畫官林反別分級表徵求ノ件ニ付照會

官林ニ就キ其行政區畫官林反別分表要用ニ付別紙樣式ニ準シ御調製來ル九月三十日迄ニ御差出相成度此段及御照會候也

（別紙）

行政區畫別官林段別分級表（何縣之分）　某大林區署

明治二十二年十二月三十一日現況

國名	郡名	供用林									
何國	何郡	一町步未滿	一町步ヨリ十町步未滿迄	十町步ヨリ二十町步未滿迄	二十町步ヨリ三十町步未滿迄	三十町步ヨリ四十町步未滿迄	四十町步ヨリ五十町步未滿迄	五十町步ヨリ六十町步未滿迄	六十町步ヨリ七十町步未滿迄	七十町步ヨリ八十町步未滿迄	八十町步ヨリ九十町步未滿迄	九十町步ヨリ百町步未滿迄	百町步ヨリ二百町步未滿迄
		箇所	反別	箇所	反別	箇所	反別	箇所	反別	箇所	反別	箇所	反別

行政區畫別官林反別分級表（何縣ノ分）　明治二十二年十二月三十一日現況

國名	郡名	供用林									
何國	何郡	一町步未滿	一町步ヨリ十町步未滿迄	十町步ヨリ二十町步未滿迄	二十町步ヨリ三十町步未滿迄	三十町步ヨリ四十町步未滿迄	四十町步ヨリ五十町步未滿迄	五十町步ヨリ六十町步未滿迄	六十町步ヨリ七十町步未滿迄	七十町步ヨリ八十町步未滿迄	八十町步ヨリ九十町步未滿迄	九十町步ヨリ百町步未滿迄	百町步ヨリ二百町步未滿迄
		箇所	反別	箇所	反別	箇所	反別	箇所	反別	箇所	反別	箇所	反別

◎第七種

國	何郡	何郡	何郡	何郡

行政區畫別官林段別分級表（何縣之分）

某大林區署

明治二十二年十二月三十一日現況

國名	郡名	供用林															
		二百町歩ヨリ三百町歩未滿迄		三百町歩ヨリ四百町歩未滿迄		四百町歩ヨリ五百町歩未滿迄		五百町歩ヨリ六百町歩未滿迄		六百町歩ヨリ千町歩未滿迄		千町歩以上（尚万町歩以上）					
		箇所	反別	箇所	反別	箇所	反別	箇所	反別	箇所	反別	箇所	反別				

○明治廿四年三月發第三三二號山林局長ヨリ各大林區署宛行政區畫別官林反別分級表ノ件ニ付通知」今般訓令第十六號ヲ以テ官林事項報告ノ件御達相成候ニ付テハ從前ノ暦年度統計表ハ廢止ノ義ナレ𪜈該表ニ附屬セル昨廿三年發第六百六十一號達ニ係ル行政區畫別官林反別分級表ノ儀ハ矢張調製シ本年十二月三十一日現在數ヲ以テ廿五年一月二十日ニ其地ヲ發送シテ進達スヘキ報告材料ニ添付（次年モ之ニ準シ）シテ進達可相成此段及通知候也

○明治廿五年四月發第二〇六號山林局長ヨリ北海道廳長官各府縣知事（京都府山梨縣、愛媛縣、神奈川縣ノ一府三縣ヲ除ク）ヘ通牒

本年四月本省訓令第十一號ヲ以テ客年三月本省訓令第十五號書式中第五號表ヘ追加相成タル最低賣價トハ明治二十三年勅令第二百七拾五號官有財産管理規則第十八條第二項ニ所謂各廳ニ於テ定メタル最低賣價ニシテ即チ競爭賣却ナレハ其豫定價格隨意賣却ナレハ其最低ノ見込價格ヲ掲載スヘキ儀ト御承知相成度爲念此段及御通牒候也

○明治二十五年四月戊第五四號山林局長ヨリ各大林區署ヘ通牒

本年四月本省訓令第拾貳號ヲ以テ客年三月本省訓令第十六號書式中第五號表ヘ追加相成タル最低賣價トハ明治廿三年勅令第二百七十五號官有財産管理規則第十八條第二項ニ所謂各廳ニ於テ定メタル最低賣價ニシテ即競爭賣却ナレハ其豫定價格隨意賣却ナレハ其最低ノ見込價格ヲ掲載スヘキ儀ト御承知相成度爲念此段及御通牒候也

○明治廿五年十月甲第三五號農商務次官ヨリ山林局長ヘ達

官有財産管理規則第十七條ニ依リ帝國議會ニ報告スヘキ官有財産增減異動報告樣式概畧別紙ノ通各省協議ノ上相定候條右ニ準據シ來ル十一月十日限リ調製差出スヘシ

◎第七種

（用紙美濃判假綴）
正副四通

局課所管官有財産增減異動報告

自明治廿四年四月一日
至同廿五年三月卅一日

何局
何課
所

某局（課、所）

二百六十三

目次

第一號　土地之部
第二號　家屋之部
第三號　營造物之部
第四號　船舶之部

（第一號）　土地ノ部

所屬廳名	所在地	所用	附屬物	數量	價格	記事
何府縣郡市町村	何敷地			0,000坪000	0,000圓000	本省所管官用地ニ編入但民有地買上（又ハ在來官有地受領）
仝			樹木石類			價格ハ土地ノ價格ニ包含ス
何府縣郡市町村	何敷地			0,000000	0,000000	不用ニ歸シタルニヨリ內務省ヘ還付
仝			樹木石類		00000	仝上土地ニ附屬シテ內務省ヘ引繼ク
何府縣郡市町村	何敷地					
仝			樹木		0000	何々ノ爲メ植付
仝			樹木		00000	自然立枯ニ付減ス
小計				0,000000	0,000000	
所屬廳名	何府縣郡市町村	何敷地		000000	0,000000	支廳目錄地積何坪其價格何圓ノ內何々ニヨリ本行ノ通リ內務省ヘ還付ス
仝			樹木			仝上土地ニ附屬シテ內務省ヘ引繼但價格ハ土地ノ價格ニ包含ス
小計				000000	0,000000	

合計									

（第二號）　家屋ノ部

所在地	種類	附屬物	數量	價格	記事
所屬廳名 何府縣郡市町村	煉化造家屋		0,000 000坪	0,000 000圓	何々ノ爲新設
仝		何々	000 000	0,000 000	仝上
仝		門墻		00 000	仝上
小計			0,000 000	00,000 000	
所屬廳名 何府縣郡市町村	木造家屋		000 000	0,000 000	何々ノ爲增設
仝		何々	00 000	(日)0,000 000 (坪)000 000 (賣)000 000	第一回目錄建坪何坪此價格何圓ノ內不用ニ付賣却
小計			000 000	0,000 000	
合計			0,000 000 000 000	00,000 000 0,000 000	

（第三號）　營造物ノ部

所在地	種類	附屬物	數量	價格	記事
所屬廳名 何府縣郡市町村	煉瓦造建家		0,000 000坪	0,000 000圓	何々ノ爲メ新設
仝	木造建家		0,000 000	0,000 000	仝上
仝		何々	0,000 000	0,000 000	仝上
仝		何々	0,000 000	0,000 000	仝上
仝		電話瓦斯燈等		0,000 000	仝上
仝	木造建家		000 000	(日)0,000 000 (坪)000 000 (賣)000 000	第一回目錄建坪何坪此價格何圓ノ內不用ニ付賣却
仝		何々	000 000	000 000	何々ノ爲摸樣替ニ付第一回目錄建坪何坪此價格何圓ノ內不行ノ通リ減ス
仝		電話電燈等		00 000	不用ニ付取拂
小計				00,000 000 0,000 000	
所屬廳名 何府縣郡市町村	機械		00	0,000 000	何々ノ爲メ購入
仝	軌道		0,000 間	0,000 000	何々ノ爲メ敷地
仝	橋梁		0 所	000 000	何々ノ爲メ架設
小計				0,000 000	

（第四號）　船舶之部

所在地	種類	附屬物數量	價格	記事
所屬廳名	所屬縣郡市町村名			
合計			0'000000000	
全	何府縣郡市町村 蒸滊船	0	0'000000	何々ノ爲メニ購入（又ハ新造）
全	器具			全上但價格ハ本船價格ニ包含ス
全	小艇	0	00000	何々ノ爲メ購入
全	器具		00000	全上
全	小艇			桁腐ニ屬シタルニ依リ賣却
全	器具		0'000000	全上
小計		0	0'000000	
全	何府縣郡市町村 蒸滊船		00000	第一回目錄蒸滊船何艘ノ內一艘付屬ノ器具何々ニ付購入
全	器具		00000	
小計			00000	

合計	

十　表中ノ事項單ニ數字ノミヲ以テ不分明ト思惟スル時ハ備考欄内ニ解說ヲ附スヘシ

十一　總テ契約ノ上處分シタルモノニ對シ更ニ取消處分ヲ爲シタルモノハ其年度内ニ屬スル分ハ表尾ニ口取ヲ爲シテ差引ヲ顯ハシ其年度以前ニ屬スル分ハ單ニ其旨ヲ上申スルモノトス

十二　收入ニ屬スル諸表ハ總テ年度末現在調定高ト符合スルヲ要ス若シ符合セサルモノアルトキハ其備考ニ理由ヲ附記スヘシ

若シ翌年度七月三十一日ニ至ルモ尙ホ收入ニ至ラス翌年度分ニ繰越ストキハ取消訂正ヲ上申スヘシ

十三　諸表ニ於ケル特別ノ規定ハ次ノ如シ

第一號　官林編入表　本表ハ買入及交換取得ヲ除クノ外他地目ヨリ官林ニ編入セル總テヲ掲記スルモノニシテ其期間ニ於テ時々屆出タルモノト異ナラサルヘキハ言ヲ俟タスト雖モ若シ符合セサルモノアル時ハ其理由ヲ備考欄内ニ詳記スルモノトス

箇處欄内ニハ編入后獨立ノ團地トナレル數ヲ掲記シ其編入セル個數ハ別ニ括弧ヲ附シ其右ニ附記スルモノトス

第二號　官林取得表　本表ハ官林トシテ交換取得シ若クハ買入タルモノニシテ實際契約ノ履行ヲ終リタル總テヲ掲記スルモノトス

交換ニハ評定價格ヲ記入シ買入ニハ買入代價ヲ記入ス

箇處欄内ニハ取得后獨立ノ團地トナレル數ヲ掲記シ其取得セル個數ハ別ニ括弧ヲ附シ其右ニ附記スルモノトス

第三號　官林訂正增加表　本表ハ實査增加、誤記訂正等ノ如ク實地官林ノ境域ニハ增減ナク只帳簿上增加セシ分ノミヲ掲記スルモノトス

箇處欄内ニハ訂正后個處ノ增加シタル數ヲ掲記シ其訂正セル個數ハ別ニ括弧ヲ附シ其右ニ附記スルモノトス

第四號　官林增加總括表　本表ハ第一號第二號及第三號表ヲ總括掲記スルモノトス

第五號　官林除却表　本表ハ賣拂、交換離權及讓與ヲ除クノ外官林ヨリ他ニ組替タルモノニシテ實際契約ノ履行ヲ終リタル部分及官林ノ亡失セルモノヲ掲記スルモノトス

事由若シ少數文字ニテ不明ナルトキハ尙ホ備考欄内ニ詳記スヘシ

箇處欄内ニハ除却前一箇處ヲ爲セシ團地數ヲ掲記シ其除却セル箇數ハ別ニ括弧ヲ附シ其右ニ附記スルモノトス

第六號　官林離權表　本表ハ官林ノ賣拂、交換離權及讓與ニシテ契約履行ヲ終リタルモノヲ掲記スルモノトス

事由若シ少數文字ニテ不明ナルトキハ尙ホ備考欄内ニ詳記スヘシ

賣拂ニハ最低價格交換ニハ評定價格讓與ニハ見込價格ヲ記入スヘシ

但シ特賣ニ在リテハ賣拂代價ヲ以テ最低價格ト見做ス

個處欄内ニハ離權前一個處ヲ爲セシ團地數ヲ掲記シ其離權セル個數ハ別ニ括弧ヲ附シ其右ニ附記スルモノトス

第七號　官林訂正減少表　本表ハ實査減少、誤記訂正、重複取消等ノ如ク實地官林ノ境域ニハ影響ナク只帳簿上減少セシ分ノミヲ掲記スルモノトス

個處欄内ニハ訂正后個處ノ減少シタル數ヲ掲記シ其訂正セル個數ハ別ニ括弧ヲ附シ其右ニ

附記スルモノトス

第八號　官林減少總括表　本表ハ第五號第六號及第七號表ヲ總括揭記スルモノトス
訂正減少ノ個處ハ重複取消ノ分ニ限ル

第九號　官林林別異動表　本表ハ供用林ヨリ保存林ニ轉シ若クハ保存林ヨリ供用林ニ轉シタル異動ヲ揭記スルモノトス
個處欄內ニハ異轉后獨立ノ團地トナレル數ヲ揭記シ其異轉個數ハ別ニ括弧ヲ附シ其右ニ附記スルモノトス

理由ノ大意ヲ備考欄內ニ記入スヘシ

第十號　官林現在表　本表ハ該年度末（但シ曆年度末及會計年度末）現在ノ全官林ニ係ル個處面積ヲ揭記スルモノトス

第十一號　保存林別現在表　本表ハ該年度末（但シ曆年度末及會計年度末）現在ノ官林中ノ保存林ヲ類別揭記スルモノトス
水源涵養ト土砂扞止ヲ兼ヌル等數類別ニ亘ルモノ或ハ魚附、廻船目標及防風ヲ兼ヌル等數類別ニ亘ルモノハ其主タルモノニ合算スヘシ

第十二號　苗圃現在表　本表ハ該年度末現在ノ官林苗圃個處及其面積ヲ揭記スルモノトス

第十三號　部合林現在表　本表ハ該年度末現在ノ部分林、賣分山、取分山、衆力山等其產物官民ノ共有ニ係ル總テノ官林ノ部合、個處、面積ヲ揭記スルモノトス
一連續地ト雖モ協同ニアラサル二人以上ノ人民ニ關係シタルモノハ其人數ニヨリ團地數ヲ區分スヘシ

第十四號　上地官林委託現在表　本表ハ該年度末現在ノ社寺ニ委託セル上地官林ヲ揭記スルモノトス
增トハ新タニ委託セルモノヲ云ヒ減トハ委託ヲ解キタルモノヲ云フ

第十五號　官林無料貸地表　本表ハ新舊ヲ論セス該年度內公共用又ハ森林經濟ノ爲メ無料貸付セシ總テヲ揭記スルモノトス
使用種類ヲ次ノ如ク區別ス

一鐵道敷地
一水路敷地（溜池敷地、井戶敷地、用水路敷、惡水路敷、飲料水敷、樋管埋沒敷、河川敷溜井敷等ヲ含ム）
一堤塘敷地
一道路敷地（公共通路敷、道しるべ石建設地敷、並木敷、渡船繫場、道路番人小屋掛敷、道路築設物置場、牛馬繫場、耕地通路敷地等ヲ含ム）
一衛生用地（埋葬場、動物死屍埋却及燒藥場、火葬場、傳染汚物燒藥場、病院用地、圃圃敷地等ヲ含ム）
一公園用地（祭典用地、軍人死亡紀念碑建築地、神社佛閣用地、施待場敷地、公園地等ヲ含ム）
一電機用地（電信柱敷地、電話柱敷地、電燈柱敷地、諸電柱置場等ヲ含ム）
一航路標識地（燈臺用地、航路標用地等ヲ含ム）
一測候所用地

一號砲用地
一官衙用地
一學校用地
一公共建物用地（備荒儲蓄倉庫敷地、町村役場敷地等ヲ含ム）
一避害用地（火災豫防用地、水害豫防用地、風潮除敷地、土砂止設置場等ヲ含ム）
一兵事用地（砲臺用地、火藥庫建設用地、連續演習用地等ヲ含ム）
一林業附帶用地（伐木造材、副產物採取等ノ小屋敷地、木材搬出道路敷地、炭竈敷地、木場作地等ヲ含ム）
一耕耘地（新植ニ當リ整地ノ爲メ貸渡モノ、切替畑、燒畑、豫約開墾等ヲ含ム）
一委託官林使用地

使用種類中尙ホ解說ヲ要スルモノハ備考欄內ニ記入スヘシ

第十六號　官林產物無料下付表　本表ハ該年度內造林手入及官林保護ノ報酬トシテ人民ニ無料下付セル枝條及諸副產物ヲ揭記スルモノトス

第十七號　部合木分配表　本表ハ該年度內實行セル諸部合林ノ產物分配ヲ揭記スルモノニシテ代價ニテ分配セルモノ及木材分配ニテ該年度內ニ賣拂ヒタルモノハ主副產物處分報告書ト符合スルヲ要シ又該年度內ニ賣却セサルモノハ其見積價格ヲ價格欄內ニ朱記スルモノトス

其他價格ノ產物種類ハ備考欄內ニ記入スヘシ

第十八號　官林被害表　本表ハ該年度內發見セシ官林ノ土地產物ニ係ル諸被害ヲ揭記スルモノトス

立木竹被害ノ外ハ其被害物種類ヲ備考欄內ニ揭記スヘシ

第十九號　官林賠償及辨償處分表　本表ハ該年度內處分セシ官林ノ損害ニ對スル賠償及辨償ヲ揭記スルモノトス

損害ノ事由說明ヲ要スルモノハ備考欄內ニ記入スヘシ

第二十號　官林司法警察事故表　本表ハ該年度內取扱タル官林ニ關スル司法警察ノ事故ヲ揭記スルモノトス

十三　會計年度末諸表進達ノ際ハ諸表面ニ明示シ能ハサル事實ノ成跡、施行ノ影響、新着手ノ事業等ヲ別紙ニ略記シテ添附スルモノトス

◎第七種

官林事項報告書式

（本書式ハ凡テ中央ニ六分ノ餘白ヲ存シ毎號ヲ別冊ニ編綴スヘキ筈ナレ𪜈之ヲ略ス）

官林編入表

第一號　　何大林區署　　明治何年度第何期

府縣	供用 個處	供用 面積 町	供用 立木 尺〆	供用 立木 棚	供用 立竹 束	保存 個處	保存 面積 町	保存 立木 尺〆	保存 立木 棚	保存 立竹 束
東京	1(2)	30 0000	1,500	800	135	(7)	130 0000	23,000	1,000	0
埼玉	0	0	0	0	0	(2)	3 0000	1,000	0	0
千葉	1(6)	15 2000	1,700	0	83	0	0	0	0	0
群馬	(21)	23 0000	130	325	28	2(5)	80 0000	8,000	0	0
茨城	(1)	0 3000	0	85	0	0	0	0	0	0
計	2(30)	68 5000	3,330	1,210	246	2(14)	213 0000	32,000	1,000	0

合計 個處	合計 面積 町	合計 立木 尺〆	合計 立木 棚	合計 立竹 束	備考
1(7)	160 0000	24,300	1,800	135	
(2)	3 0000	1,000	0	0	
1(6)	15 2000	1,400	0	83	
2(26)	143 0000	8,100	325	28	
(1)	0 3000	0	85	0	
4(44)	281 5000	25,230	2,210	246	

官林買入表

第二號　　何大林區署　　明治何年度第何期

府縣	種類	林別	土地 箇處	土地 面積	土地 評定價格（買入代價）	主產物 用材	主產物 薪材	主產物 竹	主產物 評定價格（買入代價）	副產物 重要種類	副產物 評定價格（買入代價）	計 評定價格	計 買入代價	備考
				町	圓	尺	棟	束	圓		圓	圓	圓	
東京	交換	供用	(10)	50 0000	250 000	0	1,500 000	700	2,000 000	苗圃	30 000	2,280 000	0	
		保存	(2)	15 0000	90 000	12,000 000	0	0	6,000 000		0	6,090 000	0	
		計	(12)	65 0000	340 000	12,000 000	1,500 000	700	8,000 000		30 000	8,370 000	0	
	買入	保存	1(7)	80 0000	400 000	1,600 000	800 000	0	2,500 000		0	0	2,900 000	
		計	1(7)	80 0000	400 000	1,600 000	800 000	0	2,500 000		0	0	2,900 000	
	合計	供用	(10)	50 0000	250 000	0	1,500 000	700	2,000 000		30 000	2,280 000	0	
		保存	1(9)	95 0000	490 000	13,600 000	800 000	0	8,500 000		0	6,090 000	2,900 000	
埼玉	買入	供用	1(15)	90 0000	90 000	0	10,000 000	0	5,000 000	樹實	50 000	0	5,140 000	
		保存	1(7)	50 0000	100 000	100,000 000	0	0	100,000 000		0	0	100,100 000	
		計	2(22)	140 0000	190 000	100,000 000	10,000 000	0	105,000 000		30 000	0	105,240 000	
	合計	供用	1(15)	90 0000	90 000	0	10,000 000	0	5,000 000		50 000	0	5,140 000	
		保存	1(7)	50 0000	100 000	100,000 000	0	0	100,000 000		0	0	100,100 000	
茨城				（以下記載例同上）										
	合計	供用	2(20)	118 0000	590 000	15,000 000	80,000 000	0	55,000 000		35 000	37,500 000	18,126 000	
		保存	3(8)	78 0000	312 000	90,000 000	7,000 000	0	41,400 000		70 000	57,200 000	34,132 000	
通計		供用	3(45)	258 0000	930 000	15,000 000	91,500 000	700	62,000 000		115 000	39,780 000	23,265 000	
		保存	5(24)	223 0000	902 000	203,600 000	7,800 000	0	199,900 000		70 000	63,290 000	137,132 000	
總計			8(69)	481 0000	1,832 000	218,600 000	99,300 000	700	261,900 000		185 000	103,070 000	160,397 000	

第三號

官林訂正何大增加表

區署　　明治何年度第何期

府縣	事由	供用林 箇處	供用林 面積 舊	供用林 面積 訂正	供用林 面積 增	保存林 箇處	保存林 面積 舊	保存林 面積 訂正	保存林 面積 增	計 箇處	計 面積 舊	計 面積 訂正	計 面積 增	備考
			町	町	町		町	町	町		町	町	町	
東京	實査增	(7)	1,000 0000	1,200 0000	200 0000	(5)	100 0000	120 0000	20 0000	(12)	1,100 0000	1,320 0000	220 0000	
	誤記訂正	1(1)	0	0	0	0	0	0	0	1(1)	0	0	0	
	計	1(8)	1,000 0000	1,200 0000	200 0000	(5)	100 0000	120 0000	20 0000	1(13)	1,100 0000	1,320 0000	220 0000	
埼玉	實査增	(8)	100 0000	120 0000	20 0000	0	0	0	0	(8)	100 0000	120 0000	20 0000	
	誤記訂正	0	0	0	0	(1)	1 0000	5 0000	4 0000	(1)	1 0000	5 0000	4 0000	
	計	(8)	100 0000	120 0000	20 0000	(1)	1 0000	5 0000	4 0000	(9)	101 0000	125 0000	24 0000	
合計		1(16)	1,100 0000	1,320 0000	220 0000	(6)	101 0000	125 0000	24 0000	2(22)	1,201 0000	1,445 0000	244 0000	

官林增加

第四號　　何大林

府縣	編入 供用 箇處	編入 供用 面積	編入 保存 箇處	編入 保存 面積	編入 計 箇處	編入 計 面積	取得 供用 箇處	取得 供用 面積	取得 保存 箇處	取得 保存 面積	取得 計 箇處	取得 計 面積
		町		町		町		町		町		町
東京	1(2)	30 0000	(7)	130 0000	1(9)	160 0000	(10)	50 0000	1(9)	95 0000	1(19)	145 0000
埼玉	0	0	(2)	3 0000	(2)	3 0000	1(15)	90 0000	1(7)	50 0000	2(22)	140 0000
千葉	1(6)	15 2000	0	0	1(6)	15 2000	0	0	0	0	0	0
群馬	(21)	23 0000	2(5)	80 0000	2(26)	103 0000	0	0	0	0	0	0
茨城	(1)	0 3000	0	0	(1)	0 3000	2(20)	118 0000	3(8)	78 0000	5(28)	196 0000
計	2(30)	68 5000	2(14)	213 0000	4(41)	281 5000	3(45)	258 0000	5(24)	223 0000	8(69)	481 0000

總括表

區署　　明治何年度第何期

府縣	訂正增加 供用 箇處	訂正增加 供用 面積	訂正增加 保存 箇處	訂正增加 保存 面積	訂正增加 計 箇處	訂正增加 計 面積	合計 供用 箇處	合計 供用 面積	合計 保存 箇處	合計 保存 面積	合計 計 箇處	合計 計 面積	備考
		町		町		町		町		町		町	
東京	1(8)	200 0000	(5)	20 0000	1(13)	220 0000	2(20)	280 0000	1(21)	245 0000	3(41)	252 0000	
埼玉	(8)	20 0000	(1)	4 0000	(9)	24 0000	1(23)	110 0000	1(10)	57 0000	2(33)	167 0000	
千葉	0	0	0	0	0	0	1(6)	15 2000	0	0	1(6)	15 2000	
群馬	0	0	0	0	0	0	(21)	23 0000	2(5)	80 0000	2(26)	103 0000	
茨城	0	0	0	0	0	0	2(21)	118 3000	3(8)	78 0000	5(29)	196 3000	
計	1(16)	220 0000	(6)	24 0000	1(22)	244 0000	6(91)	546 5000	7(44)	460 0000	13(135)	1,006 5000	

第五號

官林除却表

何大林

區署　　明治何年度第何期

府縣	種類	事由	林別	箇處	面積	立木 尺	立木 棚(束)	立竹 束(本)	備考
					町				
東京	組替	下戻	供用	1(2)	15 0000	2,000 000	50 000	0	談調ノ爲メ官林ニ編入シ在リタルニヨリ所有者ニ下戻ス
		道路	供用	(10)	1 0000	500 000	0	50	道路開設ニ付道敷ノ爲メ引渡ス
		公園	保存	(1)	2 0000	1,000 000	800 000	0	公園設置ニ付引渡ス
		山林	供用	(2)	1 0000	0	70 000	0	談調取扱ニ付官有山林ニ組替
		計		1(15)	19 0000	3,500 000	920 000	50	
	亡失	水害	供用	2(10)	100 0000	50,000 000	100 000	170	
		震災	保存	(8)	15 0000	30,000 000	80 000	0	
		計		2(18)	115 0000	80,000 000	180 000	170	
	合計		供用	3(24)	117 0000	52,500 000	220 000	220	
			保存	(9)	17 0000	31,000 000	880 000	0	
埼玉	組替	原野	供用	(7)	8 0000	0	15 000	0	談調取扱ニ付官有山林ニ組替
		荒蕪地	供用	(1)	1 2000	0	0	0	談調取扱ニ付荒蕪地ニ組替
		計		(8)	9 2000	0	15 000	0	
	亡失	水害	保存	(5)	6 0000	15 000	7 000	0	
		計		(5)	6 0000	15 000	7 000	0	
	合計		供用	(8)	9 2000	0	15 000	0	
			保存	(5)	6 0000	15 000	7 000	0	
茨城				（以下記載例同上）					
	合計		供用	(12)	13 0000	150 000	70 000	200	
			保存	(6)	7 0000	800 000	0	0	
通計			供用						
			保存						
總計									

官林離權表

第六號　　何大林區署　　明治何年度第何期

府縣	種類	事由	林別	土地							主產物									副產物					備考
				箇處	面積		最低價格 評定價格 見込價格		賣拂代價		用材		薪材		竹	評定價格		賣拂代價		重要種類	評定價格		賣拂代價		
					町		圓		圓		尺	〃	個		束	圓		圓			圓		圓		
東京	賣拂	公賣	供用	8(10)	18	0000	200	000	230	000	800	000	50	000	0	500	000	535	000	菌蕈柴草	5	000	7	500	
		特賣	保存	2(2)	7	0000	16	000	15	000	20	000	0		90	28	000	28	000		0		0		
		計		10(12)	25	0000	215	000	245	000	820	000	50	000	90	528	000	563	000		5	000	0	000	
	交換	地形整理	供用	1(3)	8	0000	240	000	0		500	000	70	000	0	550	000	0			0		0		
		計		1(3)	8	0000	240	000	0		500	000	70	000	0	550	000	0			0		0		
	讓與	道路	供用	(7)	20	0000	600	000	0		700	000	500	000	180	1,200	000	1,200	000		0		0		
		道路	保存	(1)	1	2000	20	000	0		500	000	0		0	500	000	500	000		0		0		
		公園	保存	1(1)	2	3000	15	000	0		0		700	000	0	800	000	860	000		0		0		
		並木敷	供用	(10)	1	2000	6	000	0		800	000	0		0	400	000	410	000		0		0		
		學校	供用	(3)	0	5000	2	500	0		1,200	000	80	000	150	1,600	000	1,600	000		0		0		
		學校	保存	(1)	0	1000	2	000	0		200	000	0		50	215	000	215	000		0		0		
		計		1(23)	25	3000	645	500	0		3,400	000	1,280	000	380	4,775	000	4,785	000		0		0		
	合計		供用	9(33)	47	7000	1,048	500	230	000	4,000	000	700	000	330	4,250	000	3,745	000		5	000	7	000	
			保存	3(5)	10	6000	52	000	15	000	730	000	700	000	140	1,603	000	105	000		0		0		
埼玉	賣拂		(以下記載例同上)																						
	交換																								
	讓與																								
	合計		供用	7(21)	53	0000	750	000	320	000	2,500	000	820	000	70	100	000	2,500	000		17	000	17	000	
			保存	2(10)	28	0000	500	000	200	000	3,000	000	500	000	180	4,500	000	4,000	000		50	000	30	000	
通計			供用																						
			保存																						
總計																									

官林訂正

第七號　　何大林

府縣	事由	供用林 箇處	面積 舊 町	訂正 町	減 町	保存林 箇處	面積 舊 町	訂正 町	減 町
東京	實査減	(7)	150 0000	100 0000	50 0000	(2)	15 0000	10 0000	5 0000
	誤記訂正	(3)	3 0000	2 0000	1 0000	0	0	0	0
	重複取消	1(2)	10 0000	0	10 0000	0	0	0	0
	計	1(12)	163 0000	102 0000	61 0000	(2)	15 0000	10 0000	5 0000
埼玉	實査減	(5)	200 0000	180 0000	20 0000	0	0	0	0
	計	(5)	200 0000	180 0000	20 0000	0	0	0	0
茨城	誤記訂正	0	0	0	0	(2)	20 0000	15 0000	5 0000
	重複取消	2(3)	5 0000	0	5 0000	0	0	0	0
	計	2(3)	5 0000	0	5 0000	(2)	20 0000	15 0000	5 0000
合計		3(20)	368 0000	282 0000	86 0000	(4)	35 0000	25 0000	10 0000

減少表

區署　　明治何年度第何期

計 箇處	面積 舊 町	訂正 町	減 町	備考
(9)	165 0000	110 0000	55 0000	
(3)	3 0000	2 0000	1 0000	
1(2)	10 0000	0	10 0000	
1(14)	178 0000	112 0000	66 0000	
(5)	200 0000	180 0000	20 0000	
(5)	200 0000	180 0000	20 0000	
(2)	20 0000	15 0000	5 0000	
2(3)	5 0000	0	5 0000	
2(5)	25 0000	15 0000	10 0000	
3(24)	403 0000	307 0000	96 0000	

官林減少

第八號　　何大林

府縣	除				却				離				極			
	供用		保存		計				供用		保存		計			
	箇處	面積	箇處	面積	箇處	面積			箇處	面積	箇處	面積	箇處	面積		
		町		町		町				町		町		町		
東京	3(24)	117	0000	(9)	17	0000	3(33)	134	0000	9(33)	47	7000	3(5)	10	6000	12(38)	58	3000
埼玉	(8)	9	2000	(5)	6	0000	(13)	15	2000	7(21)	53	0000	2(10)	28	0000	9(31)	81	0000
茨城	(12)	13	0000	(3)	7	0000	(15)	20	0000	0	0		0	0		0	0	
計	3(44)	139	2000	(17)	30	0000	3(61)	169	2000	16(54)	100	7000	5(15)	38	6000	21(69)	139	3000

總括表

區署　　明治何年度第何期

訂正減少						合計						備考
供用		保存		計		供用		保存		計		
箇處	面積	箇處	面積	箇處	面積	箇處	面積	箇處	面積	箇處	面積	
	町		町		町		町		町		町	
1(12)	61 0000	(2)	5 0000	1(14)	66 0000	13(69)	225 7000	3(16)	32 6000	16(85)	258 3000	
(5)	20 0000	0	0	(5)	20 0000	7(34)	82 2000	2(15)	34 0000	9(49)	116 0000	
2(3)	5 0000	(2)	5 0000	2(5)	10 0000	2(15)	18 0000	(5)	12 0000	2(20)	30 0000	
3(20)	86 0000	(4)	10 0000	3(24)	96 0000	22(118)	325 9000	5(36)	78 6000	27(154)	404 3000	

第九號

官林林別異動表

何大林區署　　明治何年度第何期

府縣	供用林ニ轉セシ分			保存林ニ轉セシ分			差引 増						差引 減						備考
							供用			保存			供用			保存			
	個處	面積		個處	面積		個處	面積		個處	面積		個處	面積		個處	面積		
		町			町			町			町			町			町		
東京	(3)	12	0000	2(4)	10	0000	0	2	0000	2(1)	0		2(1)	0		0	2	0000	
埼玉	2(4)	20	0000	1(3)	10	0000	1(1)	10	0000	0	0		0	0		1(1)	10	0000	
茨城	(2)	10	0300	2(5)	30	0000	0	0		2(3)	20	0000	2(3)	20	0000	0	0		
群馬	(1)	5	0000	0	0		(1)	5	0000	0	0		0	0		(1)	5	0000	
計	2(10)	47	0000	5(12)	50	0000	1(2)	17	0000	4(4)	20	0000	1(4)	20	0000	1(2)	17	0000	